新潟県埋蔵文化財調査報告書　第198集

北陸新幹線関係発掘調査報告書XI

深 谷 遺 跡

２００９

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

北陸新幹線関係発掘調査報告書XI

深谷（ふかだに）遺跡

２００９

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

北陸新幹線は、東京を起点に上越新幹線高崎駅から分岐して、長野市・上越市・糸魚川市・富山市・金沢市・福井市を経て新大阪に至る総延長700kmの新幹線鉄道です。開通により北陸地方と首都圏・関西圏は短時間で結ばれ、日本海沿岸地域の産業・経済・文化の交流発展に多大な効果をもたらすものと期待されています。

本書は、この北陸新幹線建設に先立ち、平成18・19年度に実施した深谷遺跡の発掘調査報告書です。調査の結果、丘陵上に営まれた縄文時代早期～前期の遺跡であることが明らかになりました。遺跡は集石や焼土が堆積する土坑、道状遺構の検出、蛇紋岩製磨製石斧の製作や多くの石錘の出土から生業活動時に訪れるキャンプ地と思われます。これらの発見は、生業活動の実態を考える上で、多くの情報を提供するものと思われます。

今回の調査成果が、地域の歴史を解明するための資料として広く活用され、埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大なご協力とご援助を賜った糸魚川市教育委員会、並びに地元住民の方々、また、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配を賜った独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構北陸新幹線第二建設局、同糸魚川鉄道建設所の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成21年2月

新潟県教育委員会

教育長　武　藤　克　己

例　　言

1　本報告書は新潟県糸魚川市大字田伏字深谷ほかに所在する深谷遺跡の発掘調査記録である。

2　発掘調査は北陸新幹線建設に伴い独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下、鉄道・運輸機構）から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したものである。

3　発掘調査は県教委が調査主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に委託し、平成18年度と平成19年度に実施したものである。

4　埋文事業団は発掘調査作業および関連諸工事を、平成18年度は株式会社吉田建設に、平成19年度は吉田建設・株式会社国際興業協同企業体に委託した。

5　出土遺物及び調査に係る各種資料は、一括して県教委が保管・管理している。

6　遺物の注記は深谷遺跡の略記号「フカタ」とし、出土地点や層位を続けて記した。

7　本書の図中で示す方位は、すべて真北である。

8　遺物番号は種別に係りなく通し番号とし、本文および観察表・図面図版・写真図版の番号は一致している。

9　本文中の註は脚註とした。また、引用文献は著者および発行年（西暦）を文中に［ ］で示し、巻末に一括して掲載した。ただし、第Ⅵ章の自然科学分析については、章末に記載した。

10 本文中の敬称は省略した。

11 自然科学分析は以下の機関に委託した。

　土器付着物の赤外線分光分析……パリノ・サーヴェイ株式会社、第Ⅵ章１に掲載

　遺構埋土中の種実等同定、動物遺体同定……株式会社古環境研究所、第Ⅵ章２・３に掲載

12 調査成果の一部は現地説明会（平成17年11月３日）で公表しているが、本報告書をもって正式な報告とする。

13 遺構・遺物図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、株式会社セビアスに委託した。写真は全てデジタルデータを使用し、遺構写真はポジフィルムからデジタルデータ（フォトCD）化し、遺物写真はデジタルカメラで撮影した。なお図版作成・編集作業に係り、業者に支給した資料は以下のとおりである。

　本文・挿図：Word形式・Excel形式データ、トレース原図、貼り込み版下

　遺構図面図版：DXF形式・PDF形式の測量データ、原図、レイアウト図、文字データ

　遺物図面図版：個別トレース図、原図、レイアウト図

　写真図版：デジタルデータ（CD）・レイアウト図

14 本書の執筆は、春日真実（埋文事業団　班長）、細井佳浩（株式会社吉田建設埋蔵文化財調査部　調査員）、畠野義昭（埋文事業団　主任調査員）、飯坂盛泰（同　主任調査員）がこれにあたり、編集は細井、飯坂が担当した。執筆分担は以下のとおりである。

　第Ⅰ章、第Ⅲ章１……春日　　第Ⅲ章２、第Ⅳ章、第Ⅴ章１・2A・B、第Ⅶ章……細井

　第Ⅴ章３……畠野　　第Ⅱ章、第Ⅴ章2C……飯坂

15 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々および機関から多くのご教示・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。（敬称略　五十音順）

　木島　勉　　澁谷昌彦　　関根愼二　　谷藤保彦　　山岸洋一　　糸魚川市教育委員会

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査と整理作業 …… 2

A　試掘確認調査 …… 2

B　本発掘調査 …… 2

C　調査体制 …… 3

D　整理作業 …… 4

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 5

1　遺跡周辺の地理的環境 …… 5

2　歴史的環境 …… 5

第Ⅲ章　調査の概要 …… 7

1　グリッドの設定 …… 7

2　基本層序 …… 7

第Ⅳ章　遺　　構 …… 9

1　概　　要 …… 9

2　各　　節 …… 9

A　集石土坑 …… 9

B　土　　坑 …… 9

C　ピット・溝 …… 11

D　道状遺構 …… 12

第Ⅴ章　遺　　物 …… 14

1　概　　要 …… 14

2　縄文時代の遺物 …… 14

A　土　　器 …… 14

B　土製器 …… 18

C　石　　器 …… 18

D　石製器 …… 22

3　古代以降の遺物 …… 22

第Ⅵ章　自然科学分析 …… 23

1　土器付着物の赤外線分光分析について …… 23

A　試　　料 …… 23
B　分析方法 …… 23
C　結果および考察 …… 24
2　種実等同定 …… 25
A　はじめに …… 25
B　試　　料 …… 25
C　方　　法 …… 25
D　結　　果 …… 25
E　所　　見 …… 25
3　動物遺体同定 …… 26
A　はじめに …… 26
B　試　　料 …… 26
C　方　　法 …… 26
D　結　　果 …… 26
E　所　　見 …… 27
第Ⅶ章　ま　と　め …… 28
1　土　　器 …… 28
2　遺　　構 …… 29
《要　　約》 …… 31
《引用・参考文献》 …… 31
《観 察 表》 …… 33

挿図目次

第 1 図　北陸新幹線路線図と遺跡の位置 …… 1
第 2 図　確認調査トレンチ位置図 …… 2
第 3 図　深谷遺跡と周辺の縄文時代遺跡 …… 6
第 4 図　グリッド設定図 …… 7
第 5 図　土層柱状図 …… 8
第 6 図　縄文土器分布図 …… 15
第 7 図　磨製石斧未成品出土分布図 …… 20
第 8 図　蛇紋岩製磨製石斧の製作過程 …… 20
第 9 図　石錘出土分布図 …… 22
第10図　土器付着物状況 …… 23
第11図　FT-IR スペクトル …… 24
第12図　動物遺存体 …… 27

表目次

第 1 表　主要グリッドの座標(旧測地) …… 7
第 2 表　縄文土器グリッド別重量 …… 15
第 3 表　組成と石材 …… 18
第 4 表　磨石類分類別出土数 …… 21
第 5 表　石錘分類別出土数 …… 21
第 6 表　石錘重量分布表 …… 21

図 版 目 次

［図面］

図版１　遺構全体図
図版２　遺構分割図（1）・個別図（1）
図版３　遺構分割図（2）
図版４　遺構個別図（2）
図版５　遺構個別図（3）
図版６　縄文土器（1）
図版７　縄文土器（2）
図版８　縄文土器（3）
図版９　縄文時代の石器（1）
図版10　縄文時代の石器（2）
図版11　縄文時代の石器（3）
図版12　縄文時代の石器（4）
図版13　縄文時代の石器（5）
図版14　縄文時代の石製品、古代・中世の遺物

［写真］

図版15　遺跡遠景、SD5土層断面
図版16　遺跡近景、調査区全景
図版17　SD6全景、SD5全景
図版18　基本層序　SD5、SD6、SD10
図版19　SS7、SK1、SK4、SK8、SK9
図版20　SK2、SK3、SK12、SK13
図版21　SK15、SK17～SK20、SK27
図版22　SK22～SK26、SK28、SK29、P14
図版23　P160、遺物出土状況、平成19年調査SD5
図版24　縄文時代の土器（1）
図版25　縄文時代の土器（2）
図版26　縄文時代の石器（1）
図版27　縄文時代の石器（2）
図版28　縄文時代の石器（3）・石製品、古代・中世の遺物

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

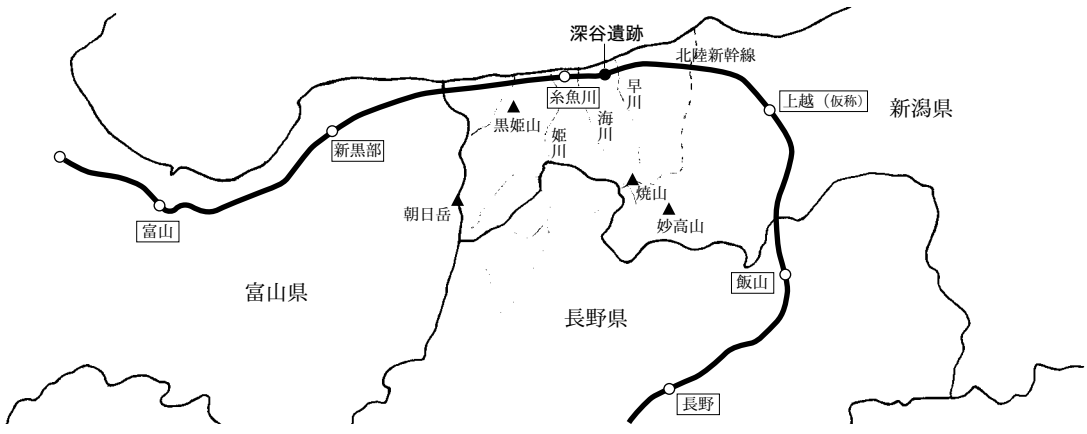
北陸新幹線は、全国新幹線鉄道整備法に基づき建設される新幹線鉄道である。東京を起点とし、上越新幹線高崎駅で分岐して、長野市・上越市・糸魚川市・富山市・金沢市・福井市等の主要都市を経由し、新大阪に至る延長約700km（うち東京・高崎間105kmは上越新幹線と共用）の路線である。このうち、高崎・長野間は、平成９年10月から営業運転している。この新幹線の全通は、北陸地方と首都圏・関西圏を短時間で結ぶと同時に、日本海沿岸地域の産業・経済・文化の交流発展にも多大な効果をもたらすものと期待されている。

上越市から富山市までの約110kmの区間は、平成５年９月に糸魚川市～魚津市間が新幹線鉄道規格路線としての工事実施計画が認可され、平成13年４月には上越～糸魚川間の新規着工及びフル規格化が決定した。これを受けて、鉄道・運輸機構と県教委との間で、建設用地内における埋蔵文化財の分布調査・試掘確認調査等に関する協議が本格化した。

平成13年５月に鉄道・運輸機構から分布調査の依頼を受けた県教委は、同年10月に分布調査を実施し、地表の遺物の採集に努めた。その結果、周知の姫御前遺跡ほかの地点で数点の遺物を採集し法線内数か所に遺跡が存在する可能性があることを報告した。

これを受けて県教委は北陸新幹線用地の試掘確認調査を実施することとなった。県教委から委託を受けた埋文事業団は、平成17年11月29日～12月７日（実質６日間）の間、糸魚川市田伏字深谷地内の北陸新幹線用地において試掘確認調査を行った。調査の結果、16か所のトレンチのうち７か所で遺物が出土した。遺物が出土した地点には周知の遺跡は確認されておらず、これを深谷遺跡とした。事業団は深谷遺跡1,250m^{2}の本発掘調査が必要であることを県教委に報告し、県教委はこのことを鉄道・運輸機構に伝えている。

その後県教委と鉄道・運輸機構および埋文事業団の三者は協議を重ね、平成18年７月から深谷遺跡の本発掘調査を実施することとなった。



第１図　北陸新幹線路線図と遺跡の位置

2　調査と整理作業

A　試掘確認調査（第2図）

深谷遺跡に係る試掘確認調査は、平成17年11月29日～12月7日（実質6日間）に2,250m^{2}を対象として実施した。調査の方法は工事用地内に試掘坑（トレンチ）を任意に設定したうえで、人力による掘削・精査を行い、その後、土層の堆積状況、トレンチ位置、遺構・遺物の検出状況等を図面・写真等に記録するものである。掘削に重機を使用しなかったのは、現状が山林であり樹木の伐採が未了であったため進入路が確保できなかったことが理由である。

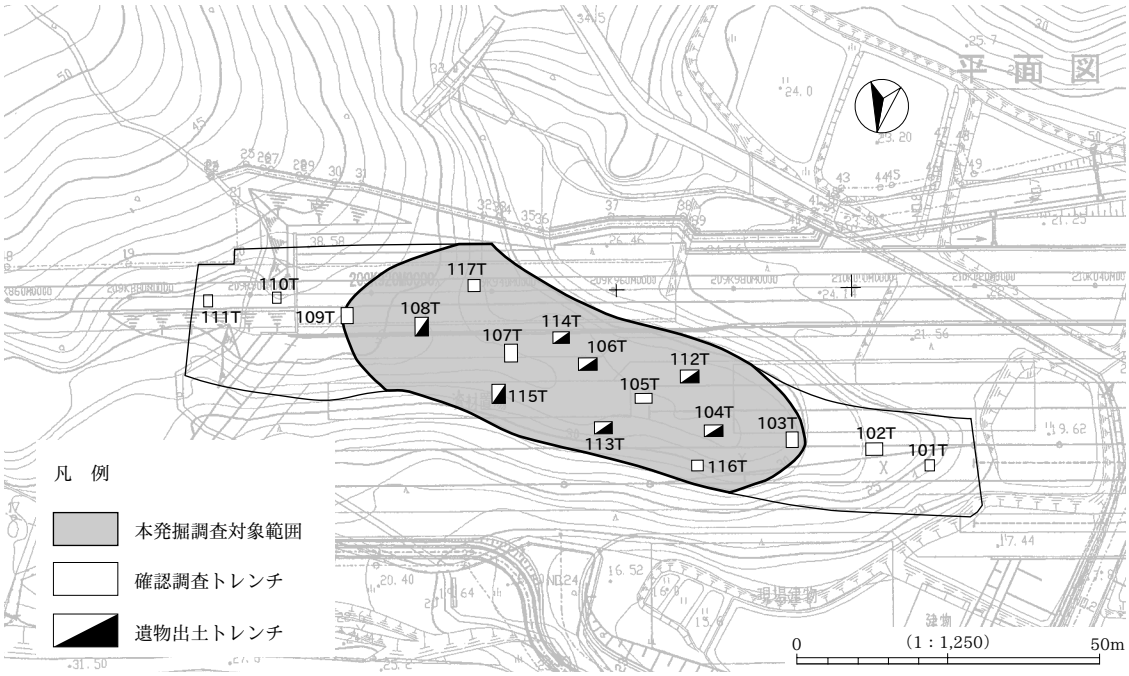
トレンチの掘削深度は、対象地が丘陵上であることから50cm前後を目途とした。調査面積は32m^{2}で、対象面積2,250m^{2}に対する試掘確認率は1.4％である。調査の結果、1,250m^{2}の本発掘調査が必要となった。104・106・108・112～115トレンチで縄文時代前期の土器や石錘・磨製石斧・剥片などの石器が出土し、特に108・112トレンチから遺物が多く発見され、遺物包含層までの深度は10～20cm、包含層の厚さは10～20cmであった。ここは、これまで遺跡の存在が知られておらず、遺跡の名称は小字名にちなんで深谷遺跡とした。

B　本発掘調査

平成18年度

実施事前準備　平成18年月7月から本発掘調査に着手するため、7月3日に事務所設置等の諸準備に取りかかった。

重機掘削　平成18年7月11日から表土等の掘削を行った。盛土・表土は、調査員立会いのもと重機により掘削した。遺物包含層は基本層序のⅡ層であり、Ⅰ層を中心に掘削した。



第2図　確認調査トレンチ位置図

人力掘削等　人力による掘削は、平成18年8月4日から開始した。掘削は移植ゴテ・竹べらなどを用い慎重に掘削した。遺物が希薄な地点や層位の確認にはスコップも用いた。遺物の取り上げは2m毎の小グリッド（第Ⅲ章1参照）を基本とし、遺構出土の遺物は遺構名を付した。なお、遺構番号は、遺構の種類（土坑・溝・ピットなど）にかかわらず、連番とした。

写真撮影　現地の遺構等の個別写真撮影は人力掘削と平行して各調査員がおこなった。35mmリバーサルフィルム（ISO100）の撮影を基本として、メモ写真などでデジタルカメラを使用した。また、株式会社JT空撮にラジコン・ヘリコプターによる航空写真撮影を委託し、平成18年10月31日に実施した。

現地説明会　平成18年11月3日（祝日）に近接する山岸遺跡（糸魚川市田伏字山岸）とあわせ現地説明会を実施し、調査成果の一部を公表した。

掘り残し確認　航空写真撮影後、遺構・遺物が多く検出された地点を中心に人力でトレンチ掘削を行い、掘り残した遺構・遺物が無いか確認した。これを含め、11月17日には平成18年度の現地作業が終了した。

平成19年度

平成18年度の調査で検出された道状遺構（SD5・6）の延長を確認するために南北にそれぞれ3ヵ所のトレンチを設定した。調査は平成19年4月12日に開始し4月23日に終了した。

C　調査体制

調査体制は以下のとおりである。

確認調査

調査期間	平成17年10月15日～11月15日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）
調査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　武藤　克己）
総括	波多　俊二（事務局長）
管理	長谷川二三夫（総務課長）
庶務	長谷川　靖（総務課主任）
調査総括	藤巻　正信（調査課長）
調査担当	寺﨑　裕助（調査課　試掘確認調査担当課長代理）
職員	辻　　範朗（調査課　主任調査員）
	田中　一穂（調査課　嘱託員）
	尾崎　高宏（新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係　主任調査員）

本発掘調査

平成18年度

期間	平成18年7月3日～11月17日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）
調査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　武藤　克己）
総括	波多　俊二（事務局長）
管理	斎藤　　栄（総務課長）

庶　　務　　長谷川　靖（総務課班長）
調 査 総 括　　藤巻　正信（調査課長）
指　　導　　寺﨑　裕助（調査課担当課長代理）
調 査 担 当　　春日　真実（調査課班長）
職　　員　　畠野　義昭（調査課主任調査員）
本発掘調査委託　　株式会社吉田建設　見附支店
現 場 代 理 人　　大野　哲也
調　　査　　員　　細井　佳浩　　矢部　英生
補助員（整理）　　矢部千栄子　　蕗谷　容子　　中原　友子　　五十嵐チヨエ　　植木　紀子

平成19年度

期　　間　　平成19年4月12日～4月23日
調 査 主 体　　新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）
調　　査　　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　武藤　克己）
総　　括　　木村　正昭（事務局長）
管　　理　　斎藤　　栄（総務課長）
庶　　務　　長谷川　靖（総務課班長）
調 査 総 括　　藤巻　正信（調査課長）
指　　導　　寺﨑　裕助（調査課担当課長代理）
調 査 担 当　　春日　真実（調査課班長）
職　　員　　飯坂　盛泰（調査課主任調査員）
本発掘調査委託　　株式会社吉田建設・株式会社国際興業協同企業体
現 場 代 理 人　　小川　昭二
調　　査　　員　　継　　実　　矢部　英生　　伊藤　正志

D　整理作業

整理作業は、現地調査と平行しながら進めた。遺物の水洗および注記の一部、台帳類の整備を現地事務所で行い、遺物の注記・接合・復元・実測・写真撮影、図面類の修正・レイアウト、原稿作成などを新潟市西蒲区の株式会社吉田建設整理事務所で実施した。整理の体制は本発掘調査と同じであるが、縄文時代の石器実測図作成では水落雅明（株式会社吉田建設調査補助員）から御助力を頂いた。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡周辺の地理的環境

深谷遺跡は糸魚川市田伏に所在する。糸魚川市は新潟県の最西端に位置し、西は富山県に接し、親不知では日本アルプス北端の切り立った断崖が日本海に落ち込んでいる。南側は長野県と接し、焼山（2,400m）や妙高山（2,454m）などの西頸城山地が東西方向に連なっている。これらの山地から海川・早川・姫川などの急流河川が北流し、海岸線と平行に走る砂丘と河川谷口の間に扇状地状の低地や数段の河岸段丘を形成している。糸魚川市の市街や幹線道路は砂丘上に立地し、人口は50、394人（平成18年10月1日現在）、面積は746.24m^{2}である。姫川沿いには地質的に日本を東北日本と西南日本とに2分する糸魚川―静岡構造線が走っており、西南日本は、中・古生代の石灰岩・頁岩などの堆積岩・変成岩類からなるのに対して、構造以東の東北日本は新生第三紀～第四紀にかけて堆積した堆積岩・火成岩類からなる。ヒスイ・石灰岩等の鉱物資源や水資源などは豊富ではあるが、豪雪地帯であることや地すべり・風水害・波浪などの自然災害が発生しやすい環境でもあり住民生活に大きな影響をもたらしている。

深谷遺跡は、早川と海川の間の西頸城山地から日本海へと伸びる丘陵の枝尾根末端、舌状に張り出した段丘上に位置する。海岸までの距離は約600mで、標高は約33mである。

2　歴史的環境（第3図）

深谷遺跡周辺の縄文時代の遺跡は、海川右岸や姫川右岸の河口岸に階段状に発達した河岸段丘と早川下流域左岸の河岸段丘に分布する。特に、遺跡は海川右岸と姫川左岸の河岸段丘上に多く営まれている（第2図）。海岸砂丘と丘陵の間の沖積地に立地する縄文時代の遺跡は少ないが、六反田南遺跡（5）で中期の竪穴住居などの遺構や遺物が見つかっている事実から、扇状地や段丘が沖積地に埋没している所では遺跡が発見される可能性がある。

海川右岸の河岸段丘上の遺跡は、上位の段丘に小出越（9）・小畑（13）・高峯（15）、中位に岩野A（8）・中原B・大和川大原（12）、下位に岩野B（6）・岩野C（7）・岩野E（11）・坂井A（14）が位置する。早期～前期を主体とする遺跡が多く、蛇紋岩製磨製石斧や滑石製玉類の製作資料が出土している。

早川下流左岸の河岸段丘には角地（17）・日光寺（18）・上出（19）・細池（20）・林中（21）の遺跡が存在する。集落跡は晩期の細池遺跡のみだけで、ほかは小規模な遺跡である。角地は中期前葉で磨製石斧が出土、日光寺は中期～晩期である［木島1990］。細池は発掘調査が行なわれ、晩期中葉の住居や土坑などの遺構が検出され、土器・石器・玉類といった遺物が多量に出土した。特に硬玉・滑石の玉類の未成品や原石、砥石の工具類が認められることから玉作遺跡と位置づけている［寺村ほか1974］。林中は岩陰にある前期の遺跡である。

姫川右岸の河岸段丘には、中期に硬玉玉類や蛇紋岩製磨製石斧の大量生産を行っていた中核的な集落である国史跡の長者ヶ原（31）［藤田・清水ほか1964など］があり、その周辺に大原B（30）・原山（32）・五月沢（34）・三ツ又中峰（41）・三ツ又（42）・三ツ又風吹原（43）・古川B（46）・鉄砲町（48）など

の遺跡が分布する。大原Ｂ（30）は早期中葉が、五月沢（34）は竪穴住居が検出するなど中期が主体である。五月沢Ｂ（39）は前期中葉が主体である［木島・山岸 1998］。三ツ又中峰（41）・三ツ又（42）・三ツ又風吹原（43）は長者原遺跡の南側、高位洪積台地上部の平坦地に立地する。三ツ又遺跡は中期前葉の遺物が出土している。鉄砲町（48）は姫川河口近くの前期末から中期の遺跡で石錘が多く出土している［山岸 2003］。古川Ｂ（46）は姫川右岸に形成された沖積段丘上に立地する小規模遺跡で、縄文前期の土器や磨製石斧及び未成品、玉類の素材となる滑石が出土している。

姫川左岸の遺跡は、岩木（51）・大角地（52）・寺地（53）がある。岩木遺跡は低位段丘に立地する中期前葉から後期の中核的集落である。大角地は早期末葉から前期前葉が主体の集落で、蛇紋岩製磨製石斧や滑石製玉類の生産が行われている。ヒスイ利用の初源となるヒスイ製の敲石が出土している［寺村・安藤ほか 1979・加藤ほか 2006］。国史跡寺地遺跡は姫川・青海川上流の硬玉産地背景に硬玉生産を行っている中～晩期の中核的集落である［寺村ほか 1987］。

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	深谷	9	小出越	17	角地	25	後生山	33	苦竹原Ａ	41	三ツ又中峯	50	須沢水神
2	中浜	10	中原Ｂ	18	日光寺	26	三ツ屋原	34	五月沢	42	三ツ又	51	岩木
3	藤塚	11	岩野Ｅ	19	上出	27	三ツ屋原Ｂ	35	苦竹原Ｂ	43	三ツ又風吹原	52	大角地
4	丈畑	12	大和川大原	20	細池	28	四割・杉沢	36	苦竹原Ｃ	45	井沢	53	寺地
5	六反田南	13	小畑	21	林中	29	大原	37	苦竹原Ｅ	46	古川Ｂ		
6	岩野Ｂ	14	坂井Ａ	22	森林公園	30	大原Ｂ	38	五月沢Ｄ	47	一の宮		
7	岩野Ｃ	15	高峯	23	入山	31	長者ヶ原	39	五月沢Ｂ	48	鉄砲町		
8	岩野Ａ	16	光明邸	24	茶煙	32	原山	40	苦竹原Ｄ	49	茶畑		

第３図　深谷遺跡と周辺の縄文時代遺跡（国土地理院発行「糸魚川」「小滝」1:50,000原図）

第Ⅲ章　調査の概要

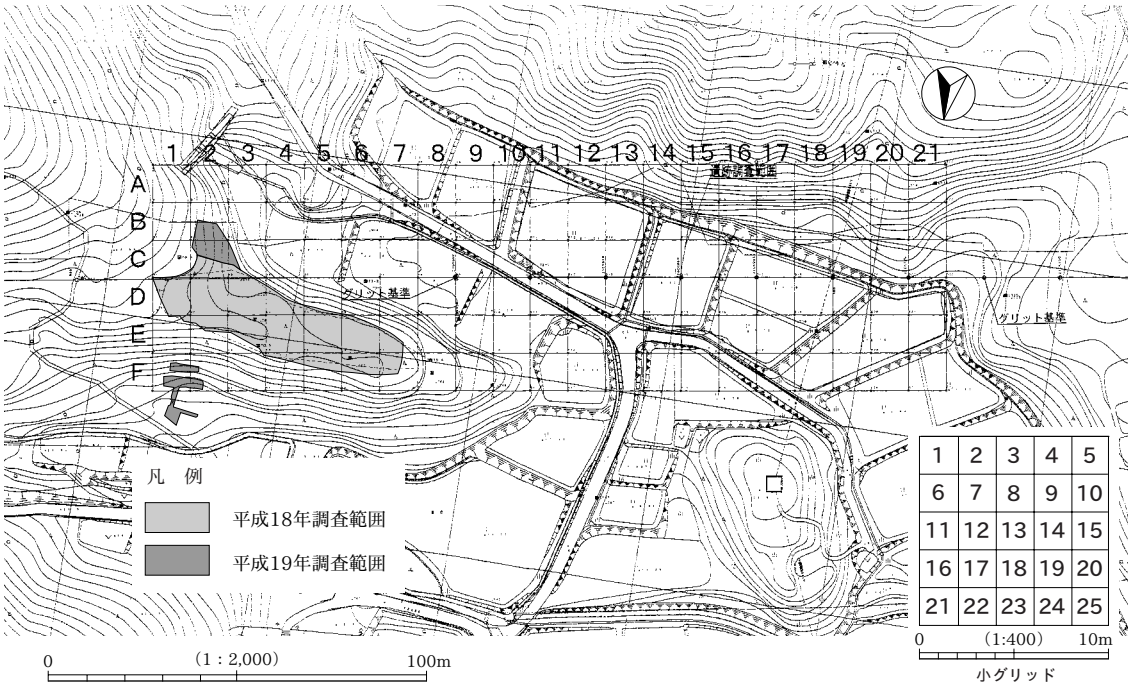
1　グリッドの設定（第４図）

北陸新幹線センター杭210k000m000と210k100m000を結んだ線を基準とし、調査区全域に10m単位の方眼を設定した。その結果、グリッドの南北基準線の方位は8° 50′ 41″東偏している。

グリッドの呼称は、東西方向については算用数字を用い調査区東端から西に向かって「1・2・3・4……」、南北基準線はアルファベッドを用い南から北に向かって「A・B・C・D……」、基準線の交点を「1A・1B・1C……」とし、南東隅の交点の名称を用いた。10m単位のグリッドはさらに2m単位25個に分割し、南東隅が1、南西隅が5、北東隅が21、北西隅が25となるよう番号を付し、1A15のように連名で呼称した。主なグリッド交点の旧測地系の座標は第１表のとおりである。

グリッド	X（m）	Y（m）
1C	116579.287	-52710.308
1G	116618.812	-52716.458
7C	116570.062	-52769.595
7G	116609.586	-52775.745
9D（210K000）	116576.868	-52790.894

第１表　主要グリッドの座標（旧測地）



第４図　グリッド設定図

2　基本層序

深谷遺跡の調査前の状況は、スギ林であった。樹木の伐採後、腐植土を10cmほど重機で取り除き、その後は人力により層位を確認しながら掘り下げた。調査区内の地形は、東側1Dから3Cは傾斜が急で、2D北寄りから西へは傾斜が緩やかとなる。Ⅰ層は調査区の西端で３層に分層可能で、Ⅰａ層は腐植土、Ⅰｂ層、Ⅰｃ層は小礫を多く含む黄褐色土で、後者は二次堆積土である。Ⅱ層は南側斜面で厚くなる傾向があり、2Dでは上下に分層される。Ⅰ層を除くと、1E、2EではⅣ層が、3E、4EではⅢ層が表出する

ところが認められた。Ⅱ層が縄文時代早期中葉から前期後葉の遺物包含層で、Ⅲ層上面がこの時期の遺構確認面である。各層位ごとの特徴は以下のとおりである。

Ⅰ層：にぶい褐色土。黒色土が混在する。しまりは強い。

Ⅱａ層：褐色土。しまりはやや弱い。遺物包含層。

Ⅱｂ層：暗褐色土。1～3mmの炭化物をごく少量含む。しまりはやや弱い。遺物包含層。

Ⅲ層：灰黄褐色土。しまりは強い。

Ⅳ層：明褐色土。しまりは非常に強い。軟質の礫を多く含む。

第５図　土層柱状図

第Ⅳ章　遺　　構

1　概　　要

遺構は集石土坑１基・土坑21基・ピット165基・溝１条・道状遺構２条が検出された。土坑の中には炉跡と考えられるものが３基、炭化物が厚く堆積するものが２基ある。道状遺構は調査区の東側を南北に横断するものと、南端を東西に縦断するものがある。遺物の出土した遺構は少ないが、覆土の多くは縄文時代早期中葉～前期後葉の土器や石器を含む包含層と同様の褐色土や暗褐色土が堆積しており、ほとんどが縄文時代の所産と考えられる。

発掘調査での遺構番号は種別に関係なく通し番号とした。遺構種別の略号は集石土坑SS・土坑SK・溝および道状遺構SD・ピットＰとした。遺構の平面・断面形態の分類は和泉Ａ遺跡［荒川ほか1999］、覆土の堆積形状の分類は青田遺跡［荒川ほか2004］に従った。

各遺構については観察表を作成しており、以下では主要なものについて種別ごとに説明を行う。

2　各　　説

A　集石土坑

SS7（図版３・４・19）

5E3・４に位置する。平面形は楕円形、長径122cm・短径82cm・深さ25cm、断面形は弧状である。覆土は５層に分層され、レンズ状に堆積する。集石を構成する礫の大半は褐色土の１層から出土した。礫は約40点あり、長さ10～20cmほどの円礫が多く、被熱により割れたものもあった。炭化物を多く含む黒褐色土の２層は、土坑の中央部分に堆積する。土器は１層よりⅡ群土器（図版６－36）が出土した。

B　土　　坑

SK4（図版２・４・19）

2D24・25、2E4・５に位置する。平面形は方形、長径101cm・短径99cm・深さ12cmで、断面形は弧状である。覆土は４層に分層され、レンズ状に堆積する。黒褐色土の２層は炭化物を多量含む。遺物は出土していない。

SK8・SK9（図版２・４・19）

1D13・14に位置する。SK8の平面形は楕円形、長径105cm・短径74cm・深さ35cmで、断面形は台形状である。覆土は４層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。SK9は北側をSK8に切られていて、短径60cm・深さ24cmで、断面形は台形状である。覆土は６層に分層され、レンズ状に堆積する。１層・２層・５層は炭化物を多く含む。遺物は出土していない。

SK1（図版３・４・19）

4E11に位置し、木の根によると思われる撹乱が著しい。平面形は楕円形、長径120cm・短径58cm・深さ16cmで、断面形は弧状である。ほぼ全体に焼土を含む覆土は４層に分層され、ブロック状に堆積

する。遺物は出土していない。

SK2（図版３・４・20）

4E12・13に位置し、西側のP207を切っている。平面形は楕円形、長径70cm・短径53cm・深さ10cmで、断面形は弧状である。ほぼ全体に焼土を含む覆土は４層に分層され、ブロック状に堆積する。遺物は出土していない。南側に近接して並ぶ２個の扁平な礫は、本遺構と有機的な関係にあると考えられる。

SK3（図版３・４・20）

5E25・5F5・6F1に位置する。平面形は楕円形、推定で長径140cm・短径80cmほど・深さ15cmで、断面形は弧状である。覆土は３層に分層され、水平に堆積する。２層は焼土主体の層である。

SK11（図版２・4）

1D7に位置する。平面形は楕円形、長径113cm・短径53cm・深さ25cmで、断面形は台形状である。覆土は２層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK12（図版２・４・20）

1D15に位置する。平面形は楕円形、長径88cm・短径78cm・深さ28cm・断面形は弧状である。覆土は３層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK13（図版２・４・20）

1D14に位置する。平面形は楕円形、長径73cm・短径55cm・深さ33cm・断面形は半円状である。覆土は３層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK15（図版２・４・21）

3D12に位置する。平面形は楕円形、長径75cm・短径48cm・深さ54cmで、断面形は弧状である。覆土は４層に分層され、ブロック状に堆積する。遺物は出土していない。

SK17（図版３・４・21）

5E12・17に位置し、東側にSK18が近接する。平面形は楕円形、長径91cm・短径67cm・深さ14cmで、断面形は弧状である。覆土は２層に分層され、水平に堆積する。遺物は土器片が１点出土している。

SK18（図版３・４・21）

5E11・12・16・17に位置する。平面形は楕円形、長径132cm・短径84cm・深さ19cmで、断面形は弧状である。覆土は２層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は１層よりⅡ群土器（図版6-10・31・36）が出土している。また、周囲からは石匙（図版9-110）、滑石製垂飾（図版4-199）が出土している。

SK19（図版２・４・21）

1D14・15・19・20に位置し、北側にSK20が近接する。平面形は楕円形、長径147cm・短径42cm・深さ11cmで、断面形は弧状である。覆土は暗褐色土の単層である。遺物は出土していない。

SK20（図版２・４・21）

1D19・20に位置する。平面形は楕円形、長径152cm・短径64cm・深さ21cmで、断面形は弧状である。覆土は３層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は土器片が１点出土している。

SK22（図版３・５・22）

3E4・5・9・10に位置する。平面形は楕円形、長径115cm・短径54cm・深さ22cmで、断面形は弧状である。覆土は２層に分層され、水平に堆積する。遺物は胎土に繊維を含む土器片が１点、石鏃（図版9-106）が１点出土している。

SK23（図版３・５・22）

4D18・19に位置する。平面形は楕円形、長径101cm・短径83cm・深さ23cmで、断面形は弧状である。覆土は２層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK24（図版５・22）

4D19・24・25に位置する。平面形は楕円形、長径163cm・短径90cm・深さ17cmで、断面形は弧状である。覆土は４層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は土器片が２点出土している。

SK25（図版５・22）

3D14に位置する。平面形は楕円形、長径86cm・短径62cm・深さ15cmで、断面形は弧状である。覆土は暗褐色土の単層である。遺物は出土していない。

SK26（図版５・22）

2D14に位置する。平面形は楕円形、長径77cm・短径46cm・深さ14cmで、断面形は半円状である。覆土は３層に分層され、ブロック状に堆積する。遺物は出土していない。

SK27（図版３・5）

4F5・10に位置する。平面形は楕円形、長径87cm・短径81cm・深さ19cmで、断面形は弧状である。覆土は３層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK28（図版３・５・22）

6E14・19に位置する。平面形は楕円形、長径145cm・85cm・深さ33cmで、断面形は台形である。覆土は３層に分層され、水平状に堆積する。遺物は出土していない。

SK29（図版３・５・22）

4E7・８に位置する。平面形は円形、長径62cm・短径61cm・深さ26cmで、断面形は三角形である。覆土は３層に分層され、ブロック状に堆積する。遺物は出土していない。

C　ピット・溝

ピットは165基ある。平面形は楕円形ないし円形で、長径18～82cm・短径17～65cm・深さ９～59cmである。断面形は半円状が多く、弧状、Ｕ字状が続く。覆土は褐色土や暗褐色土の単層が大半である。遺物はP66とP175から縄文土器の小片が各１点出土したのみである。これらの一部は建物を構成する柱穴の可能性があり、とくに焼土を多く含むSK1、SK2、SK3の周辺のものがその可能性があるが、周囲を囲むなどの有機的な検出状況ではなかったため、現状では竪穴住居のような建物はなかったと考えたい。以下、主要なものを説明する。

P14（図版２・５）

2D6に位置する。平面形は円形、長径31cm・短径30cm・深さ54cmで、断面形はＵ字状である。覆土は５層に分層され、水平状に堆積する。遺物は出土していない。

P21（図版２・５）

1D20に位置する。平面形は楕円形、長径66cm・短径62cm・深さ13cmで、断面形は三角形である。覆土は３層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

P50（図版２・５）

3D13に位置する。平面形は楕円形、長径65cm・短径58cm・深さ28.5cmで断面形は半円状である。覆土は４層に分層され、ブロック状に堆積する。遺物は出土していない。

P160（図版３・５・23）

6E18に位置する。平面形は円形、長径37cm・短径35cm・深さ40cmで、断面形はＵ字状である。覆土は３層に分層され、水平に堆積する。遺物は出土していない。

P163（図版３・５）

6E19に位置する。平面形は楕円形、長径62cm・短径39cm・深さ30cmで、断面形は台形状である。覆土は２層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

P175（図版３・５）

6E21・22に位置する。平面形は楕円形、長径79cm・短径60cm・深さ23cmで、断面形は台形状である。覆土は２層に分層され、レンズ状に堆積する。遺物は土器片が１点出土している。

P204・P205（図版３・５）

4E7に位置する。P204の平面形は楕円形、長径67cm・短径43cm・深さ16cmで、断面形は弧状である。遺物は出土していない。西側をP204に切られるP205は、長径44cm・深さ23cmである。覆土は２層に分層され、水平状に堆積する。遺物は出土していない。

P206（図版３・５）

4E7に位置する。平面形は楕円形、長径73cm・短径26cm・深さ19cmで、断面形は台形状である。覆土は３層に分層されブロック状に堆積する。遺物は出土していない。

SD10（図版２・18）

1D3・８に位置する。長さ206cm・幅39cm・深さ９cmで、断面形は三角形である。覆土は暗褐色土の単層である。遺物は出土していない。

D　道状遺構

道状遺構と考えられる遺構は２条検出された。これらは溝状の遺構であるが、地形の変化点に立地すること、両壁の深さと傾斜角度が異なること、底面直上に踏み固められたと考えられる薄い層が認められることから道状遺構とした。また、縄文土器や石器を含む包含層と同様の層が覆土となっており、各遺構からも縄文時代早期末の土器のみが出土し、ほかの時代の遺物は検出されていないことから、縄文時代早期の所産の可能性が高い。

SD5（図版２・21・22）

2B～Eの東から西への急斜面から緩斜面に地形が変化するところに立地する、調査区を南北に横断する溝状の遺構である。本遺構は調査区内では比較的厚い表土と縄文土器、石器が出土する包含層合わせて約60cmをとり除き、縄文時代早期～前期初頭と考えられる集石土坑などを検出したⅢ層で確認した。当初18mの長さが確認され、南側は平成19年度の調査によりさらに8m以上延びることが明らかとなった。一方、北側は現代の山道に続くかのように両壁がなくなっていった。幅は２～2.5mほどで、立ち上がりは東側が緩やかで深く、西側が浅く急である。幅0.5～0.7mの底面はほぼ平坦で、東側がわずかに高くなっている。確認面からの深さは南へいくほど浅くなり、南端部ではⅠ層が溝のすぐ上を覆っている。これは調査区北側でもみられるように、Ⅱ層、Ⅲ層が後世に削平されたことによると考えられる。覆土の３層はしまりが強く、基本層序のⅢ層が小ブロック状に多く混入している。遺物は、土器が2Dの２～３層でⅡ群土器（27・29・30）が、石器は2Cの２層で不定形石器（118）が出土している。

SD6（図版2・3・21・22）

調査区の南端、3C～7Eの北から南への緩斜面から急斜面に変化するところに立地する、溝状の遺構である。長さは48m以上あり、4Dで高度が最も高く、西側は緩やかに、東側はやや急に高度を下げている。幅は1m前後で、立ち上がりは、概して北側が急でやや深く、南側は浅く緩やかである。覆土は暗褐色土の単層か、下部にⅢ層が小ブロック状に混入する、しまりの強い薄い層が認められる部分がある。遺物はⅡ群土器（図版6-33）とⅢ群土器（図版7-57）や石鏃（図版9-109）、石錘（図版13-187）、滑石製の玉未成品（図版14-200）が出土している。

第Ⅴ章　遺　　物

1　概　　要

深谷遺跡から出土した遺物には縄文時代、古代、中世、近世のものが存在するが、主体を占めるのは縄文時代である。縄文時代の遺物は早期中葉から前期後葉の土器と石器がある。縄文土器は早期中葉・末葉、前期初頭～後葉のものが、石器は石鏃・石匙・打製石斧・不定形石器・磨製石斧および未成品・敲石・砥石・磨石類・石核・剥片・石錘、玦状耳飾、垂玉などの石製装身具が遺構や包含層から出土している。遺物量は土器が平箱で２箱、石器は17箱である。

2　縄文時代の遺物

A　土　　器

(1) 分　　類

縄文時代早期中葉から前期後葉の土器について、以下のように時期別で６群、器形・文様等で18類に分類できる。

Ⅰ群　早期中葉の土器。

A類（図版６・24－１他）　沈線文や貝殻腹縁文が施文される。

B類（図版６・24－７他）　無文の胴部。

Ⅱ群　早期末葉～前期初頭の土器。胎土に繊維を含む。

A類（図版６・24－９他）　口縁部や胴部に絡状体圧痕文が施文される。

B類（図版６・24－13他）　条痕文が施文される。

C類（図版６・24－21他）　内外面に縄文が施文される。

D類（図版６・24－26他）　口縁部に隆帯が巡るほかは、器面全体に縄文が施文される。

E類（図版６・24－34他）　器面全体に縄文が施文される。

F類（図版７・24－39他）　撚糸側面圧痕文や沈線、斜縄文で文様が構成される。

G類（図版７・24－44他）　器壁が比較的薄く、口縁部が大きく内湾し、指頭圧痕が横位、斜位に連続する。

H類（図版７・25－47他）　口縁部下端に段を持ち、全面に縄文が施文される。

I類（図版７・25－52他）　器壁が薄く、口縁部が内湾し、口唇部に刺突状の刻目と口縁部に羽状縄文が施文される。

J類（図版７・25－59）　胴部に刺突文が施文される。

Ⅲ群　前期前葉の土器。胎土に繊維を含む。

A類（図版７・25－58他）　矢羽状の微隆起線文が巡り、施文幅が狭小の羽状縄文が施される。

B類（図版７・25－60他）　本群に含まれると考えられるその他の土器。

Ⅳ群　前期中葉の土器。胎土に繊維を含む。

A類（図版７・25－64他）　口縁部に点列状刺突文が施文される。

B類（図版7・25－66他）　口縁部に櫛歯状の刺突文と沈線が施文される。

C類（図版8・25－75他）　口縁部に平行沈線文が施文される。

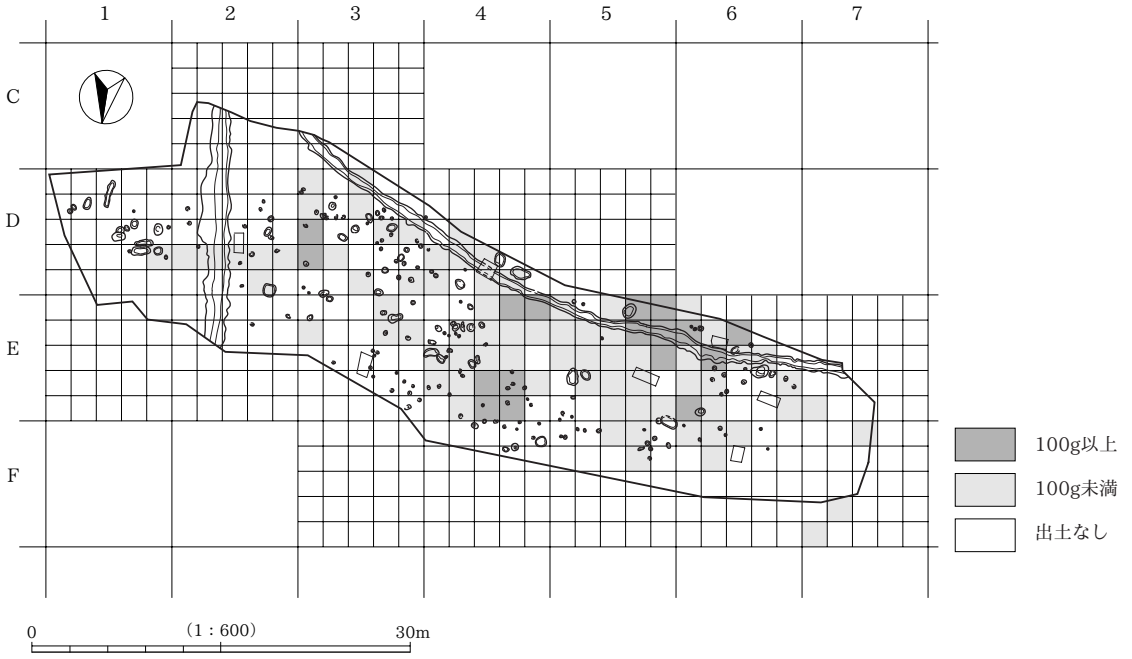
D類（図版8・25－82他）　本群に含まれると考えられるその他の土器。

Ⅴ群　前期後葉の土器（図版8・25－88他）。幅狭の平行沈線文が施文される。

Ⅵ群　胎土に繊維を含むことから、早期中葉～前期中葉と考えられるが、詳細な時期が不明な土器。

	1	2	3	4	5	6	7
C							
D	48.5	587.8	637.8	249.4			
E			39.1	2832.4	1608.6	882.4	59.2
F				39.0	43.3	119.3	27.3
						合計	7135.1g

第2表　縄文土器グリッド別重量



第6図　縄文土器分布図

（2）出土状況の概略

第6図、第2表には縄文土器の分布状況を重量で示した。全体的には狭い平坦部分から南側斜面にわたって分布している。時期別に見ると、数量の少ないⅠ群土器は4・5Eに分布している。Ⅱ群土器は2～4D、4～7E、5～6Fの遺構内・包含層から出土している。Ⅲ群土器は3D、4～5Eから出土している。Ⅳ群土器は3D、3～6E、6Fに分布している。Ⅴ群土器は2D、5Eから出土している。数量が比較的多いⅡ群土器とⅣ群土器の分布を比較すると、Ⅱ群土器は西側を中心にして調査区全体に、Ⅳ群土器は傾斜の緩い中央部に分布している。

（3）各　　説

遺構出土土器

SS7（図版6・24－35）　35はⅡ群E類の胴部片である。胎土に多く繊維が含まれているためか、非常に軽量である。色調は内外面とも黒色に近い黒褐色を呈する。

SK18（図版6・24－10・31・36）　10はⅡ群A類の胴部片で、絡条体圧痕文が施文される。31、36はⅡ群E類である。31は比較的器厚の薄い口縁部片で、外面に多条縄文が施文される。36は胴部外面に

非結束羽状縄文が施文される。内外面とも黒色に近い黒褐色を呈する。

SD5（図版６・24－27・29・30）　Ⅱ群Ｄ類で、28も含め同一個体である。波状口縁の口縁部と胴部を画する隆帯上に棒状工具による押圧が施される。口縁部と胴部には縦位の非結束羽状縄文が施文される。27には補修孔が認められる。焼成は良く、内外面ともにぶい橙色を呈する。長野県を中心に分布する塚田式土器に類似する。

SD6（図版６・24－33・図版７・25－57）　33はⅡ群Ｅ類で、胴部外面に非結束羽状縄文が施文される。57はⅢ群Ａ類で、56、58と同一個体である。布目式土器と考えられる。

包含層出土土器

Ⅰ群　早期中葉の土器（図版６－１～８）

Ａ類（１～６）　１は波状口縁で、波頂部の下に円形刺突文があり、その近くから延びる横位沈線と平行する縦位沈線２本により区画された内部に貝殻腹縁文が充填される。2、３は平行する横位沈線間に斜位の貝殻腹縁文が充填される。４は平行沈線間に縦位の短沈線が階段状に施される。５は比較的太い沈線が平行する。６は平行する沈線間に列点状に貝殻腹縁文が施される。

Ｂ類（７・８）　胎土や調整、器厚などからⅠ群の胴部の無文部分と考えられる。

Ⅱ群　早期末葉～前期初頭の土器（図版６・24－９～38・図版７・24・25－39～55・59）

Ａ類（９・11・12）　９は口縁部片で、端部外面に縦位、その下に羽状の条痕文、下部に隆帯が施文される。11、12は同一個体で、内外面に条痕文、外面の輪積みの上端に１条ずつ刻み状に絡条体圧痕文が施文される。

Ｂ類（13～20）　13～20は胴部小片で、外面は縦位・斜位・横位の条痕文、内面は斜位・横位の条痕文が施文されている。

Ｃ類（21～24）　21～24は胴部片で、内外面に縄文が施文される。

Ｄ類（26・28・32）　26は口縁部と胴部を画する隆帯上に棒状工具による押圧が斜位に施される。胴部に非結束羽状縄文が施文される。28はSD5出土の27、29、30と同一個体で、波状口縁と平行するように縦位の非結束羽状縄文が施文される。塚田式土器に類似する。32は隆帯の上下側縁に棒状具による刺突が連続する。

Ｅ類（25・34・37・38）　25は焼成の良い、比較的厚い胴部下部片である。外面の磨滅が顕著で、文様は判然としないが、縦位に沈線２本が認められる。34はSD6出土の33と同一個体で、胴部外面に非結束羽状縄文が施文される。37は黒色に近い黒褐色を呈する胴部片で、外面に非結束羽状縄文が施文される。38は胴部外面に縦位の縄文が施文される。内面には黒褐色を呈する付着物が斑状に認められたため、赤外線分光分析を行った結果、土壌や粘土等の鉱物である可能性が指摘された（第Ⅵ章１参照）。

Ｆ類（39～43）　花積下層式土器である。39は試掘調査で出土したもの。口縁部外面は横位と蕨手モチーフの撚糸側面圧痕文と擦切文で構成される。幅広の口縁には斜位の短沈線が刻まれる。40は２本の横位撚糸側面圧痕文間に縦位の短沈線文が刻まれ、その下に斜縄文が施される。41～43はやや太めの沈線が矢羽状や縦位に施される。

Ｇ類（44～46）　44～46は同一個体である。44・45は内湾する口縁部で、口縁部下端に指頭圧痕が連続する幅広粘土紐が巡り、上下に指頭圧痕が横位、斜位に複数段連続する。口唇部には刻みが施される。器厚は比較的薄く焼成は良い。外面は黒色に近い褐灰色、内面はにぶい黄橙色を呈する。東海地方を中心

に分布する木島Ⅷ式と考えられる。

H類（47～51）　47は口縁部から胴部下半まで7割ほどが残存する深鉢形土器である。破片の多くは内面を上向きにして、一部器形がイメージされるも、細かく割れた状態で出土した。器形は丸底状の底部から砲弾状に開き、胴部上半で直立状になり、比較的広い段からわずかに外傾する口縁部へ至る。口縁部、胴部とも斜縄文が施される。口縁部には補修孔が認められる。段部には細い粘土を貼り付け、指頭で斜めに押している。48、49は口縁部に非結束羽状縄文、50には斜縄文が施されている、50の口縁部下端には刺突が連続する。48の口縁外側には刺突が連続するほか、補修孔が認められる。51の口縁部下端には棒状具による縦位の刻みが連続する。

I類（52～55）　52～55は同一個体である。器厚が薄く、口縁部が内湾するもので、口縁外側に刺突が連続する。外面には非結束羽状縄文が施文され、52、54には焼成前に加えられた円形の圧痕が認められる。焼成は良好で、色調は明赤褐色を呈する。円形の圧痕は、北陸地方に分布する極楽寺式土器［小島1965］。のドングリ圧痕に通じる可能性がある。

J類（59）　59は器厚が薄いもので、外面に斜め右上方からの刺突が施されている。色調は褐色を呈する。

Ⅲ群　前期前葉の土器（図版7・25－56～58・60～63）

A類（56～58）　56～58は同一個体で、施文幅が狭小の非結束羽状縄文の上部に矢羽状の沈刻を加えた微隆起線が横位に巡る。色調はにぶい黄橙色を呈する。布目式土器である。

B類（60～63）　60～62は口縁部片である。60はループ文、61は撚糸文、62は縦位の条線文が施されている。63は胴部片で、円形の刺突文が施文される。

Ⅳ群　前期中葉の土器（図版7・25－64～74・図版8・25－75～87）

A類（64・65）　64・65は同一個体の口縁部片で、弱く外反する。文様は横位の点列状刺突文が密に巡る。胎土中における繊維の混入は極小量である。色調は外面がにぶい黄橙色、内面が橙色を呈する。根古屋式土器と考えられる。

B類（66～74）　66～74は口縁部片で、櫛歯状工具による斜位、あるいは横位の点列状刺突文とそれに平行する沈線により文様が構成される。胎土中に含む繊維の混入は66・69～72は少なく、67・68・73・74は多い。焼成は概して良好とは言い難い。66は口縁部が大波状を呈し、波頂部より縦位の隆帯が付される。点列状刺突文と沈線は口縁部と平行するように大きく斜位に施文される。70は他のB類に比べ点列状刺突文が密に施文され、器厚は薄く、焼成は良好である。長野県や群馬県を中心に分布する有尾式土器と考えられる。

C類（75～81）　口縁部に縦位、斜位、横位に平行沈線文を連続させて文様を構成する。75・76は小波状を呈する口縁部片で、縦位、斜位に平行沈線文を施文する。79・80は横位の平行沈線で口縁部文様を画し、胴部に縄文を施文する。器厚は概して厚く、胎土中に含む繊維の混入は、76・78は少なく、75・77・79・80は多い。81は口縁部に櫛歯状工具による縦位、横位の沈線文が施文される。B類と同じく長野県や群馬県を中心に分布する有尾式土器と考えられる。

D類（82～87）　82は大波状を呈する口縁部片で、波頂部より縦位の隆帯が付される。口縁部と隆帯の間には縄文が施文される。83は口縁部片で、横位の撚糸文が施文される。胎土には繊維を極めて多く含むほか、金雲母が顕著である。色調は外面がにぶい黄褐色、内面が明赤褐色を呈する。84は胴部に撚糸文が施文される。85～87は櫛歯状工具による横位、斜位の点列状刺突文が施文される。胎土中に含む

繊維の混入は85～87は少なく、82・84は多い。本類も有尾式土器の可能性がある。

Ⅴ群　前期後葉の土器（図版7・25－88～91）

88・89は有孔の鉢形土器で、同一個体である。口縁部に半截竹管による幅狭の平行沈線文が巡り、胴部に縄文が施文される。88には焼成前の円孔（有孔）が1か所認められる。90・91は胴部片で、幅狭の平行沈線文と縄文が施文される。

Ⅵ群　時期不明の土器（図版7・25－92～100）

92～95は口縁部片で、斜縄文が施文される。96は底部付近の破片で、縄文が施文される。97～100は底部で、97・98は残存部無文、99は底面に沈線による斜格子目文、100は胴部に縄文が施文される。

B　土　製　品（図版7・25－101・102）

101は土器片錘と考えられる。非結束羽状縄文が施文される。色調は褐色で、胎土に繊維を含む。Ⅲ群土器と考えられる。102は土器片を二次加工した土製円盤で、施文幅が狭小の非結束羽状縄文が施文される。色調は黄橙色で、胎土に繊維を含む。Ⅲ群土器と考えられる。

C　石　　器

（1）概　　要

石器は、剥片も含めて442点出土した。時期は出土した土器から縄文時代早期中葉から前期後葉である。器種は石鏃・石匙・打製石斧・不定形石器・磨製石斧と未成品・磨石類・砥石・石錘が出土した（第3表）。この中で蛇紋岩製磨製石斧の未成品が4・5・6区周辺で数多く出土しており（第7図）、砥石も認められることから磨製石斧の製作が行われていたことがうかがえる。磨製石斧の製作や石錘が多いことなどは、縄文時代早期末葉～前期前葉を主体とする糸魚川市大角地遺跡［加藤・松永2006］と同じ状況で該期の石器組成の特徴である。

器種	安山岩	砂　岩	黒曜石	流紋岩	珪質頁岩	頁　岩	蛇紋岩	チャート	鉄石英	計
石　　鏃	2		2		1			1	1	7
石　　匙									1	1
不定形石器	42					3				45
打製石斧	2									2
磨製石斧	1						11			12
磨製石斧未成品							164			164
磨　石　類	16	3								19
石　　錘	34	12					2			48
砥　　石		4								4
石　　核	5									5
剥　　片	110	10		7		3			5	135
計	212	29	2	7	1	6	177	1	7	442

第3表　組成と石材

遺物の掲載は、器種ごとに分けて行い、出土量が多い器種は残存状況のよいもの、特徴的なものを抽出し、図化した。

（2）各　　説

石鏃（図版9・26－103～109）

7点出土した。すべて凹基無茎鏃で、入念な加工で薄く仕上げているものが多い。103～105は基部の抉入が深い。石材は、安山岩2点、黒曜石2点、珪質頁岩1点、チャート1点、鉄石英1点である。

石匙（図版9・26－110）

1点出土した。鉄石英製の横型石匙である。刃部は弧状で、両面の周縁に精緻な二次加工で作出している。

不定形石器（図版9・26－111～120）

不定形石器は剥片、扁平な礫を素材に二次加工が施された石器で定形的な形態をとらないものと使用に

よる微細剥離痕のある剥片で、45点出土した。不定形石器には、中原遺跡、岩野Ｅ遺跡［小池1986］などで貝殻状剥片と称していた礫面を残す剥片を素材としているものが多い。使用石材は安山岩が42点と大多数を占め、頁岩が3点存在した。掲載資料は背面が自然面であるものを素材としているものが多いが、このうち112・115～117は貝殻状剥片を素材としている。111は薄手の小剥片を素材とし側縁に細かい連続剥離で刃部を作出している。112は二次加工を自然面側は底縁、腹面側は打面周辺から側縁にかけて施している。113は厚手の剥片を素材にした側縁に深く二次加工を施している。114は片面の周縁に幅広の剥離を施している。115は打面側が厚みのある素材で、刃部は底縁にやや深い二次加工で作出している。116は側縁に不連続の浅い二次加工が施されている。117は大きめの貝殻状剥片を素材とし、二次加工は両面の周縁に不連続の剥離を施し、底縁の中心部分と左側縁の稜線にツブレが見られる。118・119は両面の縁辺に二次加工が施されている。120は大型縦型剥片を素材に厚みのある部分を除いて両面の周縁に二次加工が施されている。

打製石斧（図版9・26－121・122）

打製石斧は2点出土した。121は安山岩の礫素材で、両面の周縁に二次加工を施している。122は欠損し刃部側のみで安山岩の礫素材の両面に二次加工を施している。片面は全面に広く二次加工を施しているが、もう一方の片面は側縁のみで刃部は無加工である。

磨製石斧（図版9・26－123～126・図版10・26－127～134）

磨製石斧はほぼ全面に研磨が施され刃部が形成されているものを成品とした。成品と判断したものは12点で、石材は134のみ安山岩でほかはすべて蛇紋岩である。この内、破損が見られないものは刃部が一部欠ける程度のものも含めて5点にとどまる。この5点は長さ3.5～5cm程度の小型品（123・124）と長さ6～10cm程度の中・大型品（125～127）に分かれ、刃部形態はすべて片刃円刃に仕上げている。小型品の123・124は磨製石斧製作時に生じた調整剥片を研磨して成品にしている。中・大型品では、剥片を素材にしているもの（125・127）と円礫を素材にしているもの（126）がある。破損しているものは7点あり、基部あるいは刃部を欠損している。128は基部から刃部にかけて斜めに破損している。129は中型品で基部を欠損する。側面の断面は鋭角に近い。131は刃部を欠損している。側面は直線的で面取りされているが、頭部は自然の礫面をそのまま生かしている。132は大型品で基部を欠損する。側面の断面形は丸みを帯び、表面は研磨による稜で多面を呈している。表面は多面に研磨しているが、裏面は整形剥離痕が残る。133は中型品で刃部を欠損する。側面はわずかに面取りされているが丸みを帯びる。表面は多面に研磨され、頭部は尖る形状である。134はほかと石材が異なり、形態も側面を明瞭に面取りし頭部が尖るもので中期以降に見られる定角式石斧である。出土した成品の形態は、断面形が丸みを帯び、体部は多面体状に研磨されているものが多く、富山県の早期末葉から前期前葉の特徴と一致する［山本2005］。

磨製石斧未成品（図版10・27－135～139・図版11・27－140～157・図版12・27－158～163）

磨製石斧未成品は、蛇紋岩製で剥離や敲打あるいは研磨が施されているが、成品に至っていないものとした。未成品と判断したものは69点である。磨製石斧の製作過程については、大角地遺跡で加藤学［加藤2006］が山本正敏［山本1986］、浅井芳伸［浅井1989］の研究を整理し報告した工程を参考に深谷遺跡の状況に合わせて次のように整理する。（第8図）

第一段階：素材の決定

目的の成品の大きさにより原石のサイズを選択し、礫素材か剥片素材かを選択。

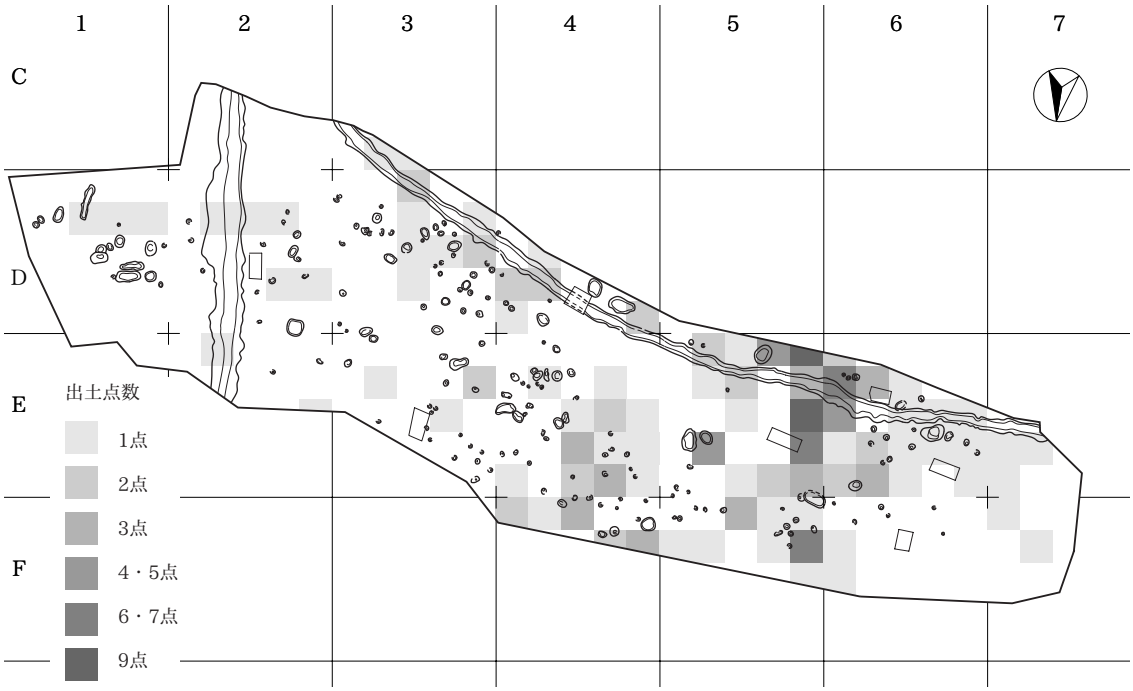
第二段階：成・整形

剥離・敲打・研磨による作業。中・大型品は周縁を大剥離と敲打、胴部の研磨で、小型品は側縁を小剥離で成・整形し成品の形状に近付ける。

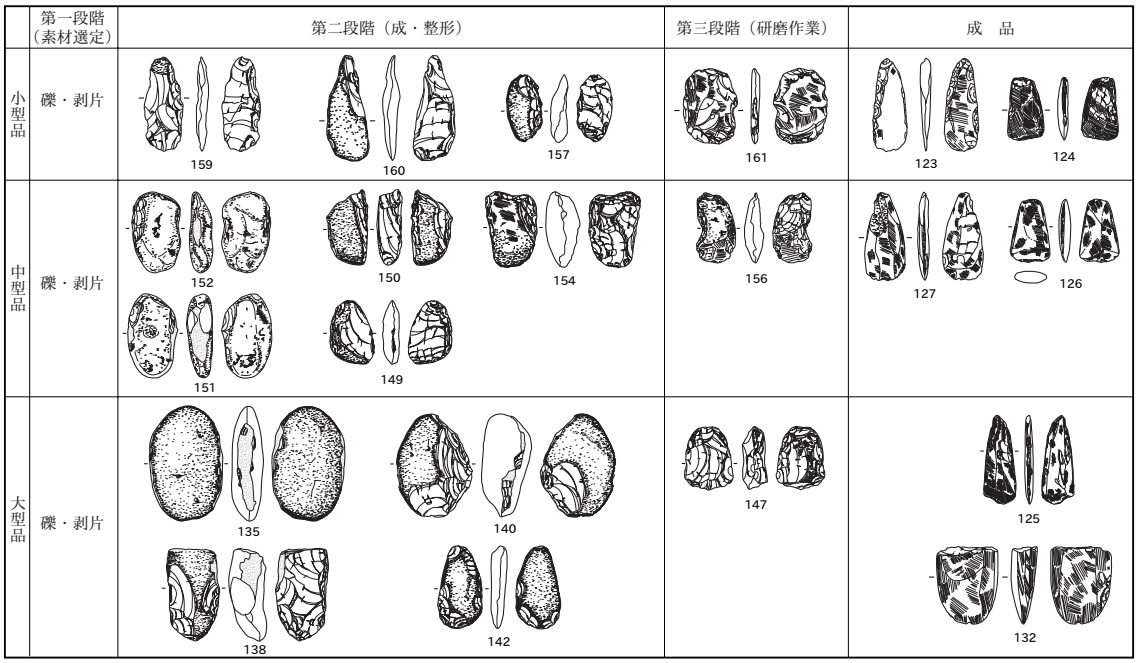
第三段階：研磨作業

砥石で研磨し、器面の平滑と刃部の形成を行う。

大型品は、円礫を素材とするもの（135～137・139～144・146）と原石から剥ぎ取った大型剥片を素材とするもの（138・145）がある。成形段階の資料は135～145で、135・136は側縁などに敲打痕の



第７図　磨製石斧未成品出土分布図



第８図　蛇紋岩製磨製石斧の製作過程

み認められる。137～139は側縁に剥離と敲打で成形を行っている。140～145は側縁に剥離を施し成形している段階である。146・147は整形まで進み、研磨がかけられているものである。大型品の未成品は成形段階で剥離作業の失敗などにより作業をやめ廃棄されているものが多い。

中型品は、円礫を素材とするもの（148・150～155）と剥片を素材とするもの（149・156）が認められる。第二段階のものは148～155である。149・150は側縁に剥離を施しているもので、151・152は側縁に敲打と剥離を施し整形している。153は両側縁の小範囲に敲打痕が見られ、工程の初期の段階である。153は剥離と敲打と研磨で厚さを減じながら成形している。155は両側縁を小剥離で整形し、胴部両面の中央部と片面の片端に研磨を施している。156は側縁を中心に剥離整形が終わり第三段階の研磨作業に入ったものである。

小型品は扁平な小円礫を素材するものと薄い剥片を素材するものあるが、本遺跡では剥片素材のものが多い。小型品の場合、剥片素材だと原石から素材を得る段階で目的の成品の形状に近い状態にすれば成・整形が少ない作業量で済む利点がある。157は一側縁に剥離を施している段階で、158～160は研磨すれば成品になる状態である。161は全体的に研磨がかけられているが刃部や側縁に剥離痕が残る。
162・163は調整剥片もしくは成品の欠損部分と思われる。

砥石（図版12・28－164～167）

4点出土した。4点とも石材は砂岩で、厚みのある礫の平坦面を砥面としている。石質は165のみ粒子の粗いもので他は細かいものである。これらの砥石は磨製石斧を研磨するためのものと考えられる。

磨石類（図版12・28－168～174・図版13・28－175～177）

磨石類は表面に磨痕や敲打痕が認められる礫で、19点出土した。使用痕跡で分類すると、磨痕のみが8点、その中で細長い礫の側面を磨面とする特殊磨石が4点出土した。敲打痕のみが7点、磨痕と敲打痕を有するものが4点である。使用石材は安山岩16点で、砂岩3点である。掲載資料では、169・170が磨痕のみで、。敲打痕のみのものが171～175で、磨痕と敲打痕があるものは168・176・177である。その内168・170が特殊磨石である

分類	敲打痕	磨痕	磨痕＋敲打痕	計
出土数	7	8	4	19

第4表　磨石類分類別出土数

分類	A類	B類	C類	不明	計
出土数	41	4	1	2	48

第5表　石錘分類別出土数

石錘（図版13・28－178～194）

48点出土した。扁平な礫の縁辺部に剥離または敲打の加工を施し縄かけ部を作出する礫石錘である。縄かけ部の作出部位により以下に分類した。

A類　相対する縁辺の2か所に作出するもの

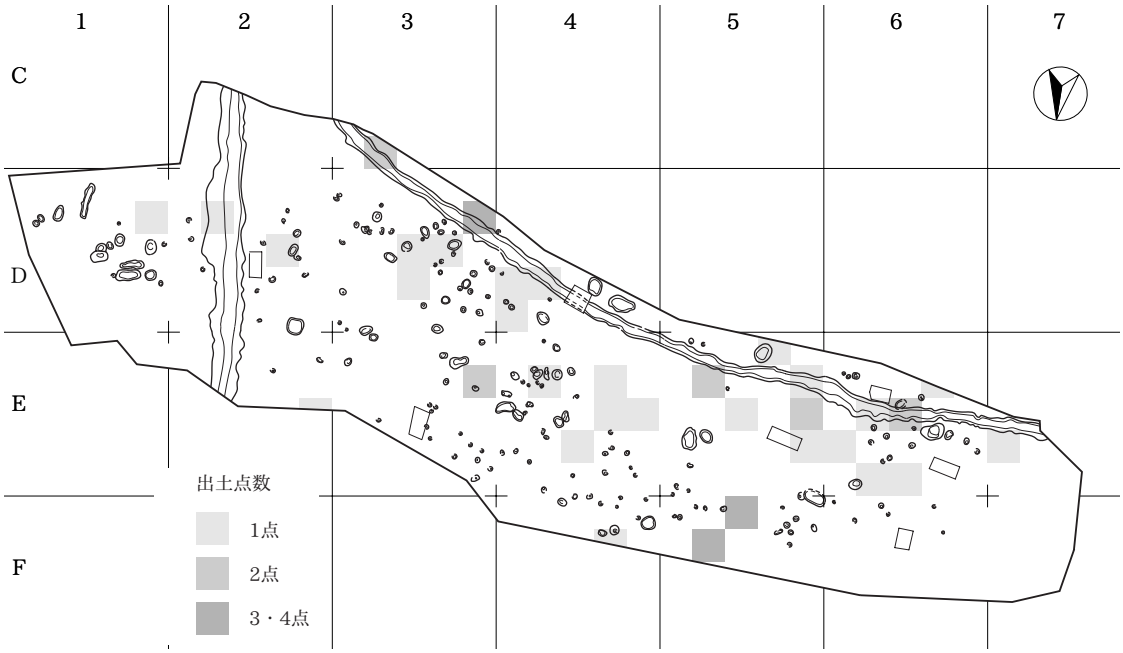
B類　3か所に作出するもの

C類　4か所に作出するもの

重さ（g）	A類	B類	C類	他	計
～30未満	5				5
30～70未満	15	1		1	17
70～100未満	6		1		7
100～150未満	2	1			3
150～200未満	2	1	1		4
200～300未満	7		1		8
300～400未満	2	1		1	4
計	39	4	3	2	48

第6表　石錘重量分布表

A類が41点で圧倒的に多く、B類が4点、C類が1点見られた。縄かけの作出法は、A類は剥離加工のみが認められたが、B・C類の中で短軸方向の作出に敲打加工を施しているものが見られた。使用石材は、安山岩製が34点で最も多く、次いで砂岩12点、蛇紋岩製が2点存在する。重量別では、21.1～379.6gのものが存在し、30～70gの範囲に多くが含まれる。長幅分布では長さ5cm・幅5cm前後と長さ10cm・幅8cm前後にまとまりがあり、大きさで小型品、大型品の選択の意図が見受けられる。掲載資料では、178～191はA類、192はC類である。193・194は対の一方の縄かけ部が作出されておらず未成品あるいは失敗品と思われる。



第９図　石錘出土分布図

石核（図版13・28－195～197）

石核は石器を作るために剥片素材を剥ぎ取ったもので、５点出土した。石材は安山岩５点、蛇紋岩１点である。195は蛇紋岩の円礫で磨製石斧の素材剥片を剥離している。196は拳大の安山岩の礫で、同一作業面に別々の打面から剥離作業が行われている。197は安山岩も扁平な礫で、調整した打面から同一作業面に同方向の剥片剥離作業が行われている。

D　石　製　品（図版14・28－198～201）

石製品は滑石製の飾玉類で、玦状耳飾（198）が１点、垂玉（199）が１点、未成品及び砕片（200・201）が８点出土した。198の玦状耳飾は破損しているもので、研磨痕が多いことから仕上砥ぎを施す前段階の未成品と考えられる。199の垂玉は破損しているが平滑に研磨が施された完成品で、扁平な楕円形の片端に尾部のような突起がある。200は管状玉類の製作工程初期の形割りの段階のもの、201は形状が薄手の円盤形の未成品の破片と思われ、表裏に粗い研磨が施されている。

滑石の飾玉類生産については、未成品の破損品や砕片が認められるとはいえ少量で断定はできないが、筋砥石等の工具類も見られないことから行われていなかったか、行われていたとしても小規模なものと思われる。

3　古代以降の遺物（図版14・28－202～208）

少数ではあるが、土師質の土器・陶磁器類、砥石の出土がみられた。

202はロクロナデ成形の土師器無台椀。203は土師器甕である。204は越中瀬戸の皿である。焼成は良好であり、外面には液状に付着した釉を確認することができる。205は青白磁の梅瓶と考えられる。206は青磁椀で、全面に釉が施され、焼成は良好である。SD6から出土した。207は青磁の皿である。208は決めの細かい仕上げ砥石で、表面の砥面に斜方向の線状痕が認められる。

第Ⅵ章　自然科学分析

1　土器付着物の赤外線分光分析について

パリノ・サーヴェイ株式会社

A　試　　料

試料は、深谷遺跡（新潟県糸魚川市田伏）より出土した縄文時代前期に比定される土器片１点（注記：06フカタ4E18Ⅰ・Ⅱ層144）である。当土器片内面には、肉眼観察によれば、黒褐色を呈する付着物（以下、黒褐色物質）が斑状に認められ（第10図）、さらに、土壌と考えられる黄褐色～灰褐色を呈する付着物も観察される。

第10図　土器付着物状況（○：試料採取位置）

本分析調査では、この黒褐色物質の材質、特に漆もしくはアスファルトの可能性の検証が目的とされていることから、有機化合物としての特性を調査する手法である赤外線分光分析（フーリエ変換赤外線吸収スペクトル法，FT－IR）を実施する。

分析試料は、土器内面に付着した黒褐色物質の観察を行った後、写真１の図示した箇所より適量採取し、供試試料としている。また、比較試料として漆及びアスファルトについても同様の調査を行い、本試料と比較する。

B　分 析 方 法

（1）赤外線分光分析の原理

有機物を構成している分子は、炭素や酸素、水素などの原子が様々な形で結合している。この結合した原子間は絶えず振動しているが、電磁波のようなエネルギーを受けることにより、その振動の振幅は増大する。この振幅の増大は、その結合の種類によって、ある特定の波長の電磁波を受けたときに突然大きくなる性質がある。この時に、電磁波のエネルギーは結合の振動に使われて（すなわち吸収されて）、その物質を透過した後の電磁波の強度は弱くなる。

有機物を構成している分子における結合の場合は、電磁波の中でも赤外線の領域に入る波長を吸収する性質を有するものが多い。そこで、赤外線の波長領域において波長を連続的に変えながら物質を透過させた場合、さまざまな結合を有する分子では、様々な波長において、赤外線の吸収が発生し、いわゆる赤外線吸収スペクトルを得ることができる。通常、このスペクトルは、横軸に波数（波長の逆数cm^{-1}で示す）、縦軸に強度を取った曲線で表されることが多い。したがって、既知の物質において、どの波長でどの程度の吸収が起こるかを調べ、その赤外線吸収スペクトルのパターンを定性的に標本化し、これと未知物質の赤外線吸収スペクトルのパターンとを定性的に比較することにより、未知物質の同定をすることもできる［山田1986］。

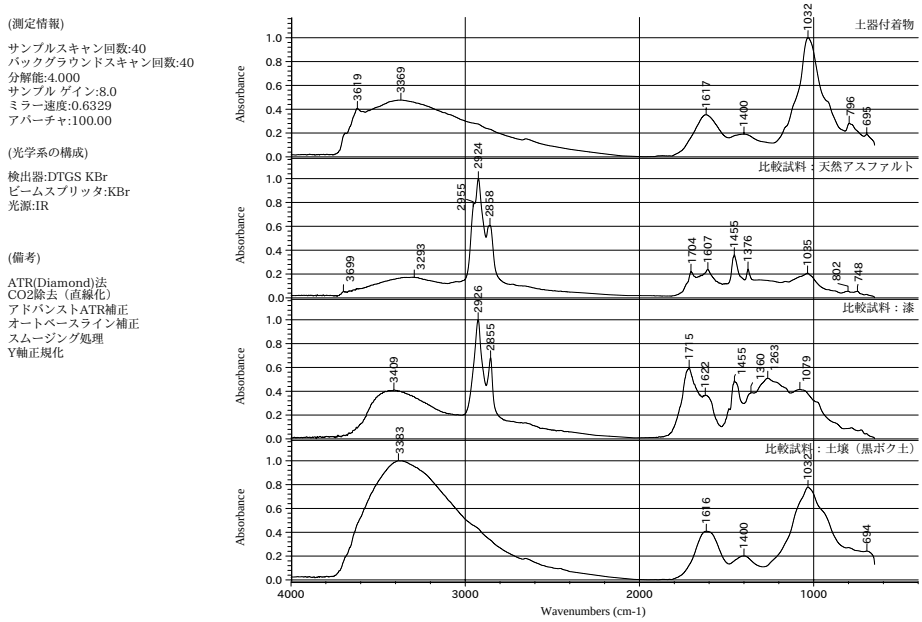
（2）赤外線吸収スペクトルの測定

FT－IR装置（サーモエレクトロン（株）製Nicolet Avatar 370）を利用し、測定を実施する。赤外線吸収スペクトルの測定は、一回反射型水平状ATRアクセサリ（Smart Orbit）を用い、ATR法（Diamondクリスタル）で行う。また、得られたスペクトルはCO_2除去、ATR補正、正規化のデータ処理を施した後、吸光度（ABS）で表示する。また、測定条件及び各種補正処理の詳細は、FT－IRスペクトルと共に図中に併記する。

C　結果および考察

測定結果及び比較試料として測定を行った漆、天然アスファルトのFT-IRスペクトルを図１に示す。黒褐色物質のFT-IRスペクトルは、3369cm^{-1}のブロードな吸収のほか、1617cm^{-1}、1400cm^{-1}、1032cm^{-1}に吸収が認められる。一方、漆や天然アスファルトのFT-IRスペクトルでは、2960cm^{-1}、2930cm^{-1}、2860cm^{-1}付近に見られるメチル基およびメチレン基のC-H伸縮振動に特徴があり、天然アスファルトでは特にこれら炭化水素に基づく吸収が強く現れる点に大きな特徴がある。

今回、調査を行った黒褐色物質には漆や天然アスファルトに見られる炭化水素に基づく吸収が認められないことから、付着物の材質は漆やアスファルトとは考えにくい。なお、黒褐色物質のFT-IRスペクトルでは、3369cm^{-1}、1032cm^{-1}に極めて強い吸収が見られており、前者はSi-OH伸縮振動、後者は珪酸塩による吸収と予想される。また、実体鏡下での観察では、黒褐色物質部分では全体的には粘土のようなきめが細かい物質が付着しているほか、多少の鉱物粒が見られる状況にあった。図中最下段に土壌のFT-IRスペクトルを掲げたが、各吸収帯の波数も良く一致しており、類似したパターンとなっていることが確認できる。このことから、土器内面の付着物は土壌や粘土等の鉱物である可能性もある。



第11図　FT－IRスペクトル

引用文献

山田富貴子　1986　「赤外線吸収スペクトル法」『機器分析のてびき第１集』化学同人　1-18

2　種実等同定

株式会社古環境研究所

A　はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

B　試　　料

試料は、縄文時代前期前葉から中葉を中心とする遺跡から出土した堆積物である。内訳は、遺構名SS7・2層、SK4・一括、SK8・一括、SK9・5層、SK2・一括、4E11・SK1・焼土一括の計6点である。

C　方　　法

試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

1）試料12,000cm^3（全量）に水を加え放置し、泥化を行う。

2）攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25mmの篩で水洗選別を行う。

3）残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数を行う。

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

D　結　　果

いずれの試料からも植物遺存体は検出されなかった。

E　所　　見

深谷遺跡採取堆積物について水洗を行ったが、大型植物遺存体は検出されず、炭細片と根片が観察できるのみであった。

引用文献

南木睦彦　　1993　「葉・果実・種子.日本第四紀学会編」『第四紀試料分析法』東京大学出版会p.276-283

3　動物遺体同定

A　はじめに

一般に日本の国土は、火山灰性の酸性土壌に広く覆われ、動物遺存体の保存状態には恵まれていない。そのため、遺跡で動物遺存体が出土するのは貝塚、石灰岩地帯の洞穴や岩陰が代表的で、近年では湿地環境の遺跡や遺構からも多くの動物遺存体が報告されつつある。しかし、乾燥した沖積平野遺跡ではほとんどの動物遺存体が、長い年月の間に腐食して土に還ってしまっている。その中でも動物の歯、特にエナメル質は、動物骨格の中でも腐食に強く、特に大きく堅固なウシやウマの臼歯のエナメル質が、乾燥環境から出土する例は珍しくなく、微細な魚骨の歯のエナメル質は、発掘中に肉眼で採集することは不可能であるが、遺構の埋土を１ミリ以上のフルイで洗うことによって採集できることがある。そうした哺乳類や魚類の歯のエナメル質、灰化して無機質化した微細な獣魚骨からそれぞれの種類を同定し、その生態的情報を援用して当時の環境を復元したり、過去の人々の生業や食生活を知ることができる。

B　試　　料

試料は、縄文時代前期前葉から中葉を中心とする遺跡から出土した堆積物である。内訳は、遺構名SS7・２層、SK4・一括、SK8・一括、SK9・５層、SK2・一括、SK1・焼土一括の計６点である。

C　方　　法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。

D　結　　果

1）SS7・２層

検出されなかった。

2）SK4・一括

検出されなかった。

3）SK8・一括

検出されなかった。

4）SK9・５層

検出されなかった。

5）SK2・一括

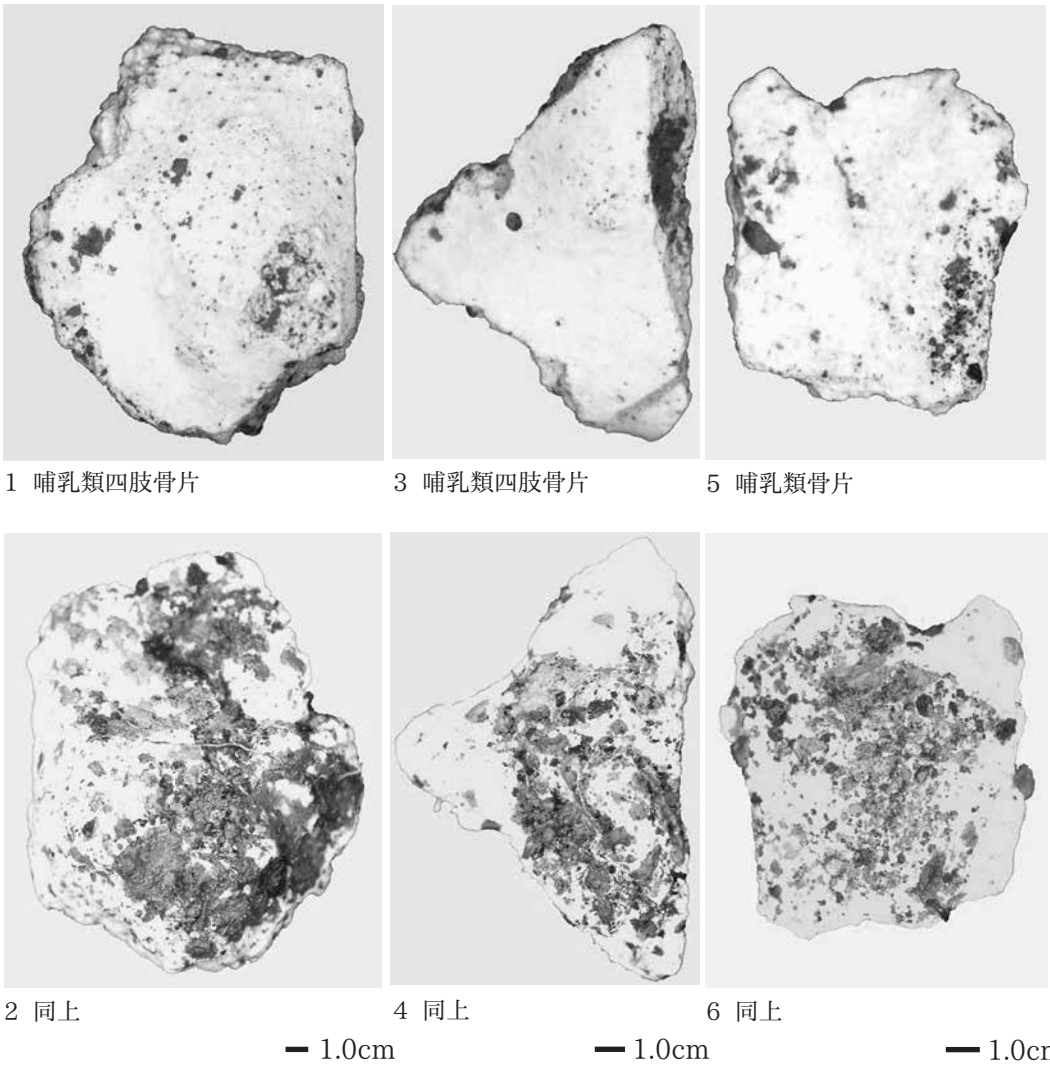
検出されなかった。

6）SK1・焼土一括

哺乳類四肢骨片２、哺乳類骨片８が検出された。

E　所　　見

深谷遺跡採取堆積物について水洗を行った結果、SK1・焼土一括より哺乳類四肢骨片、哺乳類骨片が検出されたが、細片であり同定には至らなかった。



第12図　動物遺存体

第Ⅶ章　ま　と　め

1　土　　器（図版６～８）

今回の調査では、狭小の丘陵地から縄文時代早期中葉から前期後葉の土器が出土した。各時期の土器の出土量は少なかったが、富山県と長野県との境に位置する糸魚川地域における当段階の良好な資料を追加できたと考える。以下では各段階の概要を示すことにする。

本遺跡から出土した縄文土器で最も古いものはⅠ群土器とした早期中葉の沈線文系土器である。出土点数はわずかであったが、図版６－１～３、６は平行沈線間や沈線区画内部に貝殻腹縁文が充填されている点が特徴である。これらは関東地方の田戸上層式に併行すると考えられ、さらには上越市八斗蒔原遺跡［坂上2004］で出土したこの段階の土器の古相と併行関係にあると考えられる。田戸上層式併行でも古相［遠藤2005a・b］の土器は、周辺では他に糸魚川市岩野Ｅ遺跡［高橋ほか1986］、同大角地遺跡［加藤・松永ほか2006］からも出土しており、近年少しずつ報告例を増やしている。

Ⅱ群土器とした早期末葉～前期初頭段階はまずＡ～Ｃ類を見る。Ａ類の図版６－９・11・12は絡条体圧痕文が施文されるもので、原体は比較的細い。Ｂ類の一部19・20には内面に条痕文が施されていないものが認められる。内外面ともに縄文を施すＣ類の21～24は、周辺では大角地遺跡［寺村・安藤ほか1979；加藤・松永ほか2006］、富山県極楽寺遺跡［小島1965］で出土している。一方、八斗蒔原遺跡、大角地遺跡、極楽寺遺跡で出土した外面に縄文、内面に条痕文が施文される土器は深谷遺跡では出土していない。以上の特徴からＡ～Ｃ類は絡条体圧痕文土器群の「後半期」［小熊2000a・b］に比定し得ると考える。

Ｄ類の図版６－26～30は体部上部から口縁部への開きが比較的弱く、棒状工具による側面押圧が連続する隆帯と非結束羽状縄文が施文される点が特徴で、長野県を中心に分布する塚田式土器に類似する。Ｄ類はＡ～Ｃ類よりはやや新しく、以下のＦ～Ｈ類よりは古いと考えられる。

次にＦ～Ｈ類について考える。撚糸側面圧痕文や沈線、斜縄文で文様が構成されるＦ類（図版７－39～43）は、周辺では極楽寺遺跡、富山県南太閤山Ⅰ遺跡Ａ地区下層［山本ほか1986］、中里村干溝遺跡［佐藤ほか1994］、新潟市新谷遺跡［前山1994］で出土している。器厚が比較的薄く、口縁部が大きく内湾し、指頭圧痕が横位、斜位に連続するＧ類（図版７－44～46）は東海地方に分布の中心がある木島Ⅶ式土器と考えられ、周辺では南太閤山Ⅰ遺跡Ａ地区下層で類似例が出土している。口縁部下端に段をもつＨ類の図版７－47は、上越地域における前期初頭段階の標識資料となっている糸魚川市小出越遺跡［鈴木ほか1988］出土の深鉢に器形、文様が類似しており、同時期、あるいはやや新相と考えられる。以上の特徴からＦ～Ｈ類は前期初頭の新相、県内における近年の編年では、前期前葉２期［寺﨑・石原1999］、前期初頭２段階［寺﨑1999］に相当し、そのほかのⅠ・Ｊ類も同時期のものと考えたい。

Ⅲ群土器とした前期前葉段階の土器の出土は少なかった。周辺では大角地遺跡で本段階の土器が認められる。

Ⅳ群土器とした前期中葉段階は点列状刺突文が密に巡る図版７－Ａ類の64・65から検討する。破片が小さく器種・器形は判然としないが、平口縁で、口縁部が弱く外反する器形である。文様は横位の点列

状刺突文が口唇部直下より少なくとも５段以上が密に巡っている。胎土中における繊維の混入は同時期のＢ類より少なく、極小量である。器面の調整は丁寧で、器厚はＢ類より概して薄い。これらの特徴から、Ａ類は北魚沼郡堀之内町清水上遺跡の出土土器をもとに型式設定された根小屋式土器［寺﨑1996・1997・1999］と考えられる。

口縁部に櫛歯状工具による斜位、あるいは横位の点列状刺突文とそれに平行する沈線により文様が構成されるＢ類の図版７－66～74は、上述のＡ類と比べ器厚が厚く、胎土中に含む繊維の混入が多く、焼成は良好とは言い難い。これらは北関東や長野県に分布の中心がある有尾式土器と考えられ、周辺では糸魚川市庭平遺跡［寺村・安藤ほか1979］に類似例が認められる。

Ｖ群土器とした前期後葉段階の土器は前期前葉と同様に出土量は少なかった。周辺では大角地遺跡で本段階の肋骨文が施文される深鉢が認められる。

最後に出土土器の消長が似通っている大角地遺跡の報告書［松永2006］で示された第１～５段階と比較しておく。第１段階は早期中葉、田戸上層式土器併行段階とされ、本遺跡ではⅠ群土器が併行する。第２段階は早期末から前期初頭段階とされ、本遺跡でのⅡ群土器と併行する。なお、大角地遺跡のまとめで多用された「極楽寺式土器」は本遺跡Ⅱ群土器Ａ～Ｄ類に併行するものと考えられる。第３段階は前期前葉、関山式土器併行段階とされ、本遺跡のⅢ群土器と併行する。第４段階は前期中葉、有尾式土器併行段階とされた。本遺跡ではⅣ群土器が併行し、越後系の根小屋式土器と北関東・長野系の有尾式土器がともに出土した。第５段階は前期後葉、諸磯ａ式土器併行段階とされ、本遺跡ではⅤ群土器と併行する。このように両遺跡の出土土器の消長が似通っていることが改めてわかるが、さらには糸魚川地域全体の早・前期土器の消長とも共通している可能性がある。

２　遺　　構

遺構は集石土坑１基、土坑21基、ピット165基、道状遺構２条が検出された。土器が出土した遺構は少なく、集石土坑SS7、土坑SK18、道状遺構SD5とSD6などからⅡ群土器が出土した。Ⅱ群土器とした早期末葉から前期初頭の土器の全体に占める割合は高く、また分布もSD5以西全体から出土していることから、そのほかの遺構の多くもこの時期の所産の可能性がある。以下では各遺構について若干の考察を行う。

集石土坑SS7は調査区の南端を縦断する道状遺構SD6のさらに南側の斜面に立地している。平面形は楕円形で長径122cm・短径82cm・深さ25cmを測る。断面形は斜面に立地しているためか、北側の掘り込みが深く、南側はごく浅くなる弧状を呈する。集石を構成する礫の大半は褐色土の１層から出土している。土器は１層より早期末葉～前期初頭のものと考えられる縄文施文の胴部破片が１点出土している。このような集石土坑は、小薬一夫が関東地方の集石を基に設定した形態分類［小薬1999］によれば「礫が覆土の上層部のみに覆う」タイプといえそうである。機能は「食物を蒸し焼きなどにする調理施設」との考え方もある。周辺では八斗蒔原遺跡から１基検出されている。平面形は円形で、長径125cm・短径105cm・深さ21cmを測る。礫は覆土に散在しており、小薬分類によれば「礫の充填密度が薄い」タイプといえそうである。土器の出土がなく時期は不明であるが、包含層出土土器から早期中葉から前期初頭頃の所産と考えられる。

焼土が厚く堆積する土坑は３基検出された。平面形は楕円形で、長径は120～140cmのSK1、SK3と長径70cmのSK2があり、深さは10～16cmを測る。それぞれの土坑に重複の痕跡は認められない。

SK2の南側には近接して並ぶ２個の扁平な礫があり、本土坑と有機的な関係にあると考えられる。これらは厚い焼土の堆積する浅い土坑という形態から炉跡と考えたい。ただ、各土坑の周囲に認められるピットは竪穴住居を構成するものとは現状では考えられないため、屋内炉ではなく、単独の屋外炉としたい。時期については土器の出土がなく不明であるが、県内では前期中葉以降に、住居内に炉が設けられることが多くなるようなので［増子1999］、本遺跡の包含層出土土器の主体である早期末葉～前期初頭頃の所産と考えたい。そのほかの土坑については、性格付けはできなかった。

今回の調査では、竪穴住居と認定し得る落ち込みやピットの配列が認められなかった。周辺で遺跡の時期が重なる大角地遺跡の検出例を概観すると、早期末～前期初頭の年代が与えられたSI166は、平面形が円形、または方形で、長径3.75m、短径2.9m、深さ10cmほどで、中央に地床炉と考えられる不整方形の焼土の広がりが認められた。住居内からはピット12基、土坑１基が検出されたが、柱穴は主柱穴４本の正方形、もしくは５本の正方形から構成されるという。一方、前期後葉（諸磯a式土器段階）とされたSI14は、平面形が円形に近く、南北幅3mほど、深さ30cmほどである。ピットは７基以上検出され、壁付近のものが柱穴となる可能性が高いとされた。糸魚川地域では、日本海を望める台地や丘陵の縁辺部を中心に、早・前期の竪穴住居の発見が今後も期待される。

最後に道の可能性が考えられる遺構についてふれておく。遺構の記載でも述べたが、２条とも溝状の遺構で、地形の変換点に立地すること、両壁の深さと傾斜角度が異なること、底面直上に踏み固められたと考えられる薄い層が認められることから道状遺構とした。また、遺物包含層と同様の土層が覆土となっており、さらには早期末葉～前期初頭の土器が出土したことから、同時期の所産の可能性が高いとした。調査区の東側、急斜面から緩斜面への変換点に立地するSD5は、調査区を南北に横断している。幅は２～2.5mほどで、立ち上がりは東側が緩やかで深く、西側が浅く急である。底面はほぼ平坦で、東側がわずかに高くなっている。長さは27m以上あり、南側は基底部の高度をあげながら調査区外へ続く。北側は現代の山道に繋がるかのように両壁がなくなっている。基底部直上の覆土はしまりが強く、基本層序のⅢ層が小ブロック状に多く混入していた。土器は覆土の中層から底部にかけて早期末葉～前期初頭の深鉢の破片が少量出土した。縄文時代前半の事例は、鹿児島県域で検出が相次いでいるという［繁昌2003］。一方、新潟県内では調査事例は晩期前葉頃の朝日村元屋敷遺跡［滝沢2002］にあるのみで希少である。それに加えて、現代まで道のくぼみが残っていたことや、くぼみや周辺のⅠ層から古代～近世の遺物が若干出土したこと、Ⅰ層が溝内部まで入り込んでいるように観察される個所があることから、覆土中において縄文時代の遺物が出土したことをもって縄文時代の所産と断定するには根拠が弱いことや、性格についても地形変換点における土地利用（山林と畑など）の境界や地番境の溝ではないかという指摘を受けている。しかし、溝が確認できたのはⅢ層直上であったこと、溝内部からは前述したように、縄文時代早期末～前期初頭の土器のみしか出土していないという状況から縄文時代の道の可能性を示しておきたい。今回の発見で県内における道の存在が注目され、今後検出例が増加していくことが期待される。

遺構は、その多くが早期末葉～前期初頭頃の所産の可能性がある。この頃は、複数の住居跡が検出された場合、中央広場が存在しその周囲に弧状に住居跡が並び、中央広場内やその周囲に土坑や焼土遺構などが群在するようである［石坂1999］。本遺跡は、平坦部分が少ない、馬背状の丘陵先端に立地し、竪穴住居の検出もないことから、中央広場をもつような集落跡とは言えない。一方、蛇紋岩製磨製石斧の未成品が多数出土したことから石斧製作跡として、あるいは礫石錘がまとまって出土したことから漁撈等に関連して季節的に、あるいは一時的に利用された場所であった可能性が遺物からうかがえる。

要　　約

1　深谷遺跡は、新潟県糸魚川市田伏字深谷に所在する。

2　発掘調査は北陸新幹線建設に伴い、平成18年度、19年度に実施した。調査面積は1,370m^{2}である。

3　遺跡は日本海に流れ込む海川と早川の中間地にあり、東から西へ傾斜する細長い丘陵上に立地する遺構検出面の標高は約31～35mである。

4　調査の結果、遺構は縄文時代早期～前期の集石土坑1基、土坑21基、ピット165基、道状遺構2条が検出された。道状遺構は調査区を南北に横断するものと、南端を東西に縦断するものがあり、出土土器から早期末葉から前期初頭の所産と考えられ、県内では最も古い事例となる可能性がある。

5　出土した縄文土器は、早期中葉、早期末葉から前期初頭、前期前葉、前期中葉、前期後葉のものがある。各時期の土器の出土量は少なかったが、新潟県域と富山、石川、長野県域との境に位置する糸魚川地域における当段階の良好な資料が追加できた。

6　石器は、蛇紋岩製の原石、磨製石斧の未成品や砥石など磨製石斧の製作が行われていたことが窺える資料が出土した。

7　本遺跡では竪穴住居などの建物が検出されなかったことから集落跡の可能性は低いが、蛇紋岩製磨製石斧の未成品が多数出土したことからこれらの製作の場所として、あるいは礫石錘がまとまった出土したことから漁撈関連の場などとして一時的ではあるが断続的に利用した可能性が考えられる。

引用・参考文献

石塚圭介　1999　「第3節 集落と住居 第1項 遺跡の立地と集落」『新潟県の考古学』新潟県考古学会

遠藤　佐　2005a　「新潟県における沈線文系土器群の様相～田戸上層式以降を中心に～」『第18回縄文セミナー 早期中葉の再検討－資料集－』縄文セミナーの会

遠藤　佐　2005b　「新潟県における沈線文系土器群の様相」『第18回縄文セミナー 早期中葉の再検討－記録集－』縄文セミナーの会

小池義人　1986　「石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第45集 中原遺跡・岩野A遺跡・岩野E遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

小熊博史　1994　「布目遺跡」『巻町史』資料編1考古　巻町

小熊博史　1999　「第2節 縄文土器 第2項 早期」『新潟県の考古学』新潟県考古学会

小熊博史　2000a　「新潟県における絡条体圧痕文土器の様相」『第13回縄文セミナー 早期後半の再検討』 縄文セミナーの会

小熊博史　2000b　「新潟県における絡条体圧痕文土器の様相」『第13回縄文セミナー 早期後半の再検討－記録集－』縄文セミナーの会

加藤　学　2006　「蛇紋岩製磨製石斧の大量生産」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第173集 大角地遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤　学・松永篤知ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第173集 大角地遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

小島俊彰　1965　『極楽寺遺跡発掘調査報告書』富山県教育委員会

小薬一夫　1999　「遺構研究 集石遺構」『縄文時代』第10号〔第3分冊〕　縄文時代文化研究会

坂上有紀　2004　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第129集 八斗蒔原遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

佐藤雅一ほか 1994　『中里村文化財調査報告書第６輯 干溝遺跡』中里村教育委員会

鈴木俊成ほか 1988　『北陸自動車道糸魚川地区発掘調査報告書Ⅴ 小出越遺跡』新潟県教育委員会

関 雅之・藤田富士夫　2004　「北陸Ⅱ新潟県・富山県」『日本玉作大観』吉川弘文館

髙橋保雄　2003　「石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第119集 北野遺跡Ⅰ（下層）』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

髙橋保雄・鈴木俊成　1990　「不定形石器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第55集 清水上遺跡』新潟県教育委員会

高橋 保ほか　1986　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第45集 中原遺跡・岩野Ａ遺跡・岩野Ｅ遺跡』新潟県教育委員会

滝沢規朗ほか 2002　『朝日村文化財報告書第22集 元屋敷遺跡Ⅱ（上段）』 新潟県朝日村教育委員会・新潟県

寺﨑裕助　1996　「B 縄文時代前期前半の土器について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第72集 清水上遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

寺﨑裕助　1997　「新潟県の様相」『第10回縄文セミナー 前期中葉の諸様相』縄文セミナーの会

寺﨑裕助　1999　「新潟県における縄文時代前期の土器―その標識と編年―」『縄文土器論集―縄文セミナー10周年記念論文集』六一書房

寺﨑裕助・石原正敏　1999　「第２節 縄文土器 第３項 前期」『新潟県の考古学』新潟県考古学会

寺村光晴・安藤文一ほか　1979　『大角地遺跡－飾玉とヒスイの工房址－』青海町教育委員会

藤田富士夫　2004　「玦状耳飾の遺跡と硬玉」『日本玉作大観』吉川弘文館

繁昌正幸　2003　「遺跡と道跡―南九州の縄文時代早期を主として―」『研究紀要 縄文の森から』創刊号　鹿児島県立埋蔵文化財センター

前山精明　1994　「新谷遺跡」『巻町史』資料編１考古　巻町

増子正三　1999　「第３節 集落と住居 第３項 炉址」『新潟県の考古学』新潟県考古学会

松永篤和　2006　「第Ⅵ章１　大角地遺跡出土の縄文土器について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第173集 大角地遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

山本正敏　1986　「北陸の縄文時代前期前葉における磨製石斧の製作」『大境』10　富山考古学会

山本正敏　2005　「富山県内の縄文早期・前期の磨製石斧」『大境』25　富山考古学会

山本正敏　1988　「魚津市早月上野遺跡における磨製石斧の製作」『大境』12　富山考古学会

山本正敏ほか 1986　『都市計画街路 七美・太閤山・高岡線内遺跡群 発掘調査概要（4）』富山県教育委員会

深谷遺跡　遺構観察表（1）

種別	番号	グリッド	平面形	断面形	覆土	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面高（m）	出土遺物	切り合い関係
SF	1	4E11	楕円形	弧状	ブロック状	120	58	16	32.71		
SF	2	4E12･13	楕円形	弧状	ブロック状	70	53	10	32.35		＞P207
SF	3	5E25、5F5、6F1	楕円形	弧状	水平	140推定	80推定	15	31.62	石器	＞P208
SK	4	2D24･25、2E4･5	方形	弧状	レンズ状	101	99	12	32.71		
SD	5	2C･2D･2E		弧状	レンズ状	1842以上	246	85	32.11	土器、石器	
SD	6	3C･3D･4～7E		弧状	水平	―	70	12～29	31.78～30.52	石器、土器	
SS	7	5E3･4	楕円形	弧状	レンズ状	122	82	25	30.80		
SK	8	1D13･14	楕円形	台形状	レンズ状	105	74	35	33.61		＞SK9
SK	9	1D13･14	（楕円形）	台形状	レンズ状	―	60	24	33.62		＜SK8
SD	10	1D3･8		弧状	単層	206	39	9	34.28		
SK	11	1D7	楕円形	台形状	レンズ状	113	53	25	34.27		
SK	12	1D15	楕円形	弧状	レンズ状	88	78	28	33.20		
SK	13	1D14	楕円形	半円状	レンズ状	73	55	33	33.50		
P	14	2D6	円形	U字状	水平	31	30	54	32.66		
SK	15	3D12	楕円形	弧状	ブロック状	75	48	13	31.54		
P	16	3D8･13	楕円形	弧状	レンズ状	73	45	16	31.21		
SK	17	5E12･17	楕円形	弧状	水平	91	67	14	31.64	土器	
SK	18	5E11･12･16･17	楕円形	弧状	レンズ状	132	84	19	31.72	土器	
SK	19	1D14･15･19･20	楕円形	弧状	単層	147	42	11	33.47		
SK	20	1D19･20	楕円形	弧状	レンズ状	152	64	21	33.41	土器	
P	21	1D20	楕円形	弧状	レンズ状	66	62	13	33.34		
SK	22	3E4･5･9･10	楕円形	弧状	水平	115	54	22	32.47	土器、石器	
SK	23	4D18･19	楕円形	弧状	レンズ状	101	83	23	31.51		
SK	24	4D19･24･25	楕円形	弧状	レンズ状	163	90	17	31.57	土器	
SK	25	3D14	楕円形	弧状	単層	86	62	15	31.57		
SK	26	2D14	楕円形	半円状	ブロック状	77	46	14	31.91		
SK	27	4F5･10	楕円形	弧状	レンズ状	87	81	19	31.55		
SK	28	6E14･19	楕円形	台形状	水平	145	85	33	30.83		
SK	29	4E7･8	円形	弧状	ブロック状	62	61	26	32.27		
P	31	1D6･7	円形	U字状	単層	35	32	20.5	34.46		
P	32	1D7	円形	弧状	単層	35	31.5	20	34.46		
P	33	1D9	円形	U字状	単層	18	15	20	33.75		
P	34	2D11	円形	半円状	単層	29	28	28	32.90		
P	35	2D13	楕円形	半円状	単層	35	25	29	32.01		
P	36	2D9	楕円形	半円状	単層	26	20	16.5	31.56		
P	37	2D9	楕円形	半円状	単層	23	18	15.5	31.62		
P	38	2D9･10･14･15	楕円形	半円状	単層	47	33	25	31.77		
P	39	2D14･15	楕円形	半円状	単層	30	27	12.5	31.99		
P	40	2D20	楕円形	半円状	単層	33	23	14.5	32.01		
P	41	3D1	楕円形	半円状	単層	31.5	23	18	31.20		
P	42	3D1	円形	半円状	単層	23	21	18	31.12		
P	43	3D6	円形	半円状	単層	34	30	21	31.31		
P	44	3D10	楕円形	半円状	単層	38	23	21	31.71		
P	45	3D6･7	楕円形	半円状	単層	46	40	42	31.13		
P	46	3D7	楕円形	半円状	単層	30	24	28.5	31.33		
P	47	3D7	楕円形	弧状	単層	28	22	10	31.42		
P	48	3D7	楕円形	半円状	単層	36	26	24	31.31		
P	49	3D7	楕円形	半円状	単層	23	17	12	31.08		
P	50	3D13	楕円形	半円状	ブロック状	65	58	28.5	31.20		
P	51	3D13	円形	半円状	単層	19.5	18	12	31.38		
P	52	3D9	円形	半円状	単層	32.5	32	31	31.05		
P	53	3D9･14	楕円形	半円状	単層	29	19	21	31.35		
P	54	3D9･14	円形	弧状	単層	25	22	12	31.25		
P	55	3D14	円形	U字状	単層	22.5	22	31	31.54		
P	56	3D14	楕円形	半円状	単層	28	18	20	31.66		
P	57	3D14	円形	半円状	単層	21	17	14	31.74		
P	58	3D19	楕円形	弧状	単層	29	21	11	31.93		
P	59	3D19･20	楕円形	弧状	単層	59	42	12.5	31.99		
P	60	3D19	円形	半円状	単層	28	27	26	31.89		
P	61	3D20	楕円形	半円状	単層	33	27	26	31.92		
P	62	3D9	楕円形	半円状	単層	31	24	18	30.78		
P	63	3D15	楕円形	弧状	単層	31	19	10	31.50		
P	64	3D20	楕円形	弧状	単層	42	36	11	31.84		
P	65	3D19･24	楕円形	弧状	単層	47	37	19	32.26		
P	66	3D24･25	楕円形	弧状	単層	36	30	14	32.44	土器	

深谷遺跡　遺構観察表（2）

種別	番号	グリッド	平面形	断面形	覆土	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面高（m）	出土遺物	切り合い関係
P	67	3D25	楕円形	半円状	単層	45	37	41	31.96		
P	68	4D16	円形	半円状	単層	22	19	19	31.76		
P	69	3D20	円形	弧状	単層	22	21	11	32.06		
P	70	3D23	楕円形	半円状	単層	33	27.5	35	32.07		
P	71	3D7	楕円形	弧状	単層	58	43	17	31.22		
P	72	3D15･20	楕円形	弧状	単層	34	28	13	31.74		
P	73	5E1	楕円形	半円状	単層	33	28	21	31.24		
P	74	4E2	円形	半円状	単層	22	21	15	31.35		
P	75	5E8	円形	半円状	単層	20	19	12	31.36		
P	76	4D21	円形	弧状	単層	36	32	8	32.09		
P	77	4D21	円形	半円状	単層	30	28	18	31.91		
P	78	4D17･22	円形	U字状	単層	20	16	25	31.75		
P	79	4E2	円形	U字状	単層	20	19	26	32.06		
P	80	4E2	楕円形	弧状	単層	48	37	11	32.21		
P	81	6E6	円形	半円状	単層	22	18	16	30.78		
P	82	6E6	楕円形	弧状	単層	30	23	11	30.84		
P	83	6E6･7	円形	半円状	単層	42	38	28	30.60		
P	84	6E12	楕円形	半円状	単層	38	32	17	31.10		
P	85	6E17	楕円形	半円状	単層	35	35	17	31.12		
P	86	6E17	円形	半円状	単層	32	28	33	31.03		
P	87	6E17	円形	弧状	単層	27	25	9	31.37		
P	88	6E17･18	楕円形	半円状	単層	35	29	22	31.23		
P	89	6F4	円形	半円状	単層	25	23	17	31.55		
P	90	6F1	楕円形	U字状	単層	31	23	59	31.20		
P	91	5F5	円形	半円状	単層	35	33	25	31.37		
P	92	5F4	楕円形	U字状	単層	23	15	26	31.39		
P	93	5F4	円形	半円状	単層	37	35	28	31.25		
P	94	5F9･10	円形	半円状	単層	33	29	21	31.22		
P	95	5F9･10	円形	半円状	単層	29	26	19	31.10		
P	96	5F2	楕円形	半円状	単層	28	19	15	31.55		
P	97	5F2	楕円形	半円状	単層	28	19	17	31.52		
P	98	5F2･3	楕円形	半円状	単層	37	31	24	31.46		
P	99	5F1	楕円形	半円状	単層	33	27	16	31.53		
P	100	5F1	楕円形	半円状	単層	25	19	15	31.55		
P	101	5E21	楕円形	弧状	単層	34	26	11	31.80		
P	102	5E21	楕円形	弧状	単層	37	24	10	31.76		
P	103	5E21	円形	半円状	単層	22	19	17	31.62		
P	104	5E21	円形	U字状	単層	20	17	23	31.67		
P	105	4F5	円形	半円状	単層	24	21	18	31.78		
P	106	4F5	円形	半円状	単層	26	22	24	31.66		
P	107	4F4	円形	半円状	単層	24	20	17	31.74		
P	108	4F4	円形	半円状	単層	17	16	20	31.76		
P	109	4F4	円形	弧状	単層	28	26	13	31.94		
P	110	4F4･9	円形	半円状	単層	59	56	29	31.52		
P	111	4F9	楕円形	半円状	単層	50	35	26	31.70		
P	112	4E23	楕円形	半円状	単層	39	29	29	31.84		
P	113	4E23、4F3	円形	弧状	単層	33	30	11	31.96		
P	114	4F2･3	楕円形	半円状	単層	53	43	30	31.87		
P	115	4E22	楕円形	弧状	単層	35	29	9	31.95		
P	116	4E25	円形	半円状	単層	24	22	12	31.81		
P	117	4E25	円形	半円状	単層	20	16	13.5	31.97		
P	118	4E19･20	楕円形	弧状	単層	33	26	13	32.03		
P	119	4E24	楕円形	半円状	単層	36	30	23	31.97		
P	120	2E5	楕円形	半円状	単層	38	27	32	32.84		
P	121	3E10	楕円形	半円状	単層	40	29	28	32.47		
P	122	4E19	楕円形	弧状	単層	34	22	13	32.13		
P	123	4E14･19	円形	半円状	単層	26	25	23	32.01		
P	124	3E4	楕円形	半円状	単層	40	32	23	32.45		
P	125	4E17	楕円形	U字状	単層	33	21	37	32.19		
P	126	4E12･17	楕円形	弧状	単層	35	23	16	32.30		
P	127	4E16･17	円形	半円状	単層	27	23	26	32.28		
P	128	4E16	円形	弧状	単層	31	27	14	32.38		
P	129	4E16	楕円形	半円状	単層	32	22	17	32.26		
P	130	3E25	円形	U字状	単層	29	26	38	32.14		
P	131	3E20	円形	半円状	単層	23	22	21	32.37		

深谷遺跡　遺構観察表（3）

種別	番号	グリッド	平面形	断面形	覆土	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	底面高（m）	出土遺物	切り合い関係
P	132	3E20	楕円形	弧状	単層	33	28	13	32.28		
P	133	3E25	楕円形	半円状	単層	52	31	32	32.16		
P	134	3E20	楕円形	半円状	単層	26	21	27	32.43		
P	135	3E19	円形	U字状	単層	20	19	26	32.48		
P	136	3E18･19	円形	半円状	単層	22	20	21	32.47		
P	137	3E13	円形	半円状	単層	27	26	25	32.43		
P	138	3E13･14	楕円形	半円状	単層	25	19	19	32.59		
P	139	3E14	円形	弧状	単層	27	23	13	32.62		
P	140	3E13	円形	半円状	単層	25	25	23	32.66		
P	141	3E19	円形	半円状	単層	30	29	21	32.41		
P	142	3E12	円形	半円状	単層	25	21	17	32.24		
P	143	3E1･6	楕円形	弧状	単層	46	40	17	32.61		
P	144	3D20	楕円形	半円状	単層	22	15	17	32.56		
P	145	3D16	楕円形	半円状	単層	38	25	39	32.06		
P	146	2D23	円形	半円状	単層	20	16	15	32.70		
P	147	2D18	円形	半円状	単層	23	21	19	32.56		
P	148	2D17	楕円形	半円状	単層	25	18	19	32.84		
P	149	1D20	円形	弧状	単層	28	24	13	33.31		
P	150	1D15	円形	半円状	単層	27	23	27	33.11		
P	151	4D22	楕円形	弧状	単層	82	65	16	31.93		
P	152	3D21	円形	半円状	単層	20	17	22	32.65		
P	153	3D21･22、3E1･2	楕円形	弧状	単層	75	53	15	32.52		
P	155	3E2	楕円形	弧状	単層	50	42	13	32.54		
P	156	2E9	楕円形	弧状	単層	28	23	13	32.91		
P	157	2D19	円形	弧状	単層	36	36	18	32.40		
P	158	6E8･9･13･14	円形	弧状	単層	36	32	18	30.70		
P	159	6E13	楕円形	半円状	単層	25	19	28	30.92		
P	160	6E18	円形	半円状	単層	37	35	40	30.89		
P	161	1D19	楕円形	半円状	単層	36	24	23	33.66		
P	162	1D14	楕円形	弧状	単層	48	36	12	33.82		
P	163	6E19	楕円形	台形状	レンズ状	62	39	30	30.88		
P	164	6E20	楕円形	半円状	単層	39	31	22	31.99		
P	165	6E20	楕円形	半円状	単層	33	29	18	31.19		
P	166	6F9	円形	U字状	単層	19	17	28	31.51		
P	167	4E7	円形	半円状	単層	27	23	16	32.20		
P	168	4E7	楕円形	半円状	単層	23	17	15	32.33		
P	169	4E6･7	円形	半円状	単層	19	17	10	32.44		
P	170	3D24･3E4	楕円形	弧状	単層	68	51	20	32.42		
P	171	4E8･13	楕円形	半円状	単層	35	20	28	32.14		
P	172	4E8	楕円形	弧状	単層	52	39	21	32.19		
P	173	6F1	円形	半円状	単層	20	17	20	31.39		
P	174	5F9	楕円形	半円状	単層	53	22	30	31.22		
P	175	6E21･22	楕円形	台形状	レンズ状	79	60	23	31.39	土器	
P	176	6F2･3	円形	U字状	単層	24	20	30	31.35		
P	177	6F2	円形	半円状	単層	31	30	34	31.29		
P	178	5F5･10	楕円形	半円状	単層	45	29	24	31.23		
P	179	4E6	楕円形	半円状	単層	60	29	38	32.49		
P	180	4E23	円形	半円状	単層	24	21	27	32.16		
P	181	3E5	楕円形	半円状	単層	32	21	16	32.41		
P	182	4E19	楕円形	半円状	単層	33	23	20	32.06		
P	183	3E9	楕円形	半円状	単層	39	30	42	32.37		
P	184	4E6	楕円形	半円状	単層	25	23	16	32.39		
P	185	4E11	楕円形	U字状	単層	25	17	30	32.39		
P	186	4E11･12	楕円形	半円状	単層	40	25	32	32.26		
P	201	4E6	楕円形	弧状	単層	57	40	25	32.32		
P	202	6E13	楕円形	弧状	単層	75	50	17	30.81		
P	203	4E11	楕円形	弧状	単層	77	52	20	32.54		
P	204	4E7	楕円形	弧状	ブロック状	67	43	16	32.23		＞P205
P	205	4E7	楕円形	半円状	レンズ状	44	－	23	32.29		＜P204
P	206	4E7	楕円形	台形状	ブロック状	73	26	19	32.29		
P	207	4E13	楕円形	弧状	単層	65	41	17	32.33		
P	208	5E25、4F5	（楕円形）	半円状	単層	－	45推定	20	31.56		＜SD3

縄文土器観察表（1）

報告No.	出土位置					残存部位	器種	分類		口径底径	色調		胎土（混入物）	調整・施文		スス付着	備考
	グリット			遺構	層位			群	類		外面	内面		外面	内面		
	大		小														
1	4	E	10		Ⅱ	口	深鉢	Ⅰ	A		黄灰色	黄灰色	微砂粒	貝殻腹縁文、沈線、円形刺文	ナデ		
2	5	E	8		Ⅱ	口	深鉢	Ⅰ	A		黄灰色	褐灰色	砂礫	貝殻腹縁文、沈線	ナデ		
3	4	E	18		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅰ	A		橙色	にぶい黄橙色	砂粒	貝殻腹縁文、沈線	ナデ		
4	5	E	24		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅰ	A		灰色	灰色	微砂粒	沈線	ナデ		
5	5	E	6		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅰ	A		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色		沈線	ナデ		
6	4	E	20		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅰ	A		灰黄褐色	灰黄褐色	砂礫、石英	沈線、貝殻腹縁文	ナデ		
7	4	E	18		Ⅰ・Ⅱ	胴	深鉢	Ⅰ	B		暗灰黄色	暗灰黄色	砂礫	ナデ	ナデ		8同一個体？
8	5	E	4		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅰ	B		にぶい黄褐色	暗灰黄色	砂礫	ナデ	ナデ		7同一個体？
9	4	E	9		Ⅱ	口	深鉢	Ⅱ	A		黒褐色	にぶい黄橙色	微砂粒、雲母	隆帯、条痕文	ナデ	外	
10	5	E	11	SK18	1	胴	深鉢	Ⅱ	A		にぶい黄褐色	暗灰黄色	微砂粒	絡条体圧痕文	ナデ	外	
11	4	E	3		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	A		にぶい黄褐色	にぶい褐色	微砂粒	絡条体圧痕文、条痕文	条痕文	外	12と同一個体
12	5	E	4		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	A		にぶい黄褐色	にぶい褐色	微砂粒	絡条体圧痕文、条痕文	条痕文		11と同一個体
13	5	E	15		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	B		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂礫、金雲母	条痕文	条痕文		
14	5	E	5		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	B		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	微砂粒、石英	条痕文	条痕文？		
15	5	E	5		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	B		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	微砂粒、石英	条痕文	条痕文		
16	6	E	21		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	B		暗灰黄色	灰黄褐色	微砂粒	条痕文	ナデ		
17	4	E	10		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	B		にぶい黄橙色	黒色	微砂粒、石英	条痕文	条痕文	内	
18	4	E	7		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	B		にぶい橙色	褐灰色	微砂粒	条痕文	条痕文		
19	3	D	17		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	B		にぶい黄橙色	褐灰色	砂礫	条痕文	ナデ		
20	5	E	5		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	B		黒褐色	にぶい黄褐色	微砂粒	条痕文	ナデ		
21	4	E	5		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	C		灰黄褐色	にぶい橙色	砂礫	斜縄文（LR）	縄文？		
22	4	E	4		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	C		橙色	橙色	砂礫、石英	斜縄文（LR）	斜縄文（LR）		
23	4	E	5		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	C		灰黄褐色	にぶい黄褐色	砂礫	縄文？	縄文？		
24	5	E	5		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	C		にぶい黄褐色	灰黄褐色	微砂粒	斜縄文（RL）	斜縄文（LR）	外	
25	7	E	21		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	E		にぶい橙色	にぶい黄橙色	砂礫	沈線、ナデ	ナデ		
26	4	E	5		Ⅱ	口	深鉢	Ⅱ	D		にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	石英、砂粒	隆帯、非結束羽状縄文（LR,RL）	ナデ		
27	2	D	12	SD5	2	口	深鉢	Ⅱ	D		にぶい橙色	にぶい橙色	微砂粒、石英	隆帯、非結束羽状縄文（LR,RL）	ナデ		補修孔1
28	2	D	14		Ⅱ上	口	深鉢	Ⅱ	D		にぶい橙色	橙色	微砂粒、石英	隆帯、非結束羽状縄文（LR,RL）	ナデ		27と同一個体
29	2	D	12	SD5	2	胴	深鉢	Ⅱ	D		灰褐色	にぶい褐色	微砂粒	隆帯、非結束羽状縄文（LR,RL）	ナデ	外	27と同一個体
	2	D	13	SD5	3		深鉢										
30	2	D	3	SD5	3	胴	深鉢	Ⅱ	D		にぶい褐色	にぶい橙色	微砂粒、石英	縄文（LR）？	ナデ		27と同一個体
	2	D	12	SD5	2		深鉢										
	2	D	13	SD5	3		深鉢										
31	5	E	11	SK18	1	口	深鉢	Ⅱ	E		暗灰黄色	黒褐色	礫	斜縄文（LR）	ナデ	外	
32	5	E	3		Ⅱ	口	深鉢	Ⅱ	D		橙色	灰黄褐色		隆帯、	ナデ		
33	5	E	10		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	E		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂礫	非結束羽状縄文(LR､RL)	ナデ		34と同一個体
	5	E	10	SD6	1		深鉢										
34	5	E	15		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	E		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂礫	非結束羽状縄文(RL､LR)	ナデ		33と同一個体
35	5	E	3	SS7	1	胴	深鉢	Ⅱ	E		黒褐色	黒褐色	微砂粒	非結束羽状縄文(RL､LR)	ナデ		
36	5	E	16	SK18	1	胴	深鉢	Ⅱ	E		黒褐色	黒褐色	礫	非結束羽状縄文(LR､RL)	ナデ		
37	4	E	23		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	E		黒褐色	黒褐色	砂粒	非結束羽状縄文(RL､LR)	ナデ		
38	4	E	18		Ⅰ・Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	E		黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒	縄文（LR）	ナデ		
39	2	D	13	試掘108T	Ⅱ	口	深鉢	Ⅱ	F		にぶい橙色	にぶい黄橙色	砂礫、石英	撚糸（R）側面圧痕文、短沈線	ナデ		
40	5	F	4		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	F		にぶい黄橙色	灰黄褐色	砂礫、石英	撚糸（R）側面圧痕文、斜縄文（LR）	ナデ		
41	6	E	21		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	F		にぶい黄橙色	灰黄褐色	微砂粒	短沈線	ナデ		
42	6	F	11		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	F		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	微砂粒	短沈線	ナデ		
43	6	F	1		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	F		にぶい黄橙色	灰黄褐色	微砂粒	短沈線	ナデ		
44	4	E	19		Ⅰ・Ⅱ	口	深鉢	Ⅱ	G		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂礫、金雲母	指頭圧痕、隆帯、隆体上に刺突、口端に刺突	ナデ、指頭圧痕		45、46と同一個体
45	4	E	19		Ⅰ・Ⅱ	口	深鉢	Ⅱ	G		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂礫、金雲母	指頭圧痕、隆帯、隆体上に刺突、口端に刺突	ナデ、指頭圧痕		44、46と同一個体
46	4	E	20		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	G		褐灰色	にぶい黄橙色	砂礫、金雲母	指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕		45、46と同一個体
	4	E	18		Ⅰ・Ⅱ		深鉢										
47	4	E	19		Ⅰ・Ⅱ	口～胴	深鉢	Ⅱ	H		灰黄褐色	灰黄褐色	砂粒	斜縄文（RL）、微隆起線文	ナデ	内外	補修孔1
	4	E	23				深鉢										
	4	E	24				深鉢										
48	6	F	2		Ⅱ	口	深鉢	Ⅱ	H		黒褐色	にぶい黄褐色	微砂粒	非結束羽状縄文（RL、LR）、口端に刺突	ナデ		補修孔1
49	4	E	23		Ⅰ・Ⅱ	口	深鉢	Ⅱ	H		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂礫、石英？	非結束羽状縄文（LR、RL）、口端に刺突	ナデ		
50	4	D	17		Ⅱ	口	深鉢	Ⅱ	H		淡黄色	にぶい黄橙色	砂礫	斜縄文（RL）	ナデ、指頭圧痕	内	

縄文土器観察表（2）

報告No.	出土位置					残存部位	器種	分類		口径底径	色調		胎土(混入物)	調整・施文		スス付着	備考
	グリット			遺構	層位			群	類		外面	内面		外面	内面		
	大		小														
51	5	E	5		Ⅱ	口～胴	深鉢	Ⅱ	H		にぶい褐色	にぶい黄褐色	砂礫、石英	縄文（R、L）、口縁下端に刺突	ナデ		
52	5	E	4		Ⅱ	口	深鉢	Ⅱ	I		にぶい褐色	にぶい黄褐色 にぶい褐色	砂礫	非結束羽状縄文（LR,RL）、口端に刺突、円形圧痕	ナデ		53、54、55と同一個体
53	5	E	4		Ⅱ	口	深鉢	Ⅱ	I		明赤褐色	にぶい褐色	砂礫	非結束羽状縄文（LR,RL）、口端に刺突	ナデ		52、54、55と同一個体
54	5	E	4		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	I		明赤褐色	にぶい褐色	砂礫	非結束羽状縄文(LR,RL)、凹線、円形圧痕	ナデ		52、53、55と同一個体
55	5	E	6		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	I		明赤褐色	にぶい黄橙色	砂礫		ナデ		52、53、54と同一個体
56	5	E	10		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅲ	A		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂礫	非結束羽状縄文（RL、LR）、口端に刺突	ナデ		57、58と同一個体
57	5	E	10	SD6	1	胴	深鉢	Ⅲ	A		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	砂礫、石英	非結束羽状縄文（RL、LR）、口端に刺突	ナデ		56、58と同一個体
58	5	E	10		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅲ	A		浅黄橙色	にぶい黄橙色	砂礫	非結束羽状縄文（RL、LR）、口端に刺突、羽状微隆起線文、爪形文	ナデ		56、57と同一個体
	5	E	15		Ⅱ		深鉢										
59	6	E			Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ	J		にぶい褐色	褐色	微砂粒	連続刺突文	ナデ		
60	5	E	8		Ⅱ	口	深鉢	Ⅲ	B		にぶい黄褐色	にぶい褐色	砂粒	ループ文（RL）	ナデ	外	
61	3	D	11		Ⅱ下	口	深鉢	Ⅲ	B		灰黄褐色	にぶい黄橙色	微砂粒、石英	撚紋（L）	ナデ		
62	4	E	5		Ⅱ	口	深鉢	Ⅲ	B		黄灰色	橙色	砂礫、雲母	縄文？、沈線	ナデ		
63	5	E	23		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅲ	B		にぶい黄橙色	黒褐色	砂礫、石英	連続刺突文	ナデ、指頭圧痕		
64	4	E	23		Ⅰ・Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	A		にぶい黄褐色	橙色	砂礫、石英	点列状刺突文	ナデ		センイ極少
65	4	E	24		Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	A		にぶい黄褐色	橙色	微砂粒、石英	点列状刺突文	ナデ		センイ極少
66	5	E	5		Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	B		灰黄褐色	橙色	砂礫	隆帯、点列状刺突文、点沈線	ナデ		センイ少
67	6	F	3		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅳ	B		にぶい褐色	橙色	砂礫、黒雲母	沈線、点列状刺突文	ナデ		センイ多
68	4	E	18		Ⅰ・Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	B		にぶい褐色	にぶい黄褐色	微砂粒？	沈線、点列状刺突文	ナデ		センイ多
69	5	E	5		Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	B		にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	微砂粒、雲母	沈線、点列状刺突文	ナデ		センイ少
70	3	E	15		Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	B		黒褐色	褐色	微砂粒	沈線、点列状刺突文	ナデ		センイ少
71	4	E	9		Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	B		褐色	灰黄褐色	砂礫	沈線、点列状刺突文	ナデ		センイ少
72	3	E	15		Ⅰ・Ⅱ	胴	深鉢	Ⅳ	B		にぶい黄褐色	橙色	微砂粒	点列状刺突文	ナデ		センイ少
73	5	E	4		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅳ	B		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂礫	沈線、点列状刺突文	ナデ		センイ多
74	4	E	16		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅳ	B		褐色	にぶい黄褐色	微砂粒	平行沈線文、列点状刺突文	ナデ		センイ多
75	5	E	15		Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	C		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	微砂粒、石英	平行沈線文	ナデ		センイ多
76	5	E	10		Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	C		黄灰色	灰黄褐色	微砂粒、石英	平行沈線文	ナデ		センイ少
77	5	E	10		Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	C		にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	微砂粒、石英	平行沈線文	ナデ		センイ多
78	6	E	21		Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	C		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	微砂粒、石英	平行沈線文、斜縄文（LR）	ナデ		センイ少
79	5	E	10		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅳ	C		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	微砂粒、石英	平行沈線文、非結束羽状縄文（LR,RL）	ナデ		センイ多
80	5	E	10		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅳ	C		上：にぶい黄橙色 下：褐灰色	にぶい黄褐色	微砂粒、石英	平行沈線文、非結束羽状縄文（LR,RL）			センイ多
81	4	E	18		Ⅰ・Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	C		褐色	にぶい黄橙色	微砂粒、金雲母	列点状刺突文、沈線文	ナデ		センイ少
82	5	E	24		Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	D		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	微砂粒	隆帯、縄文（LR）	ナデ		センイ多
83	4	E	23		Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	D		にぶい黄褐色	明赤褐色	金雲母、砂礫	撚紋（L）	ナデ		センイ極多
84	3	D	11		Ⅱ下	口	深鉢	Ⅳ	D		にぶい黄色	黒褐色	礫、微砂粒	撚紋（R）	ナデ		センイ多
	3	D	16		Ⅱ下		深鉢										
85	4	E	24		Ⅰ・Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	D		にぶい褐色	橙色	砂粒	点列状刺突文	ナデ		センイ少
86	5	E	20		Ⅱ	口	深鉢	Ⅳ	D		黒褐色	灰黄褐色	砂粒	点列状刺突文	ナデ		センイ少
87	6	E	6		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅳ	D		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	砂粒	点列状刺突文	ナデ、指頭圧痕		センイ少
88	5	E	3		Ⅱ	口	深鉢	Ⅴ			黒褐色	赤褐色	微砂粒、金雲母	平行沈線文、円孔1	ナデ		89と同一個体
89	5	E	3		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅴ			黒褐色	にぶい赤褐色	微砂粒、石英	平行沈線文、斜縄文（RL）	ナデ		88と同一個体
90	5	E	3		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅴ			明赤褐色	褐色	砂粒	平行沈線文、斜縄文（RL）	ナデ		
91	2	D	9		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅴ			橙色	にぶい褐色	砂粒	平行沈線文、斜縄文（RL）	ナデ		
92	4	D	17		Ⅱ	口	深鉢	Ⅵ			黄灰色	にぶい黄橙色	微砂粒、石英	非結束羽状縄文(LR,RL)	ナデ		
93	4	D	18		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅵ			暗灰黄色	にぶい黄褐色	微砂粒、石英	斜縄文（RL）	ナデ		
94	4	F	3		Ⅱ	口	深鉢	Ⅵ			にぶい黄褐色	にぶい褐色	砂礫	斜縄文（RL）	ナデ		
95	5	E	10		Ⅱ	口	深鉢	Ⅵ			橙色	灰黄褐色	微砂粒	斜縄文（RL）	ナデ		
96	3	D	6		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅵ			にぶい黄褐色	にぶい褐色	砂礫(微砂粒)	縄文？	ナデ	内	
97	6	E	6		Ⅱ	底	深鉢	Ⅵ			明赤褐色	にぶい黄褐色	微砂粒	ナデ	ナデ		
98	6	E	16		Ⅱ	底	深鉢	Ⅵ			橙色	黄灰色	砂礫、石英	ナデ	ナデ		
99	4	E	4		Ⅱ	底	深鉢	Ⅵ			黄灰色	黄灰色	微砂粒	沈線	ナデ		
100	3	D	11		Ⅱ下	底	深鉢	Ⅵ			明褐色	橙色	砂礫	縄文？	ナデ		
101	4	E	10		Ⅰ・Ⅱ	胴	深鉢	Ⅱ			にぶい褐色	にぶい褐色		非結束羽状縄文(LR,RL)	ナデ		土製円盤
102	5	E	15		Ⅱ	胴	深鉢	Ⅲ			にぶい橙色	にぶい黄橙色	砂礫	非結束羽状縄文(LR,RL)	ナデ		土製円盤

石器観察表（1）

No.	出土地点			器種	分類	法量（cm）			重さ（g）	石材	素材	形態	遺存状態	調整	備考
	位置	遺構	層			長さ	幅	厚さ							
103	4D18		Ⅱ	石鏃		3.19	1.75	0.60	1.78	安山岩		凹其無茎	完		
104	5E9		Ⅱ	石鏃		3.92	2.11	0.35	1.74	珪質頁岩		凹其無茎	完		
105	4D24		Ⅱ	石鏃		3.33	(1.6)	0.49	1.66	安山岩		凹其無茎	片脚欠損		
106	3E9	SK22	1	石鏃		2.10	1.45	0.45	0.89	チャート		凹其無茎	片脚欠損		
107	6F3		Ⅱ	石鏃		1.29	1.10	0.26	0.26	黒曜石		凹其無茎			
108	5E18		Ⅱ	石鏃		(2.03)	(1.3)	(0.4)	0.90	黒曜石		凹其無茎	基部欠損		
109	4D23	SD6	1	石鏃		(1.98)	(1.65)	0.35	0.77	鉄石英(赤)		凹其無茎	片脚欠損		
110	5E18		Ⅱ	石匙		38.30	5.39	1.15	17.36	鉄石英(黄)	横長	横型	完		
111	6E11		Ⅱ	不定形石器		2.52	1.60	0.35	1.10	安山岩				左側縁	切断
112	5E14		Ⅱ	不定形石器		6.83	7.56	1.37	78.00	安山岩	横長			左側縁～上縁～右側縁	
113	7F6		Ⅱ	不定形石器		7.71	6.35	4.08	153.40	安山岩				右側縁～下側縁	粗割
114	4E12		Ⅱ	不定形石器		7.54	5.84	1.94	101.80	安山岩				上側縁～左側縁～下側縁	
115	4D17		Ⅱ	不定形石器		5.02	6.20	3.00	96.30	安山岩	横長			下側縁	
116	5E4		Ⅱ	不定形石器		6.14	10.55	1.63	128.60	安山岩	横長			左側縁・上縁・右側縁	
117	6E12		Ⅱ	不定形石器		8.44	12.45	2.00	284.60	安山岩	横長			右側縁～下側縁	
118	2C22	SD5	2	不定形石器		7.10	8.54	2.30	159.50	安山岩	横長			両面全側縁	
119	6E6		Ⅱ	不定形石器		5.82	7.51	1.39	81.80	安山岩				両面全側縁	
120	3D12		Ⅱ	不定形石器		12.40	6.70	2.53	256.50	安山岩	縦長				未成品？
121	5E1		Ⅱ	打製石斧		10.50	4.22	1.98	129.70	安山岩	礫	片刃	完		
122	6F6		Ⅱ	打製石斧		(5.2)	6.34	2.17	80.10	安山岩	礫	片刃	基部欠損		
123	5E22		Ⅱ	磨製石斧		3.48	1.30	0.40	14.40	蛇紋岩		片刃円刃	完		
124	4D24		Ⅱ	磨製石斧		4.73	2.80	0.80	19.40	蛇紋岩		片刃円刃	完		
125	5E10		Ⅱ	磨製石斧		9.98	3.63	0.95	49.50	蛇紋岩	両極剥片	片刃円刃	刃部欠損		
126	5F8		Ⅱ	磨製石斧		7.13	4.52	1.32	47.50	蛇紋岩	礫	片刃円刃	完		
127	2D9		Ⅱ	磨製石斧		6.60	3.09	0.82	21.00	蛇紋岩	剥片	片刃円刃	完		
128	4D19		Ⅱ	磨製石斧		(6.22)	(3.02)	1.39	24.90	蛇紋岩		片刃円刃	欠損		
129	5E20		Ⅱ	磨製石斧		(3.93)	(3.93)	2.00	20.90	蛇紋岩		片刃円刃	基部欠損		
130	5E17		Ⅱ	磨製石斧		(4.02)	(3.58)	2.06	38.70	蛇紋岩			刃部欠損		
131	試掘108T		Ⅱ	磨製石斧		(4.28)	(4.58)	1.62	40.70	蛇紋岩	礫		刃部欠損		
132	7E17		Ⅱ	磨製石斧		(5.8)	(4.6)	1.97	79.20	蛇紋岩		片刃円刃	基部欠損		
133	3F5		Ⅱ	磨製石斧		(4.96)	(3.85)	1.15	28.80	蛇紋岩			刃部欠損		
134	5E7		Ⅱ	磨製石斧		(5.58)	(4.79)	2.28	88.30	安山岩			刃部欠損		
135	7E17		Ⅱ	磨斧未成品		13.02	8.30	3.60	651.50	蛇紋岩	礫			礫・敲打痕	
136	4F8		Ⅱ	磨斧未成品		7.30	6.05	4.58	236.20	蛇紋岩	礫			礫・敲打痕	
137	6F11		Ⅱ	磨斧未成品		9.22	8.18	4.50	431.20	蛇紋岩	礫			剥離・敲打痕	敲き石の可能性あり
138	4E9		Ⅱ	磨斧未成品		10.53	6.04	4.31	362.20	蛇紋岩	剥片			荒割・剥離整形	
139	5E20		Ⅱ	磨斧未成品		9.88	7.34	3.60	319.00	蛇紋岩	礫			剥離・敲打痕	
140	6E18		Ⅱ	磨斧未成品		11.65	8.60	5.70	640.30	蛇紋岩	礫			原石・剥離整形	
141	4F1		Ⅱ	磨斧未成品		4.89	7.07	2.87	133.10	蛇紋岩	礫			原石・側縁剥離整形	
142	5E4		Ⅱ	磨斧未成品		9.34	5.07	1.84	102.20	蛇紋岩	礫				剥離整形のみ
143	5E4		Ⅱ	磨斧未成品		9.13	7.12	2.90	264.30	安山岩	礫			原石・剥離整形	
144	3C23		Ⅱ	磨斧未成品		8.91	6.18	2.14	151.90	蛇紋岩	礫			剥離のみ	磨斧素材を採る石核か？
145	4D21		Ⅱ	磨斧未成品		11.26	9.77	3.83	581.50	蛇紋岩	剥片			荒割・剥離整形	
146	6E6		Ⅱ	磨斧未成品		8.93	4.68	1.49	87.30	蛇紋岩	礫			表・側縁、刃部、裏・側縁、刃部、研磨痕	剥離整形と研磨のある剥片
147	3E10		Ⅱ	磨斧未成品		7.15	5.58	2.84	155.50	蛇紋岩				表・剥離、裏・剥離、研磨	整形と研磨のる剥片
148	6F11		Ⅱ	磨斧未成品		7.32	4.40	1.80	80.90	蛇紋岩	礫				剥離整形のみ
149	5E11		Ⅱ	磨斧未成品		7.18	5.00	1.92	82.90	蛇紋岩	剥片			両極・整形	
150	4E23		Ⅱ	磨斧未成品		8.52	4.70	2.89	149.60	蛇紋岩	礫			原石・剥離整形	
151	5E24		Ⅱ	磨斧未成品		9.38	5.48	2.94	241.20	蛇紋岩	礫			剥離・敲打痕	
152	6E15		Ⅱ	磨斧未成品		9.07	5.54	2.64	206.30	蛇紋岩？	礫			剥離・敲打痕	
153	4F1		Ⅱ	磨斧未成品		8.75	5.05	2.00	111.50	蛇紋岩	礫			礫・敲打痕	
154	4F2		Ⅱ	磨斧未成品		8.55	5.87	3.92	258.00	蛇紋岩	礫			側縁整形、研磨	整形・研磨のある剥片
155	5E17		Ⅱ	磨斧未成品		7.68	5.91	2.51	131.10	蛇紋岩	礫			側縁整形、研磨	整形・研磨のある剥片
156	6E7		Ⅱ	磨斧未成品		7.83	4.40	2.19	82.10	蛇紋岩	両極剥片	片刃円刃	完		
157	5E8		Ⅱ	磨斧未成品		7.62	4.05	1.92	71.90	蛇紋岩	剥片			両極・整形	
158	4D17		Ⅱ	磨斧未成品		5.29	2.85	1.28	16.50	蛇紋岩	剥片				両極剥片
159	6E7		Ⅱ	磨斧未成品		7.08	2.95	0.91	20.50	蛇紋岩	剥片				両極剥片

石器観察表（2）

No.	出土地点			器種	分類	法量（cm）			重さ（g）	石材	素材	形態	遺存状態	調整	備考
	位置	遺構	層			長さ	幅	厚さ							
160	3E14		Ⅱ	磨斧未成品		5.65	4.12	0.66	21.00	蛇紋岩	剥片	片刃円刃	完		
161	5F10		Ⅱ	磨斧未成品		7.94	3.20	1.33	28.40	蛇紋岩	剥片				両極剥片
162	5E10		Ⅱ	磨斧未成品		4.07	1.60	0.54	3.50	蛇紋岩				研磨	研磨のある剥片
163	5E15		Ⅱ	磨斧未成品		2.89	3.11	1.03	9.30	蛇紋岩				研磨	研磨のある剥片
164	7E17		Ⅱ	砥石		17.20	11.60	4.80	1780.00	砂岩			完		
165	4E3		Ⅱ	砥石		(10.9)	8.22	5.87	702.90	砂岩			欠損		
166	5F4		Ⅱ	砥石		(20.0)	14.20	8.49	3975.00	砂岩			欠損？		
167	3E25		Ⅱ	砥石		(20.7)	(17.0)	4.81	3005.00	砂岩			欠損		
168	5F10		Ⅱ	磨石類		15.70	8.41	4.99	965.90	安山岩			完	側縁磨痕	
169	6E8		Ⅱ	磨石類		14.59	7.00	3.60	629.10	安山岩			完	側縁摩痕	
170	4E10		Ⅱ	磨石類		9.37	5.35	4.00	311.70	安山岩			欠損	側縁摩痕	特殊磨石
171	4D24		Ⅱ	磨石類		8.05	7.35	4.86	396.40	安山岩			完	下端敲打痕	
172	2D24		Ⅱ	磨石類		11.05	8.04	4.22	546.70	安山岩			完	側縁敲打痕	
173	4E20		Ⅱ	磨石類		11.93	6.02	2.34	278.70	安山岩			完	右側縁敲打痕	
174	2D15		Ⅱ	磨石類		9.47	7.69	5.42	535.60	安山岩			完	右側縁～下側縁敲打痕	
175	7F6		Ⅱ	磨石類		15.06	7.63	3.22	586.20	安山岩			完	側縁磨痕、上下端敲き	
176	6F15		Ⅱ	磨石類		11.10	6.40	3.79	397.00	砂岩			完	上下端敲打痕	
177	4D11		Ⅱ	磨石類		12.30	7.76	3.54	487.10	安山岩			完	側縁磨痕、上下端剥離・敲打痕	
178	4E9		Ⅱ	石錘	A	4.41	2.92	1.70	27.30	安山岩			完		
179	5E7		Ⅱ	石錘	A	4.15	4.19	1.36	32.00	蛇紋岩			完		
180	5E15		Ⅱ	石錘	A	4.23	3.30	1.29	23.00	砂岩			完		
181	3D10		Ⅱ	石錘	A	6.80	4.80	2.07	100.00	安山岩			完		
182	4E18			石錘	A	6.04	5.11	10.60	70.10	安山岩			完		
183	3E10		Ⅱ	石錘	A	6.50	5.93	1.96	99.70	安山岩			完		
184	3C22		Ⅱ	石錘	A	6.27	5.07	1.76	84.20	安山岩			完		
185	3E10		Ⅱ	石錘	A	7.82	4.51	1.88	95.20	安山岩			完		
186	4D21		Ⅱ	石錘	A	6.06	5.03	1.83	66.20	安山岩			完		
187	6E12	SD6	Ⅱ	石錘	A	9.92	8.16	2.06	267.90	安山岩			完		
188	5F3		Ⅱ	石錘	A	9.03	8.83	2.53	280.80	安山岩			完		
189	5F7		Ⅱ	石錘	A	7.23	6.86	2.43	187.19	安山岩			完		
190	5F7		Ⅱ	石錘	A	7.84	7.34	2.87	208.60	安山岩			完		
191	5F3		Ⅱ	石錘	A	11.13	7.82	2.99	379.60	砂岩			完		
192	3D10		Ⅱ	石錘	C	11.28	7.41	2.38	260.20	砂岩			完	側縁敲打痕	
193	6E13		Ⅱ	石錘		6.70	4.10	1.88	65.20	安山岩			完		
194	3D14		Ⅱ	石錘		9.98	8.55	2.68	309.10	安山岩			完		
195	5E17		Ⅱ	石核		8.67	7.01	4.32	322.50	蛇紋岩	礫			両極・整形	
196	3F5		Ⅱ	石核		9.25	10.94	5.01	580.90	安山岩					
197	5F5		Ⅱ	石核		14.10	10.45	3.40	753.50	安山岩					

石製品観察表

No.	出土地点			器種	分類	法量（cm）			重さ（g）	石材	素材	形態	遺存状態	調整	備考
	位置	遺構	層			長さ	幅	厚さ							
198	5E17		Ⅱ	块状耳飾		(1.73)	(0.75)	0.90	2.10	滑石			欠損		
199	5E6		Ⅱ	垂飾		(3.45)	2.18	0.89	10.10	滑石			欠損		
200	4D17	SD6	1	玉類未成品		3.73	2.85	1.55	16.80	滑石					
201	4D11		Ⅱ	玉		(2.97)	(3.13)	0.68	6.30	滑石			欠損		

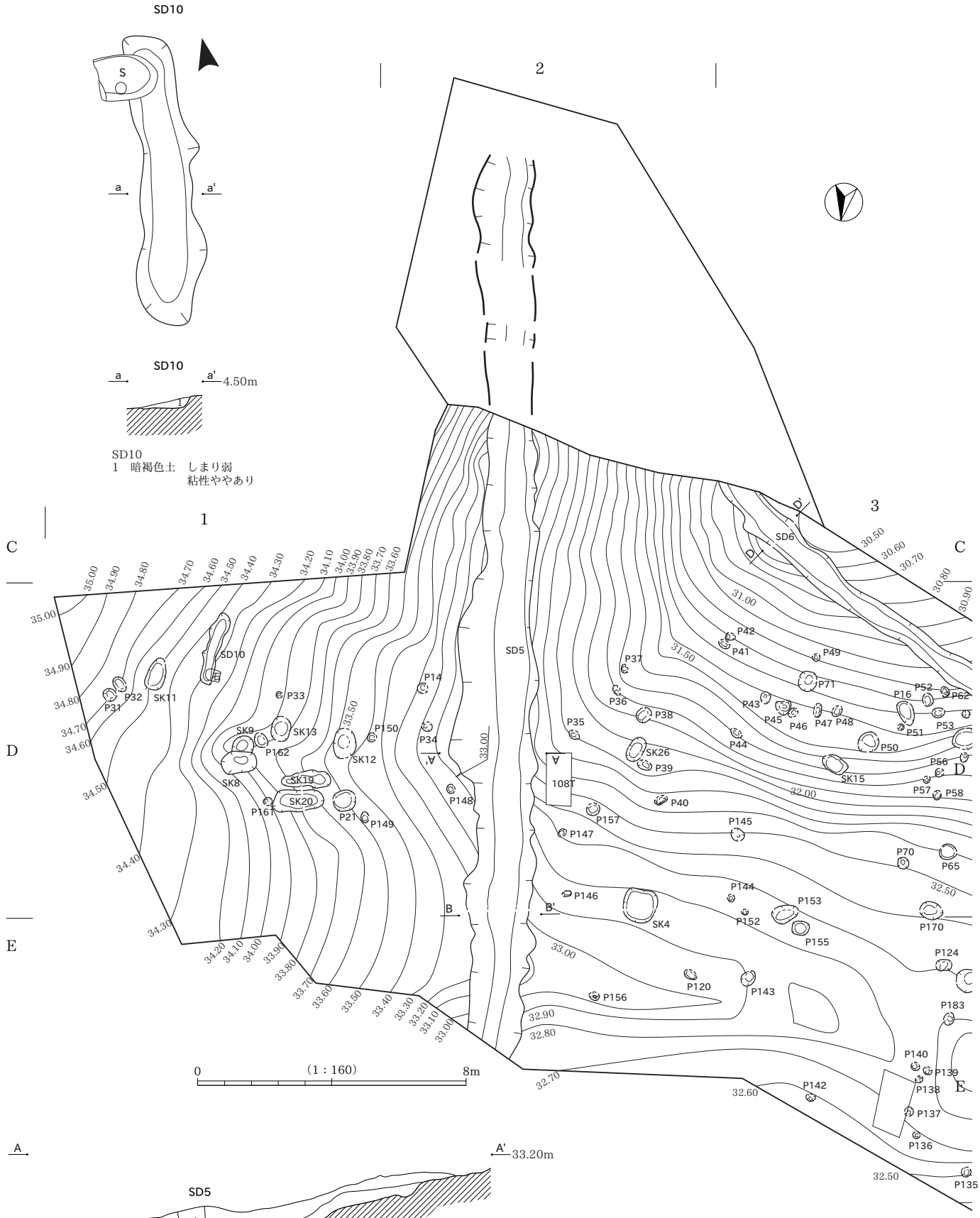
古代・中世の遺物観察表

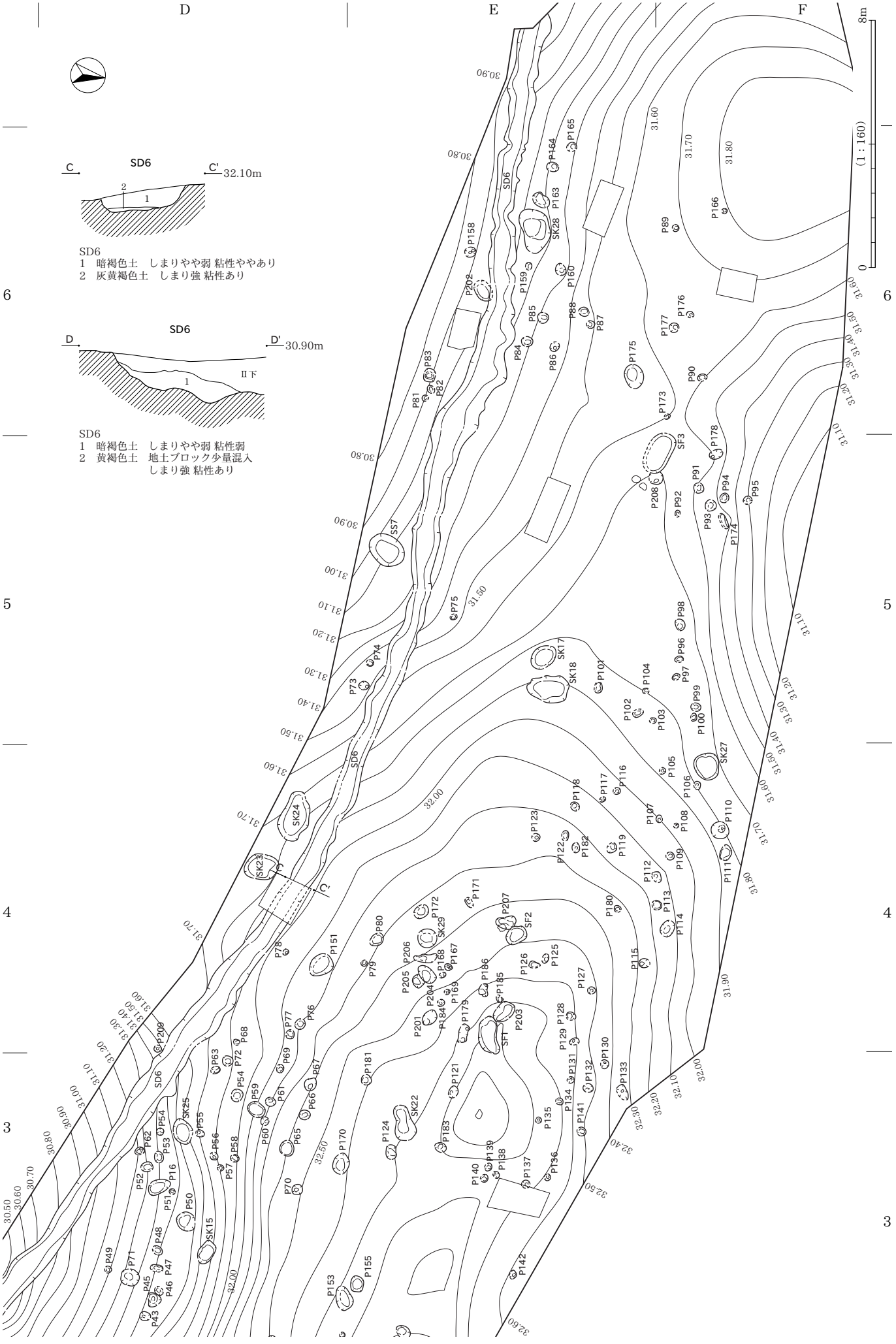
報告書No.	グリッド	遺構	層位	種類	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	外面色調	内面色調	調整・文様	備　考
202	3D7		Ⅰ	土師器	椀	8.8	—	—	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	無台椀か
203	3D7		Ⅰ	土師器	甕	9.0	—	—	浅黄橙	にぶい橙	体部外面カキ目	
204	2E1		Ⅰ・Ⅱ	越中瀬戸	皿	—	—	6.0	オリーブ	暗オリーブ	外面、釉が液状に付着。見込み釉なし	焼成良好。回転糸切り
205	1D6			青白磁	梅瓶？	—	—	—	明緑灰	明緑灰	劃花文、外面施釉	焼成良好
206	3C16	SD6		青磁	椀	—	—	—	灰オリーブ	灰オリーブ	劃花文、全面釉	焼成良
207	2D12		Ⅱ	青磁	皿	—	—	5.0	オリーブ	暗オリーブ	全面釉	焼成良好

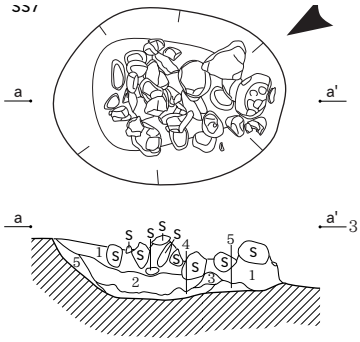
No.	出土地点			器種	分類	法量（cm）			重さ（g）	石材	素材	形態	遺存状態	調整	備考
	位置	遺構	層			長さ	幅	厚さ							
208	5E1		Ⅱ	砥石		5.16	3.29	0.90	17.20	粘板岩					

図　　版

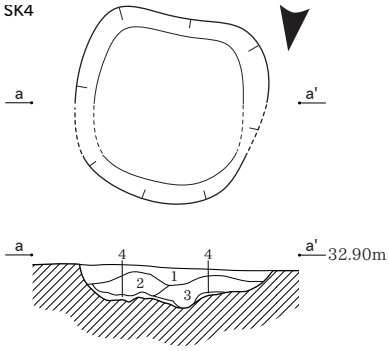
8
7
6
5
4
3
2
1
B
C
D
E
F
G
15m
(1:300)
0
31.00
31.50
31.50
31.00
31.50
31.50
32.00
31.50
31.50
31.00
32.50
32.00
32.50
31.00
31.00
33.00
33.00
33.50
33.50
34.00
34.00
34.50
34.50
35.00
35.00


SD10
S
a
a'
SD10
a
a'
4.50m
1
SD10
1　暗褐色土　しまり弱
粘性ややあり
1
2
3
C
D
E
SD5
SD6
SD10
SK4
SK8
SK9
SK11
SK12
SK13
SK15
SK19
SK20
SK26
P14
P16
P21
P31
P32
P33
P34
P35
P36
P37
P38
P39
P40
P41
P42
P43
P44
P45
P46
P47
P48
P49
P50
P51
P52
P53
P56
P57
P58
P62
P65
P70
P71
P120
P124
P135
P136
P137
P138
P139
P140
P142
P143
P144
P145
P146
P147
P148
P149
P150
P152
P153
P155
P156
P157
P161
P162
P170
P183
1087
A
A'
B
B'
33.20m
33.40m
0
(1 : 160)
8m
0
(1 : 40)
1m
SD5
木
1
2
3
SD5
1　褐色土　　Ⅱ層上より明るい しまり強 粘性強
2　暗褐色土　　しまりやや弱 Ⅱ層下相当
3　灰黄褐色土　2～5mm地土ブロック多く混入 しまり強 粘性ややあり
SD5
1　褐色土　　しまり強 粘性やや弱 Ⅱ層相当
3　灰褐色土　　1～3mm炭粒散在 地土ブロック小ブロック状に多く混入
しまり強　粘性ややあり

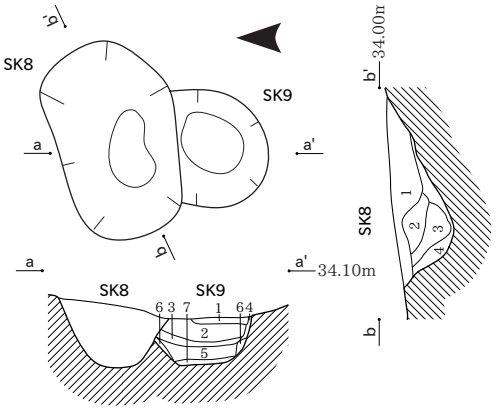

D
E
F
8m
(1 : 160)
0
C
SD6
C'
32.10m
2
1
SD6
1　暗褐色土　しまりやや弱 粘性ややあり
2　灰黄褐色土　しまり強 粘性あり
D
SD6
D'
30.90m
Ⅱ下
1
SD6
1　暗褐色土　しまりやや弱 粘性弱
2　黄褐色土　地土ブロック少量混入
しまり強 粘性あり
6
5
4
3
SD6
SK15
SK17
SK18
SK22
SK23
SK24
SK25
SK27
SK28
SK29
SF1
SF2
SF3
SS7



SS7
1 褐色土　しまりやや弱 粘性弱
2 黒褐色土　炭化物多く含む しまり強 粘性なし
3 暗褐色土　しまり弱 粘性なし
4 灰黄褐色土 地土ブロック小ブロック状に多量含む
しまり強 粘性なし
5 灰黄褐色土 Ⅲ層に似る しまり強 粘性なし

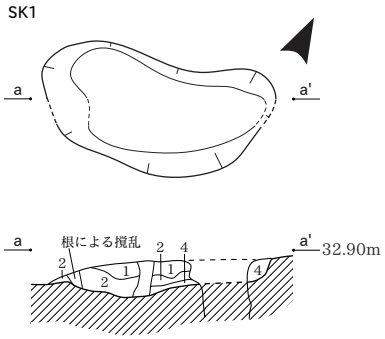


SK4
1 褐色土　4～10mm炭粒まばらに多く含む
しまりやや弱 粘性弱
2 黒褐色土　炭粒、炭化物多量含む しまり弱 粘性弱
3 灰黄褐色土 4～20mm炭粒、炭化物まばらに多く含む
しまりやや弱 粘性弱
4 黄褐色土　地土ブロック多く含む しまり強 粘性なし

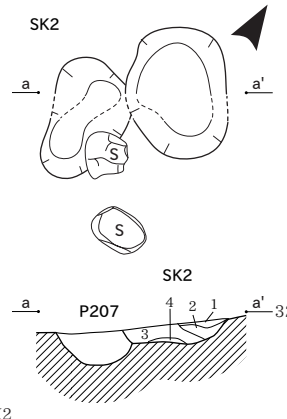


SK8
1 褐色土　2～10mm炭粒多く散在 しまりやや弱 粘性弱
2 褐色土　2～10mm炭粒多く散在 しまりやや弱 粘性なし
3 暗褐色土　2～10mm炭粒多く散在 地土ブロック少量混入 しまりやや弱 粘性弱
4 褐色土　2～10mm炭粒少量散在 地土小ブロック多量混入
しまりやや弱 粘性弱

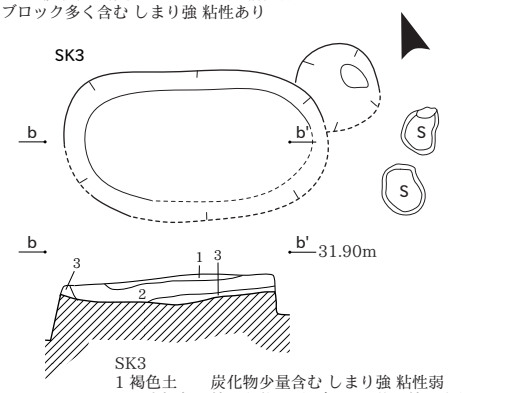
SK9
1 褐色土　4～10mm炭化物多量に混入 地土小ブロック多く混入 しまり強 粘性なし
2 暗褐色土　2～10mm炭粒多く散在 しまり強 粘性なし
3 褐色土　2～4mm炭粒少量散在 しまりやや弱 粘性弱
4 褐色土　しまり弱 粘性弱
5 黒褐色土　4～10mm炭化物多く混入 しまり強 粘性なし
6 褐色土　2～10mm炭粒少量散在 しまりやや弱 粘性弱
7 炭黄褐土　地土ブロック多く含む しまり強 粘性あり



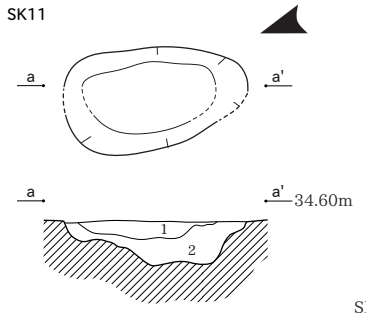
SK1
1 明赤褐色土 焼土粒子からなる層
焼土ブロック小ブロック状を含む
2 明赤褐色土 焼土粒、焼土ブロック多量含む
しまり弱 粘性なし
3 灰黄褐色土 地土ブロック含む しまり強 粘性弱
4 暗褐色土　焼土粒子多く含む



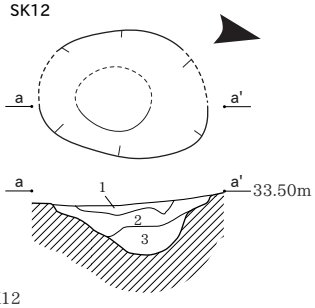
SK2
1 暗褐色土 炭化物少量含む しまり弱 粘性弱
2 明赤褐土 焼土、炭化物少量含む しまり弱 粘性なし
3 赤色焼土 暗褐色土含む 炭化物微量含む しまり弱 粘性なし
4 黄褐色土 地土ブロック多く含む しまり弱 粘性なし



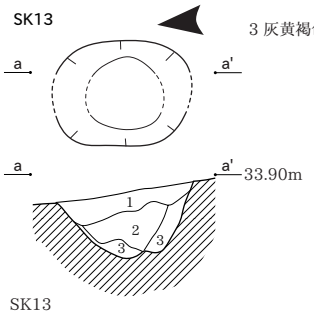
SK3
1 褐色土　炭化物少量含む しまり強 粘性弱
2 明赤褐色土 焼土主体の層 ブロック状の焼土含む
1～5mm炭粒少量含む　しまり強 粘性あり
3 灰黄褐色土 地土ブロック含む しまり強 粘性あり



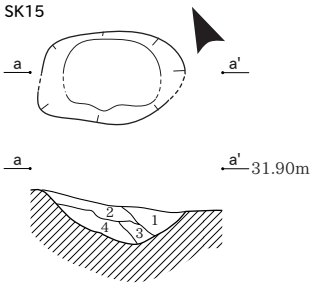
SK11
1 暗褐色土　2～10mm炭粒多く散在
しまり弱 粘性弱
2 褐色土　2～5mm炭粒多く散在
しまり弱 粘性弱



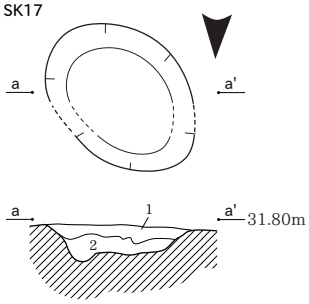
SK12
1 暗褐色土　2～20mm炭化物、炭粒多く散在
しまり弱 粘性ややあり
2 褐色土　2～10mm炭粒少量散在
しまり強 粘性弱
3 褐色土　2～4mm炭粒少量散在
しまり弱 粘性あり



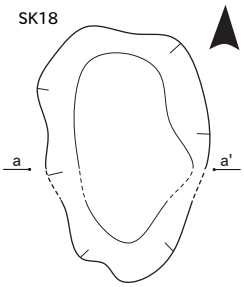
SK13
1 褐色土　2～5mm炭粒少量散在
しまりやや強 粘性ややあり
2 褐色土　1～4mm炭粒少量散在
しまりやや弱
3 褐色土　しまり強 粘性弱
地土小ブロック少量含む



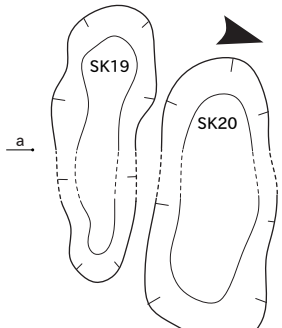
SK15
1 褐色土　しまりやや弱 粘性弱
2 褐色土　2～10mm炭粒多く散在
しまりやや弱 粘性弱
3 褐色土　1～3mm炭粒少量散在
しまり強 粘性なし
4 褐色土　地土小ブロック多く含む
しまりやや弱 粘性弱



SK17
1 褐色土　2～4mm炭粒少量含む しまりやや強
粘性なし
2 褐色土　2～8mm炭粒まばらに含む
しまり強 粘性弱



SK18
1 暗褐色土　2～10mm炭粒まばらに多く含む
しまりやや弱 粘性弱
2 褐色土　2～10mm炭粒少量含む
地土ブロック多く含む しまり強 粘性弱

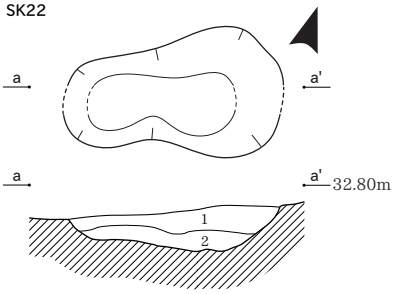


SK19
1 暗褐色土　1～3mmの炭化物多く散在
1cmの焼土ブロックを少量散在
しまりやや弱 粘性弱

SK20
1 暗褐色土　1～2cm炭化物少量散在
1～2cm焼土ブロック少量散在
しまりやや弱 粘性なし
2 灰黄褐色　地土ブロック少量散在
しまりやや弱 粘性あり
3 灰黄褐色　2～4mm炭粒少量散在
焼土ブロック 小ブロック状に
多く混入 しまり強 粘性ややあり

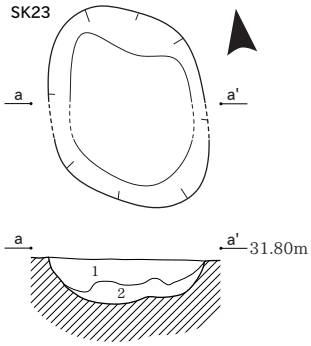
0　(1：40)　1m

SK22



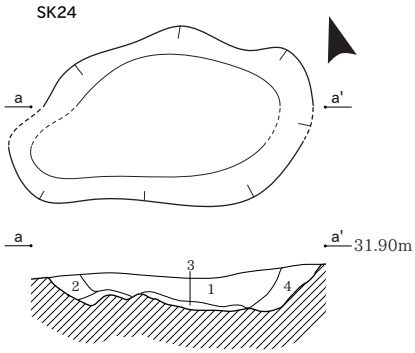
SK22
1　褐色土　　1～10mm炭粒少量散在 しまりやや弱
2　暗褐色土　2～6mm炭粒ごく少量散在 しまりやや弱 粘性弱

SK23



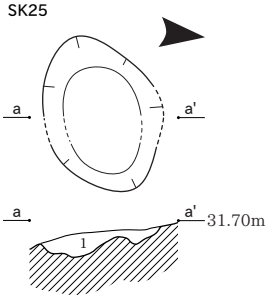
SK23
1　暗褐色土　しまりやや弱 粘性あり
2　暗褐色土　しまり強 粘性あり

SK24



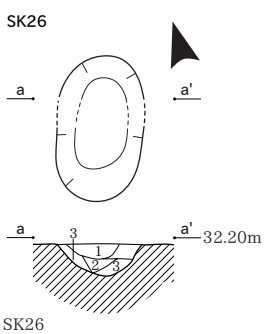
SK24
1　暗褐色土　1～3mm炭粒まばらに多く含む しまりやや弱 粘性なし
2　黄褐色土　しまり弱 粘性弱
3　黄褐色土　地土小ブロックまばらに含む しまり強 粘性あり
4　黄褐色土　地土ブロック大小多く含む しまり弱 粘性あり

SK25



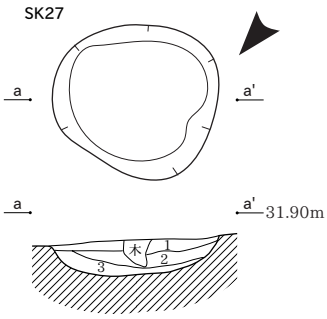
SK25
1　暗褐色土　しまり強 粘性あり

SK26



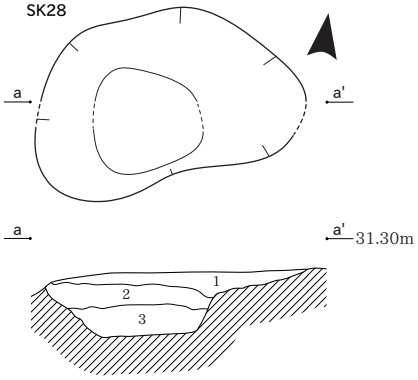
SK26
1　暗褐色土　5～20mm炭粒
　　炭化物多く含む
　　しまりやや弱 粘性弱
2　暗褐色土　1～4mm炭粒少量含む
　　しまり強 粘性なし
3　暗褐色土　しまりやや弱
　　粘性なし

SK27



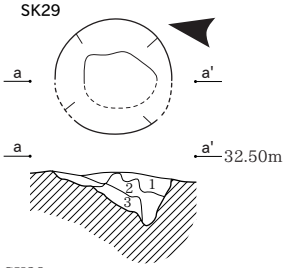
SK27
1　暗褐色土　　しまりやや弱
　　粘性なし
2　黄褐色土　　炭化物粒子、
　　炭化物少量含む
　　しまり弱 粘性なし
3　炭黄褐色土　地土ブロック多く含む
　　しまりやや弱 粘性なし

SK28



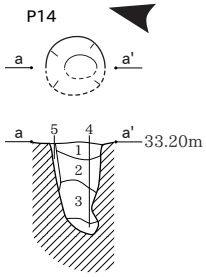
SK28
1　暗褐色土　2～10mm炭粒まばらに含む
　　しまりやや弱 粘性なし
2　褐色土　　2～10mm炭粒少量含む
　　しまりやや弱 粘性弱
3　褐色土　　2～10mm炭粒多く含む
　　地土小ブロック多く含む
　　しまりやや弱 粘性弱

SK29



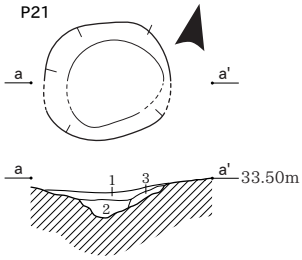
SK29
1　褐色土　　しまり強 粘性弱
2　褐色土　　地土ブロック多量含む
　　焼土少量含む しまり強
　　粘性弱
3　暗褐色土　1～2cm炭粒多量含む
　　地土ブロック含む
　　しまり強 粘性なし

P14



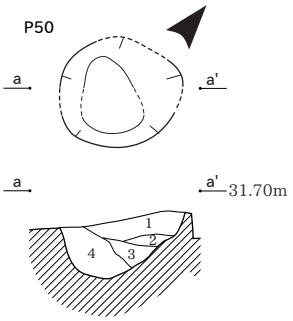
P14
1　にぶい褐色土　黒色土混在
　　炭化物少量含む
　　しまり弱 粘性なし
2　黒褐色土　　地土ブロック少量含む
　　しまり非常に弱い 粘性弱
3　暗褐色土　　地土ブロック多く含む
　　しまり非常に弱い
　　粘性なし
4　暗褐色土　　しまり非常に弱い
　　粘性なし
5　褐色土　　しまり弱・粘性なし

P21



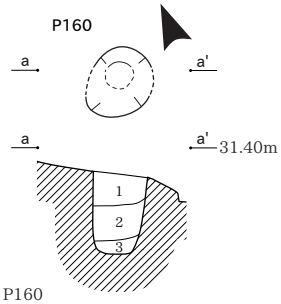
P21
1　暗褐色土　2～10mm炭粒多く散在
　　しまりやや弱 粘性なし
2　灰黄褐色土　2～5mm炭粒少量散在
　　地土小ブロック多く含む
　　しまりやや弱
3　灰黄褐色土　地土ブロック多く含む
　　しまり強 粘性弱

P50



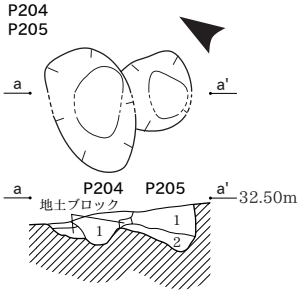
P50
1　暗褐色土　5～10mm炭化物少量含む
　　しまり強 粘性弱
2　黄褐色土　しまり強 粘性あり
3　褐色土　　しまり弱 粘性弱
4　暗褐色土　4～10mm炭化物少量含む
　　しまりやや弱 粘性弱

P160



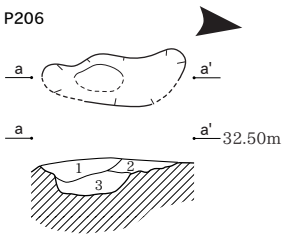
P160
1　褐色土　　炭化物少量含む しまりやや弱 粘性弱
2　褐色土　　黄褐色土 地土ブロック混在 しまり弱 粘性弱
3　黄褐色土　地土ブロック多く含む
　　しまり弱 粘性弱

P204
P205



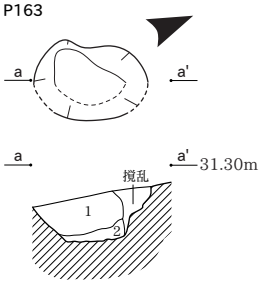
P204
1　暗褐色土　炭化物少量含む しまり弱 粘性弱
P205
1　褐色土　　1～2mm炭化物まばらに少量含む
　　しまりやや弱 粘性弱
2　暗褐色土　地土ブロック多く、炭化物まばらに多く含む

P206



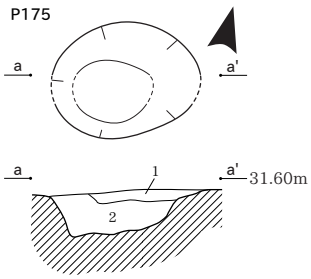
P206
1　褐色土　　地土ブロック多く含む
　　1～2cm炭粒少量含む
　　しまり強 粘性弱
2　暗褐色土　焼土粒まばらに含む
　　しまり弱 粘性弱
3　暗褐色土　地土ブロックまばらに含む
　　しまり弱 粘性弱

P163



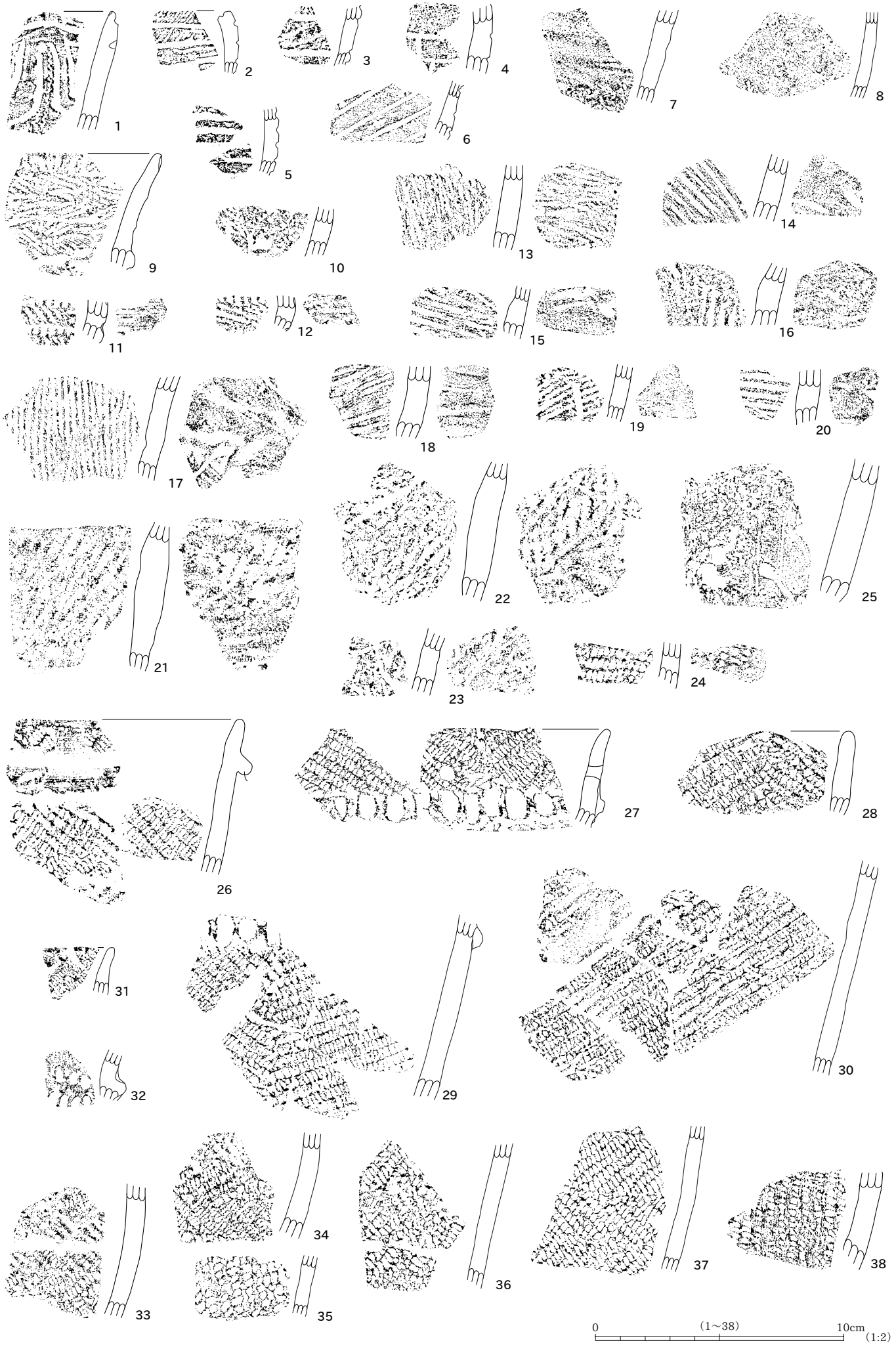
P163
1　褐色土　　しまり強 粘性なし
2　褐色土　　地土ブロック多く含む
　　しまりやや弱 粘性あり

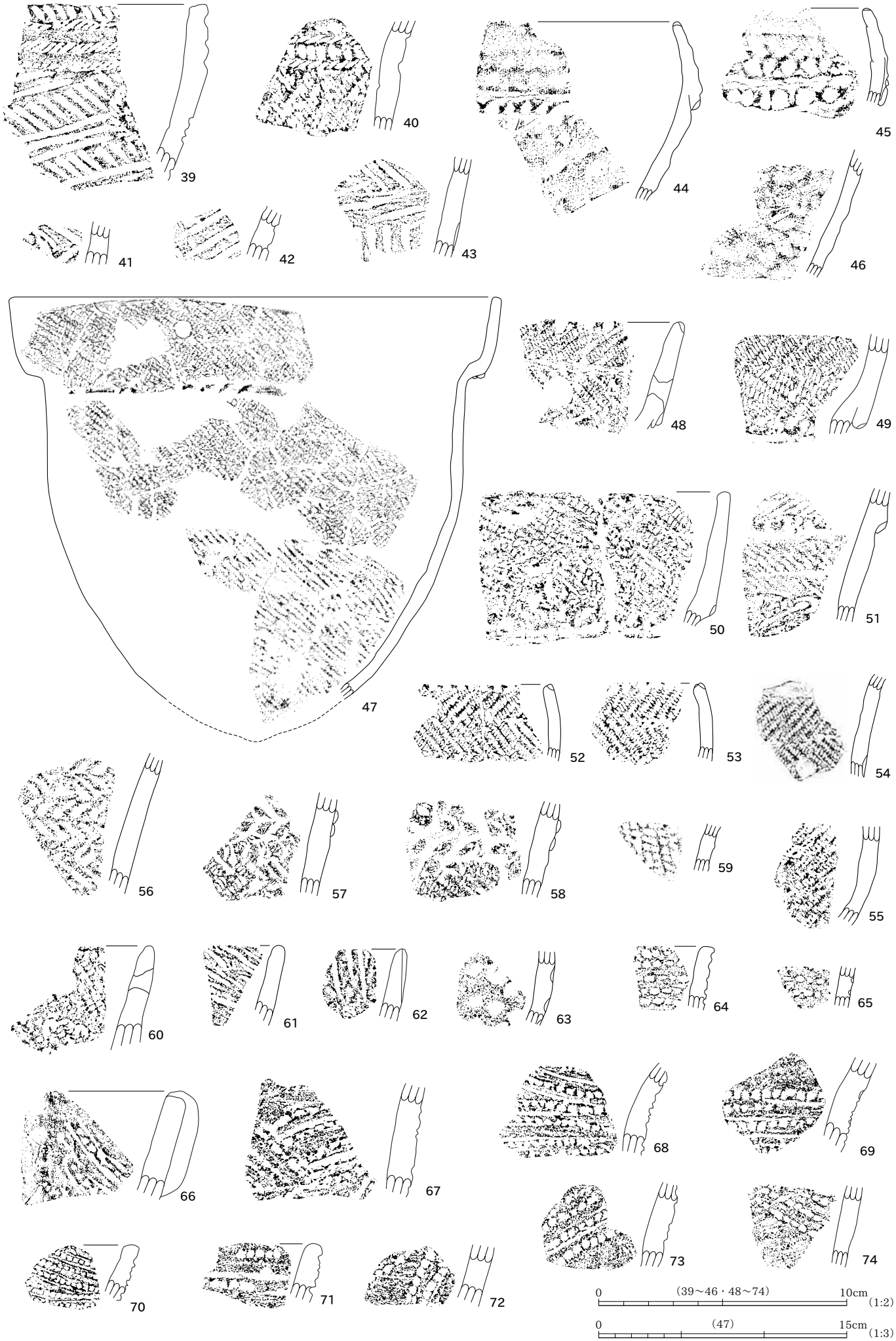
P175

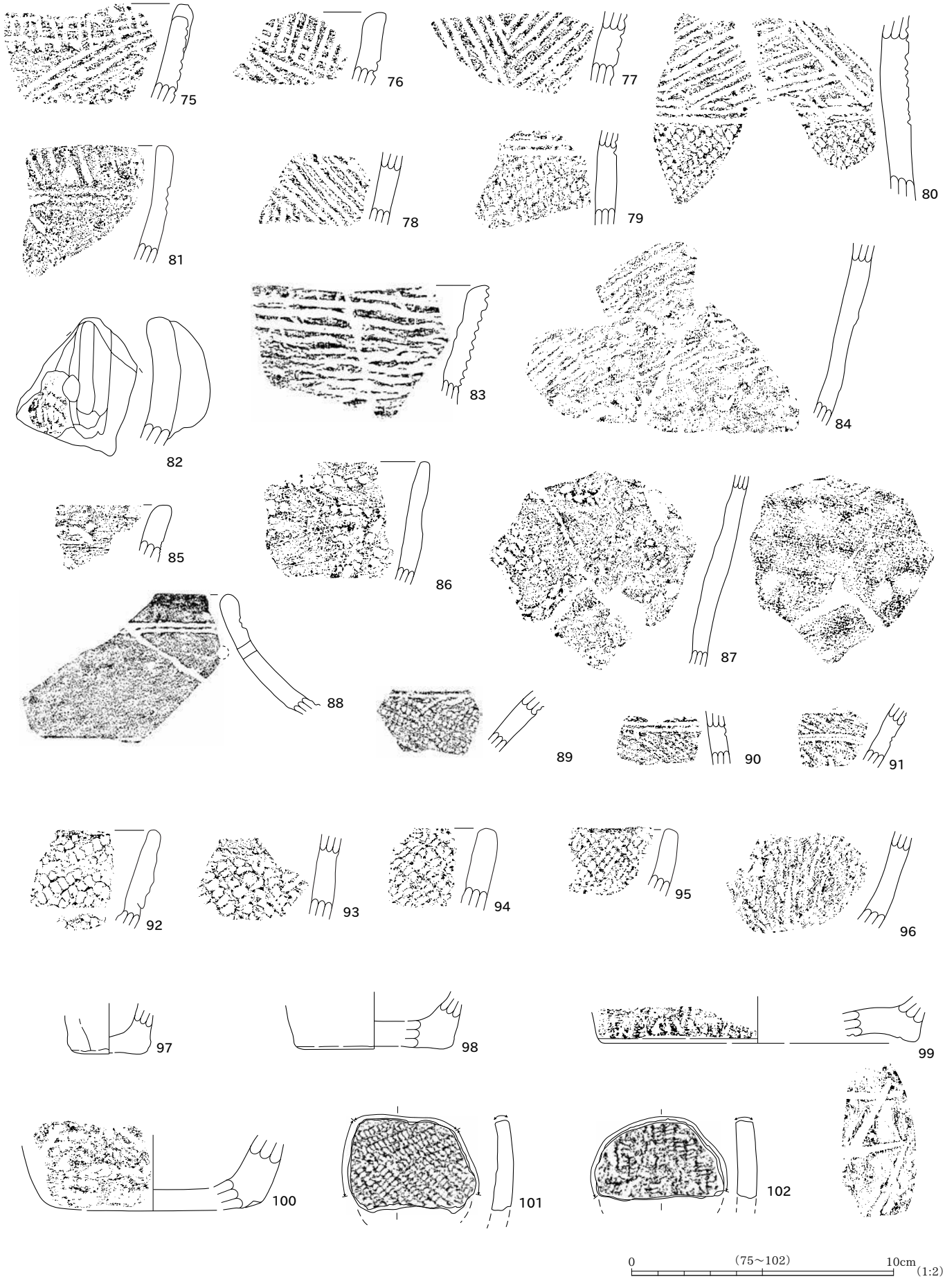


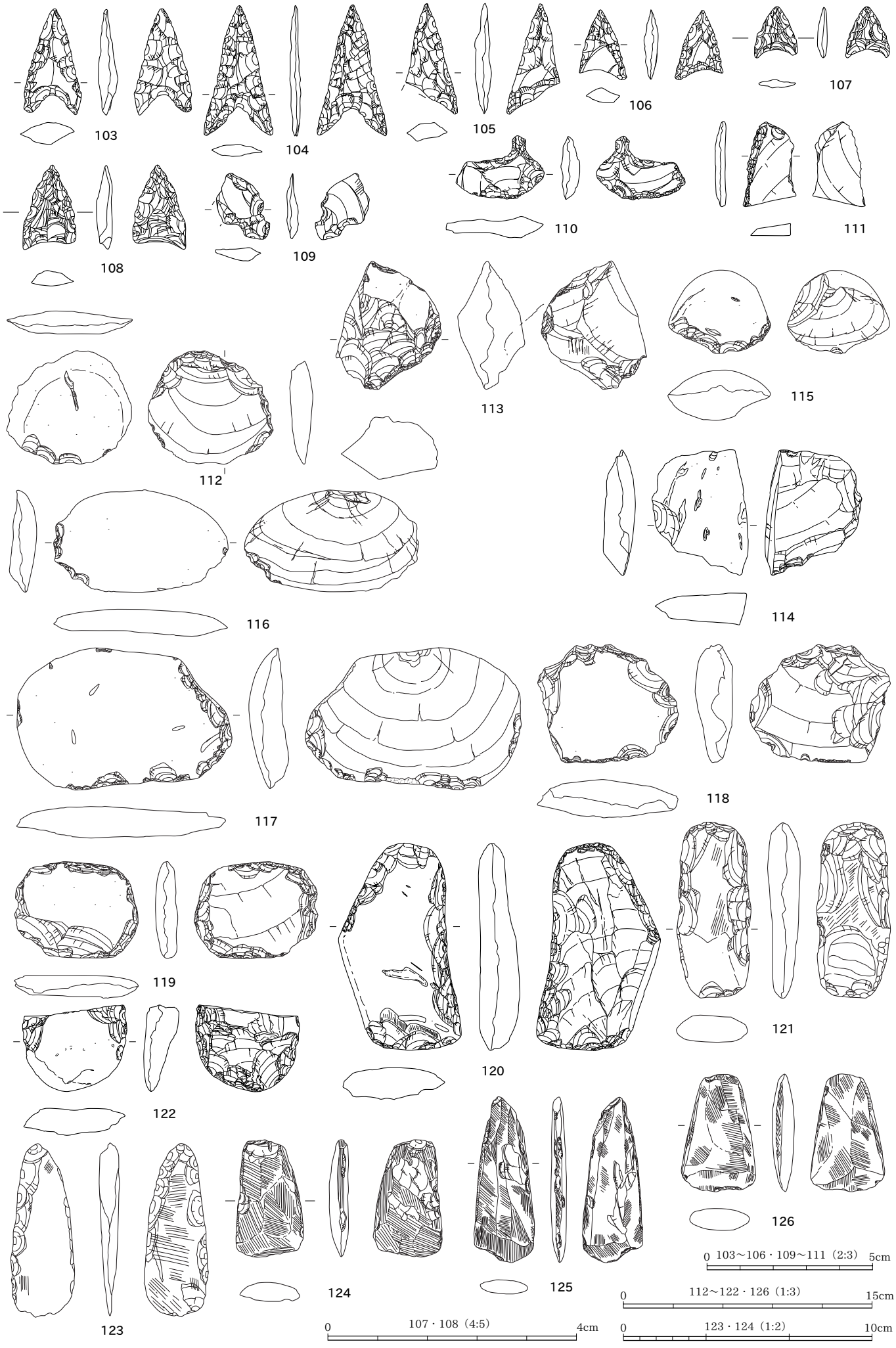
P175
1　褐色土　　炭化粒2～10mm少量散在
　　しまりやや弱 粘性なし
2　褐色土　　2～4mm炭粒ごく少量含む
　　しまりやや強 粘性なし

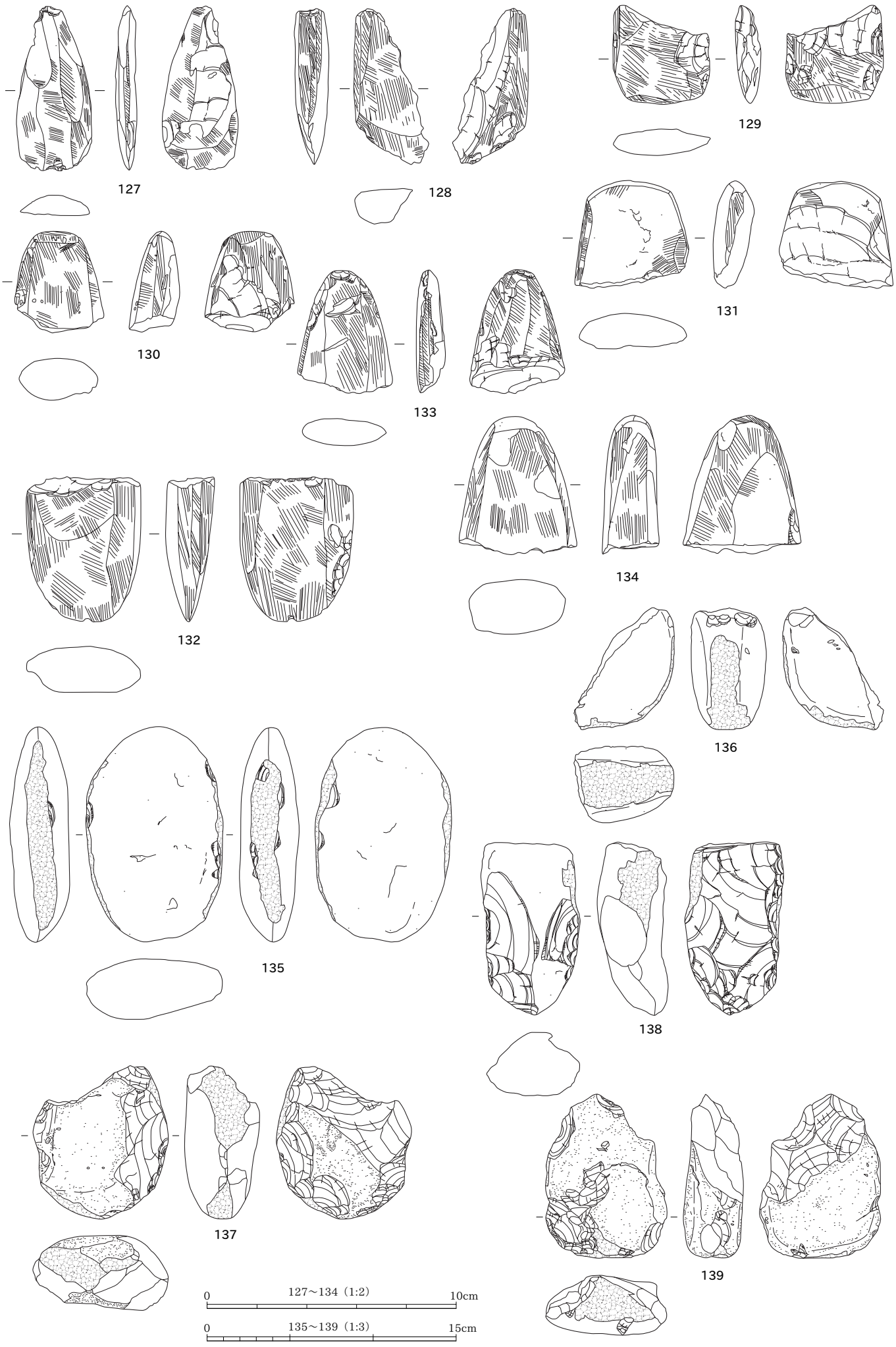
0　(1：40)　1m


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
0
(1～38)
10cm
(1:2)


39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
0 (39～46・48～74) 10cm (1:2)
0 (47) 15cm (1:3)


75
76
77
80
81
78
79
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
0
(75～102)
10cm
(1:2)

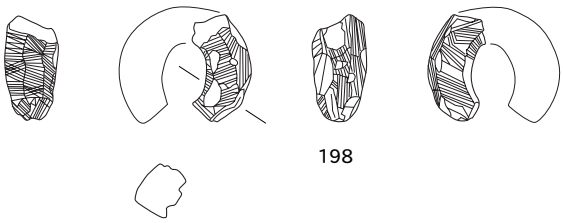

103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
0 103～106・109～111（2:3） 5cm
0 112～122・126（1:3） 15cm
0 123・124（1:2） 10cm
0 107・108（4:5） 4cm


127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
0　127～134（1:2）　10cm
0　135～139（1:3）　15cm

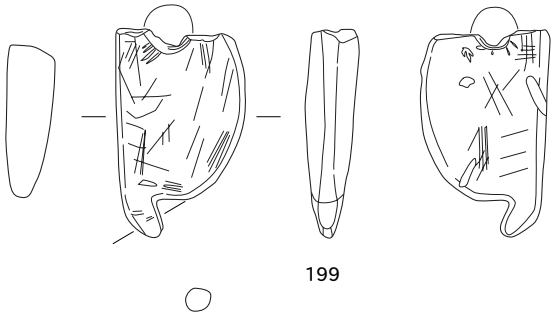
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
0
140～157（1:3）
15cm

158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
173
172
174
171
0 158～163（1:2） 10cm
0 171～174（1:3） 15cm
0 165～168・170（1:4） 20cm
0 164・166・167（1:8） 40cm

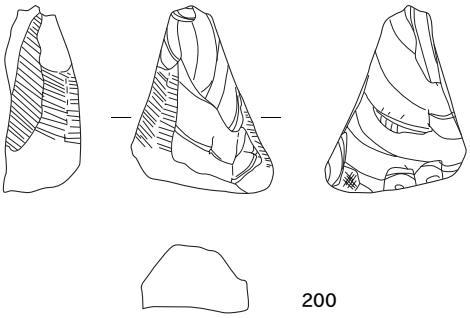
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
0　175・196・197（1:3）　15cm
0　176～194（1:4）　20cm



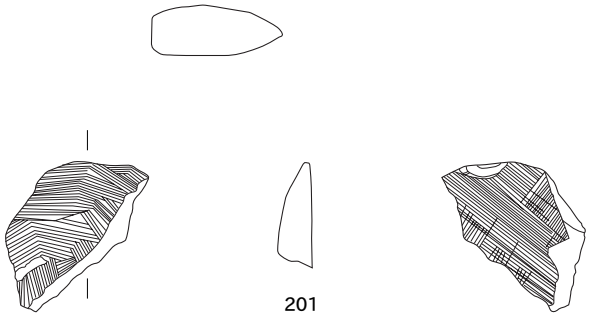
198



199

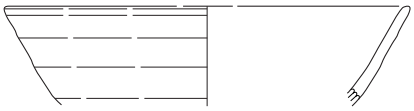


200

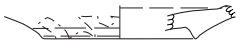


201

古代・中世の遺物

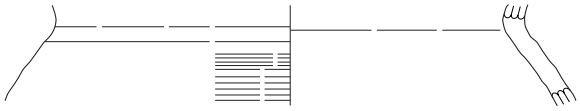


202

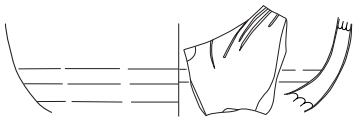


204

205

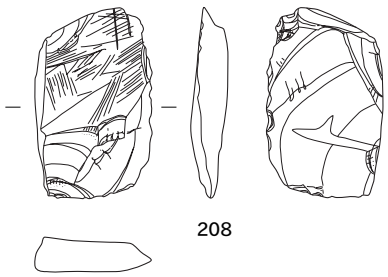


203

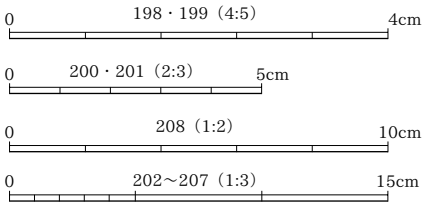


206

207



208



遺跡遠景 東から

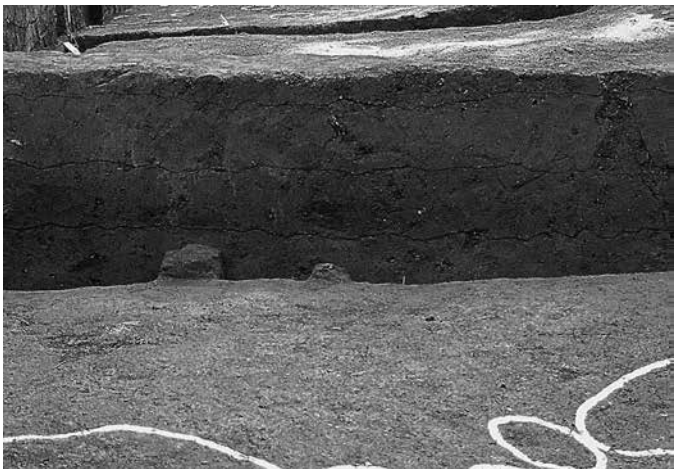
SD5 （道状遺構）土層断面 南から

遺跡近景 西から

調査区全景 東から

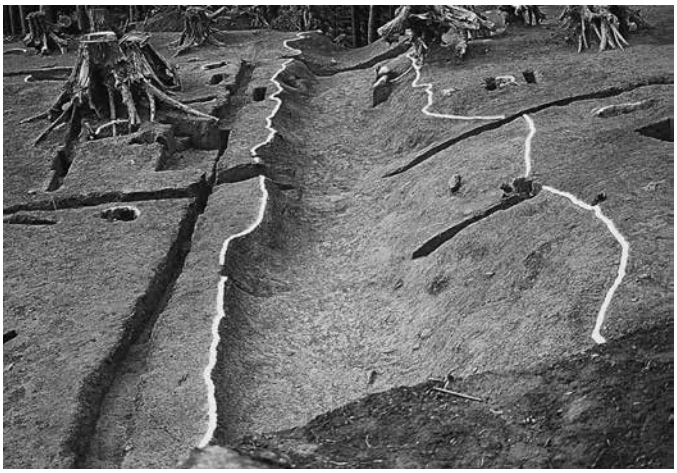
SD6 全景 上空から

SD5 全景 北西から



2D 基本層序 西から

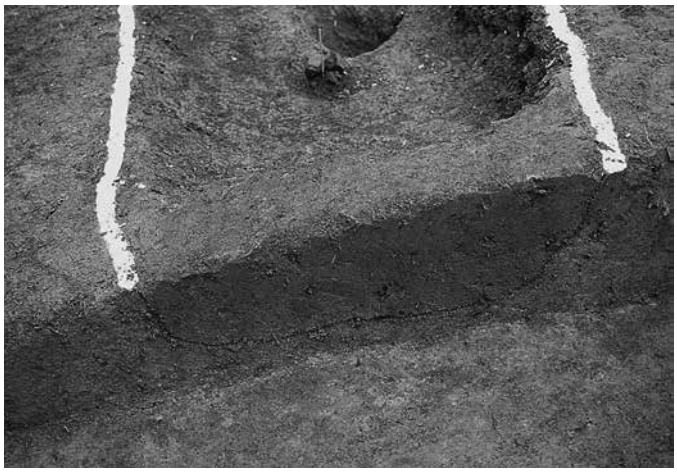
SD5 遺物出土状況 北から



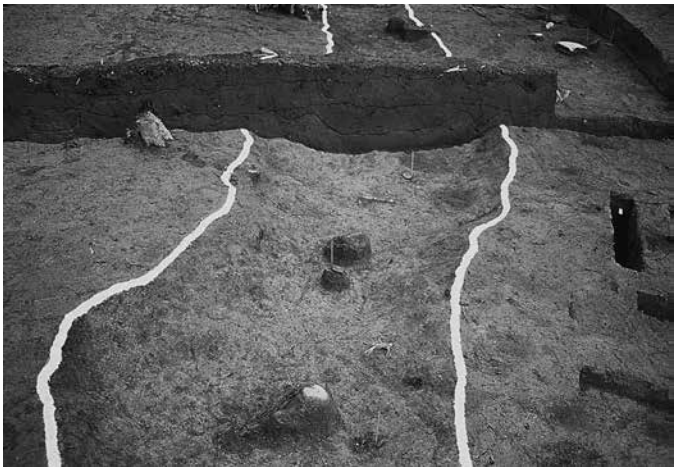
SD5 完掘 南から

SD5 完掘 北から

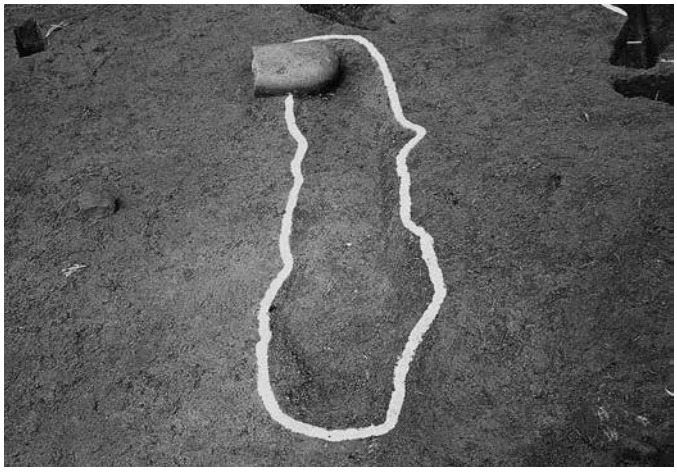
SD6 土層断面 西から



SD6 土層断面 東から

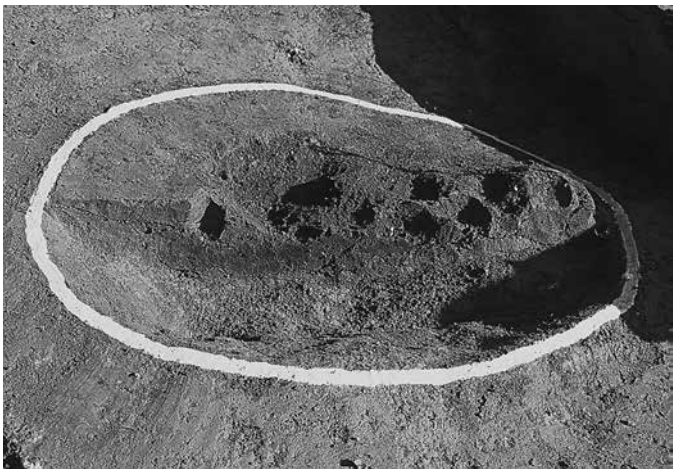


SD6 遺物出土状況 西から

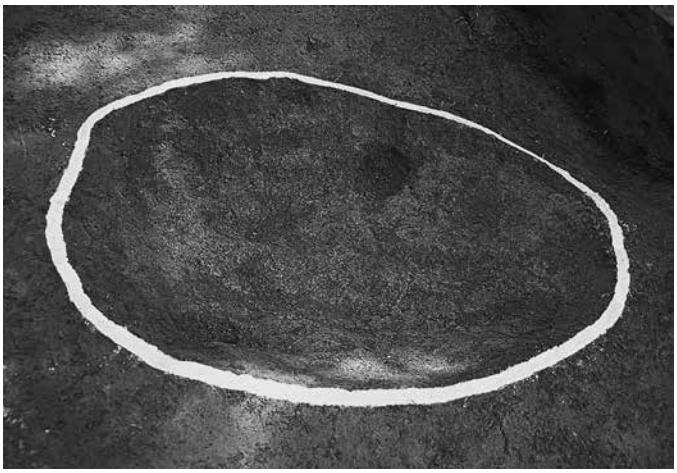


SD10 完掘 南から

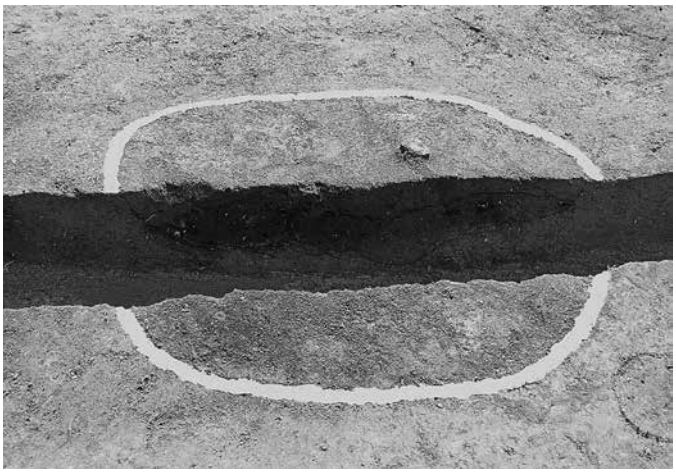
SS7 断面 ① 北西から



SS7 断面 ② 北西から

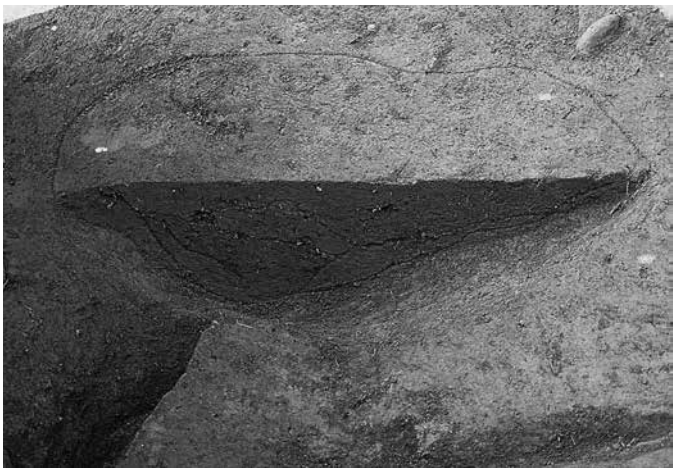


SS7 完掘 北西から

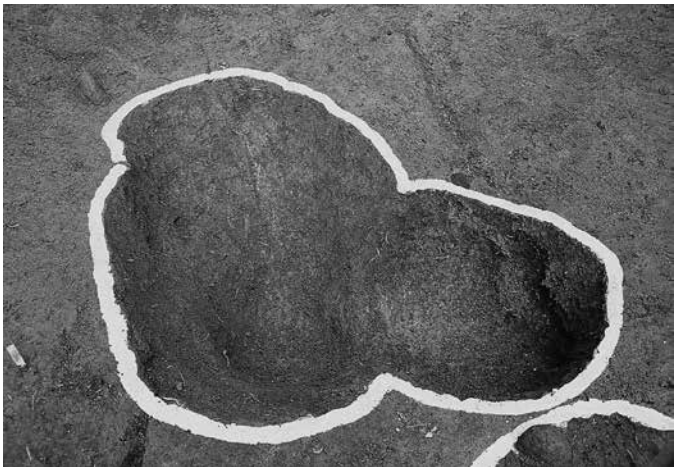


SK4 土層断面 北から

SK9 土層断面 西から

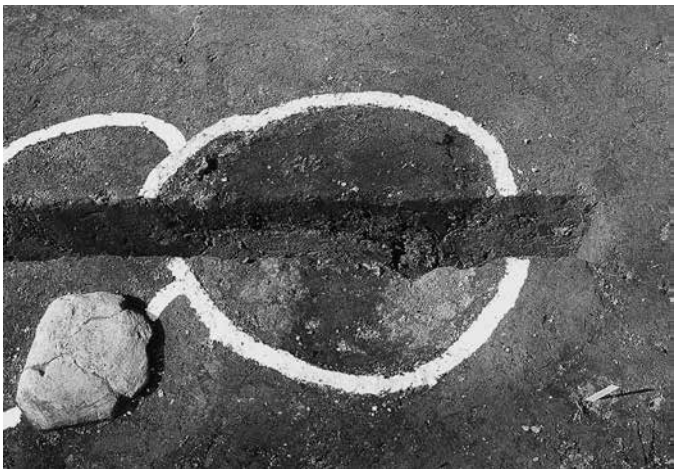


SK8 土層断面 南から

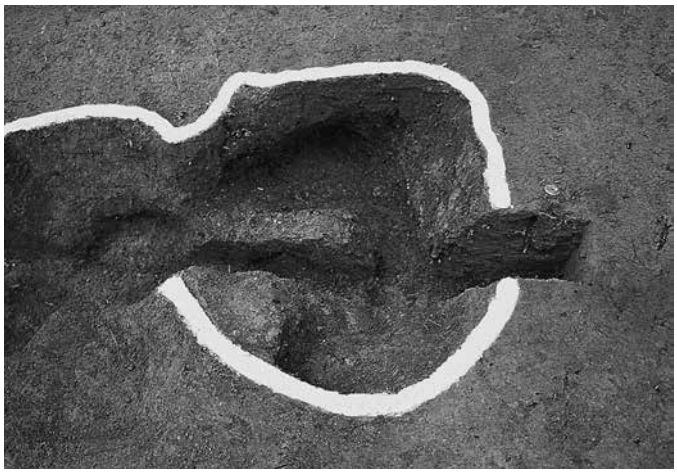


SK8（左）・SK9（右）完掘 西から

SK1 土層断面 南東から

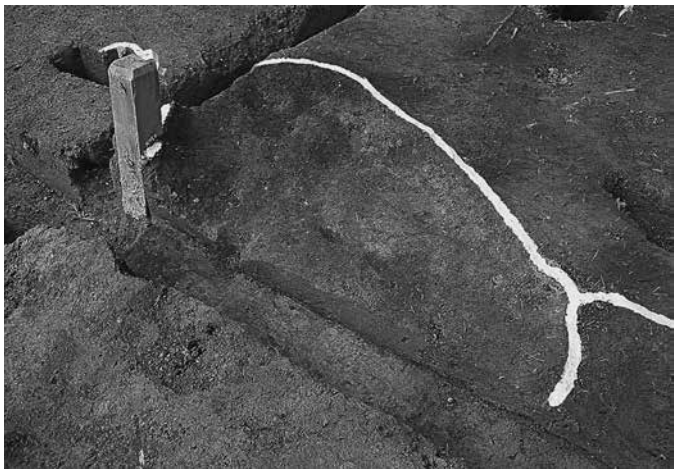


SK2 土層断面 南東から



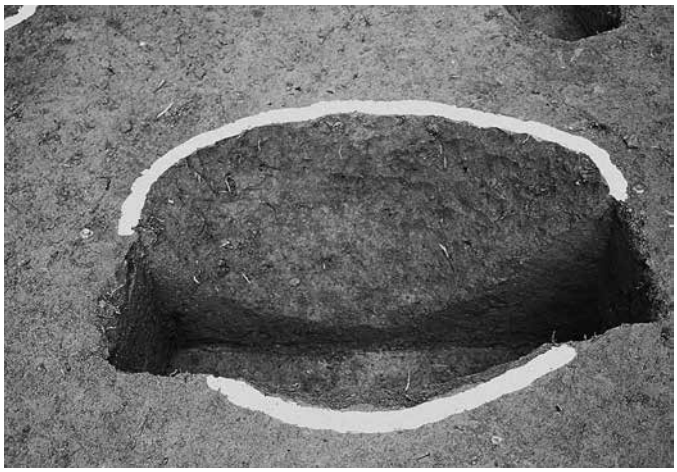
SK2 完掘 南東から

SK3 土層断面 南から



SK3 完掘 南東から

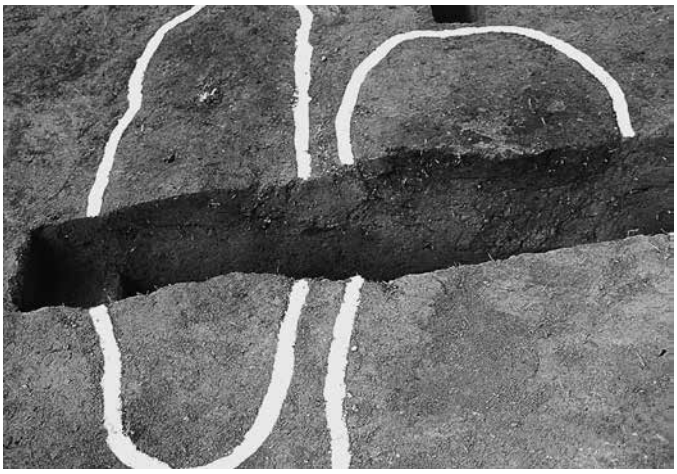
SK12 土層断面 西から



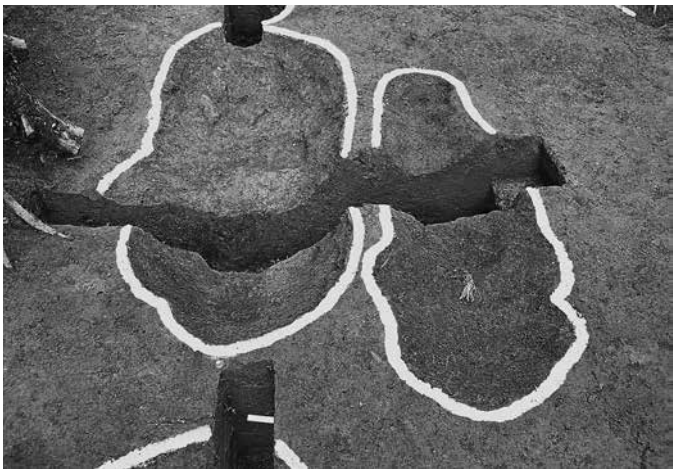
SK12 完掘 西から

SK13 土層断面 西から

SK13 完掘 西から



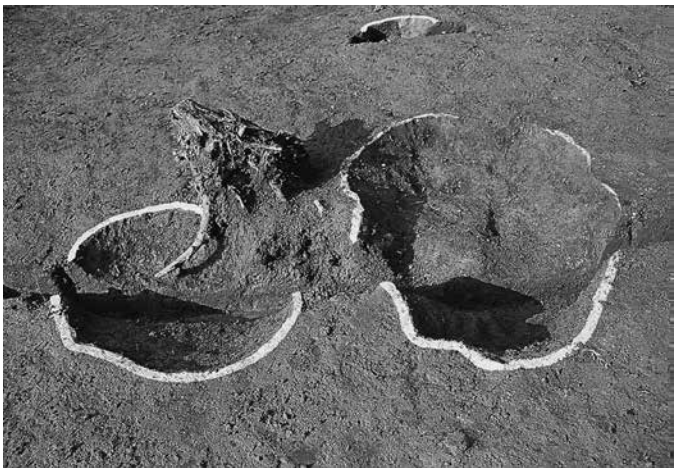
SK19（左）・SK20（右） 土層断面 東から



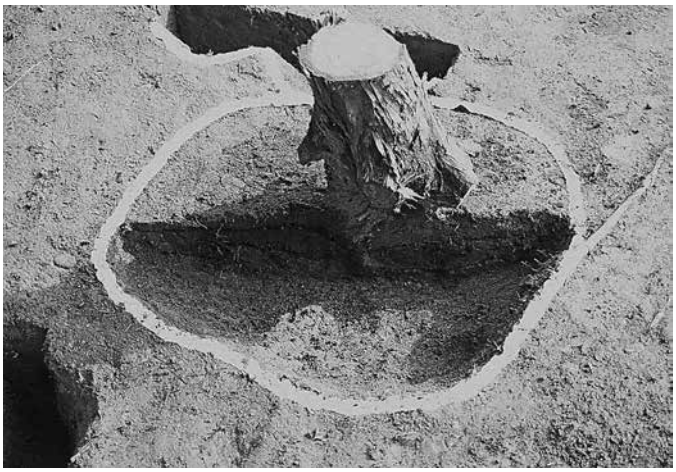
SK19（右）・SK20（左） 完掘 西から

SK18 土層断面 南から

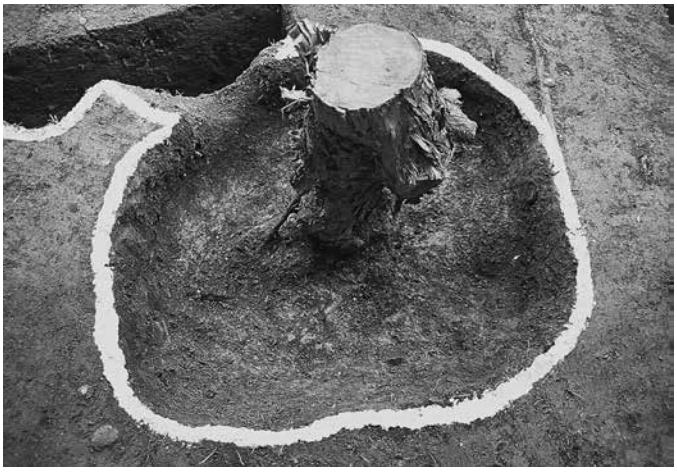
SK17 土層断面 北から



SK17（左）・SK18（右） 完掘 南から



SK27 土層断面 北西から



SK27 完掘 北西から

SK15 土層断面 南から

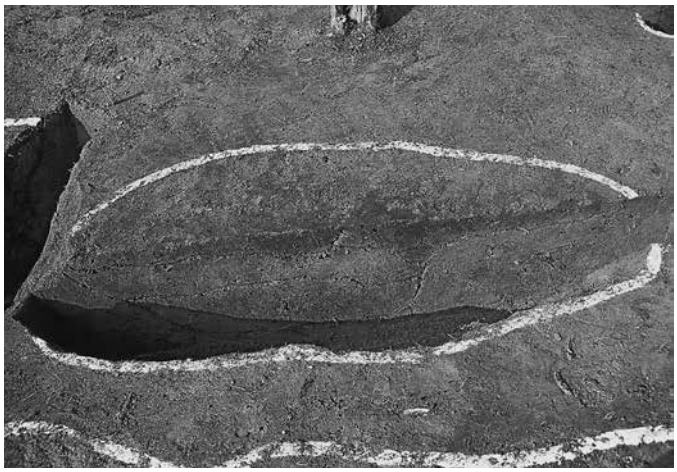
SK22 土層断面 南から

SK23 土層断面 南から

SK24 土層断面 南から

SK25 土層断面 東から

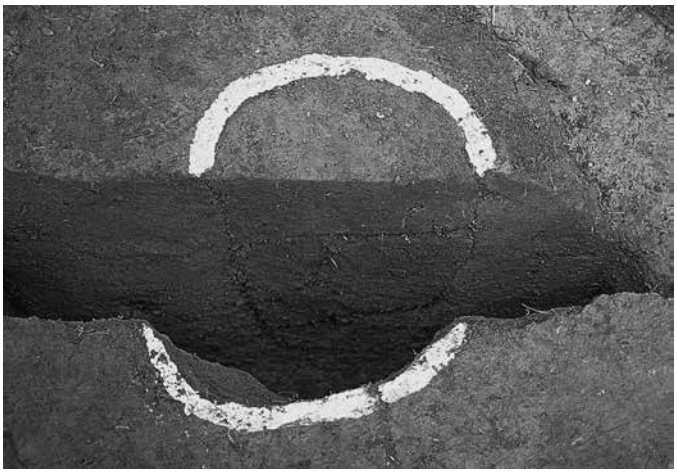
SK26 土層断面 南から



SK28 土層断面 南から

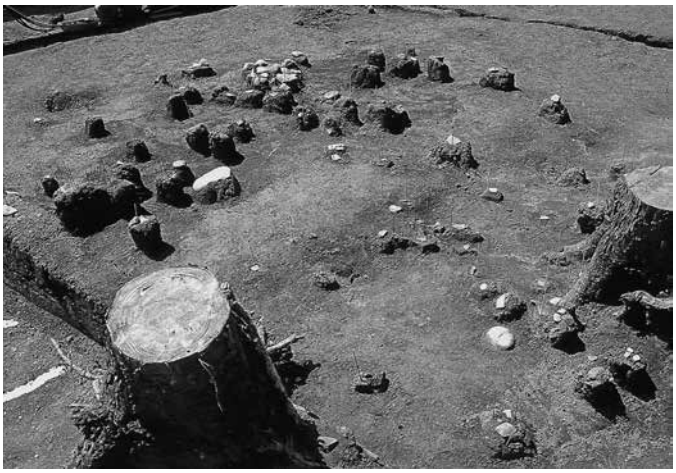
SK29 土層断面 東から

P14 土層断面 西から


P160 土層断面 南から

石鏃 出土状況 北から

磨製石斧 出土状況 西から

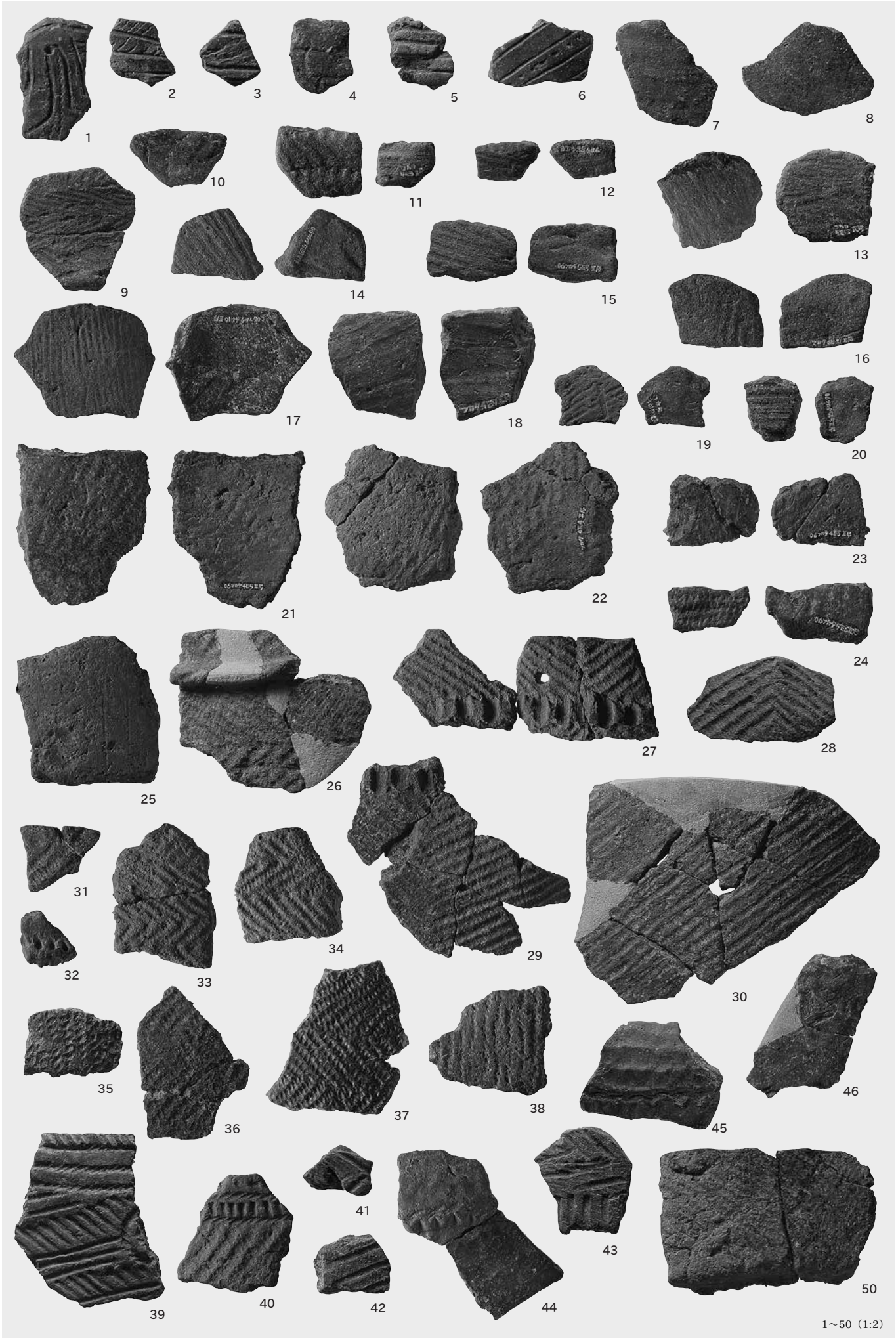

4F 遺物出土状況 北西から

5F 遺物出土状況 南東から

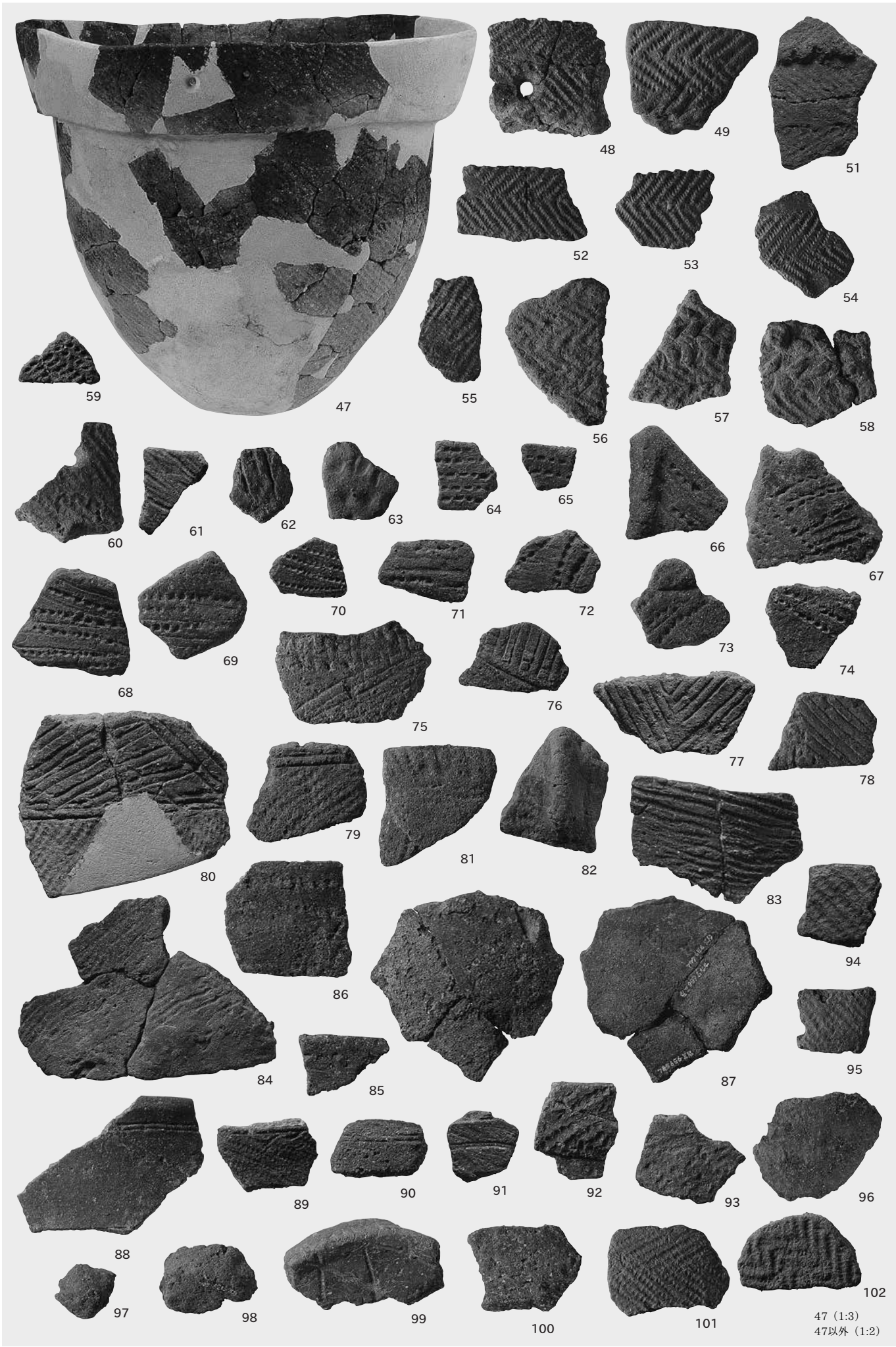
4E 縄文土器（47）出土状況 北から

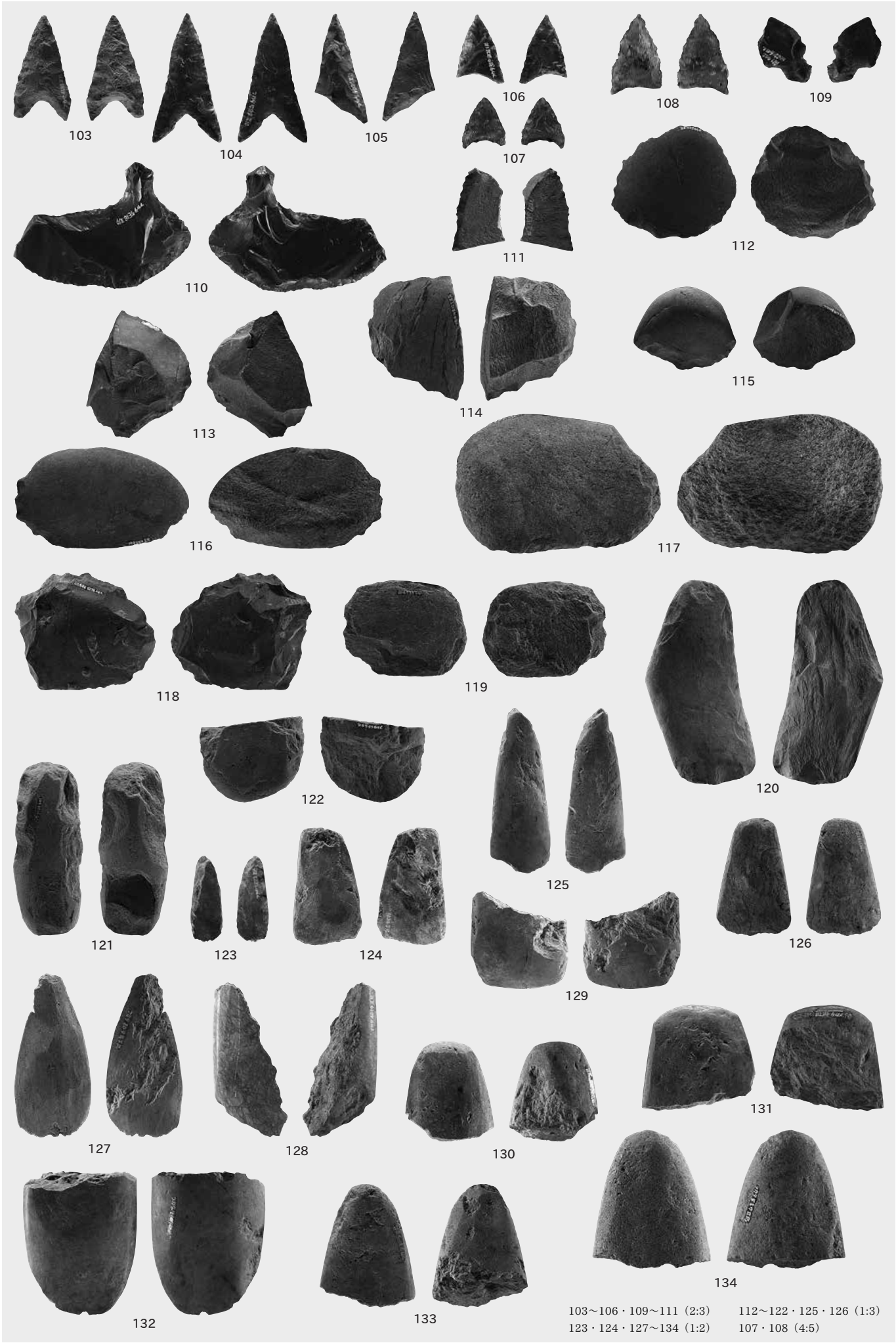
平成19年調査SD5南端土層断面 北から

平成19年調査SD5南側延伸状況 北西から


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
50

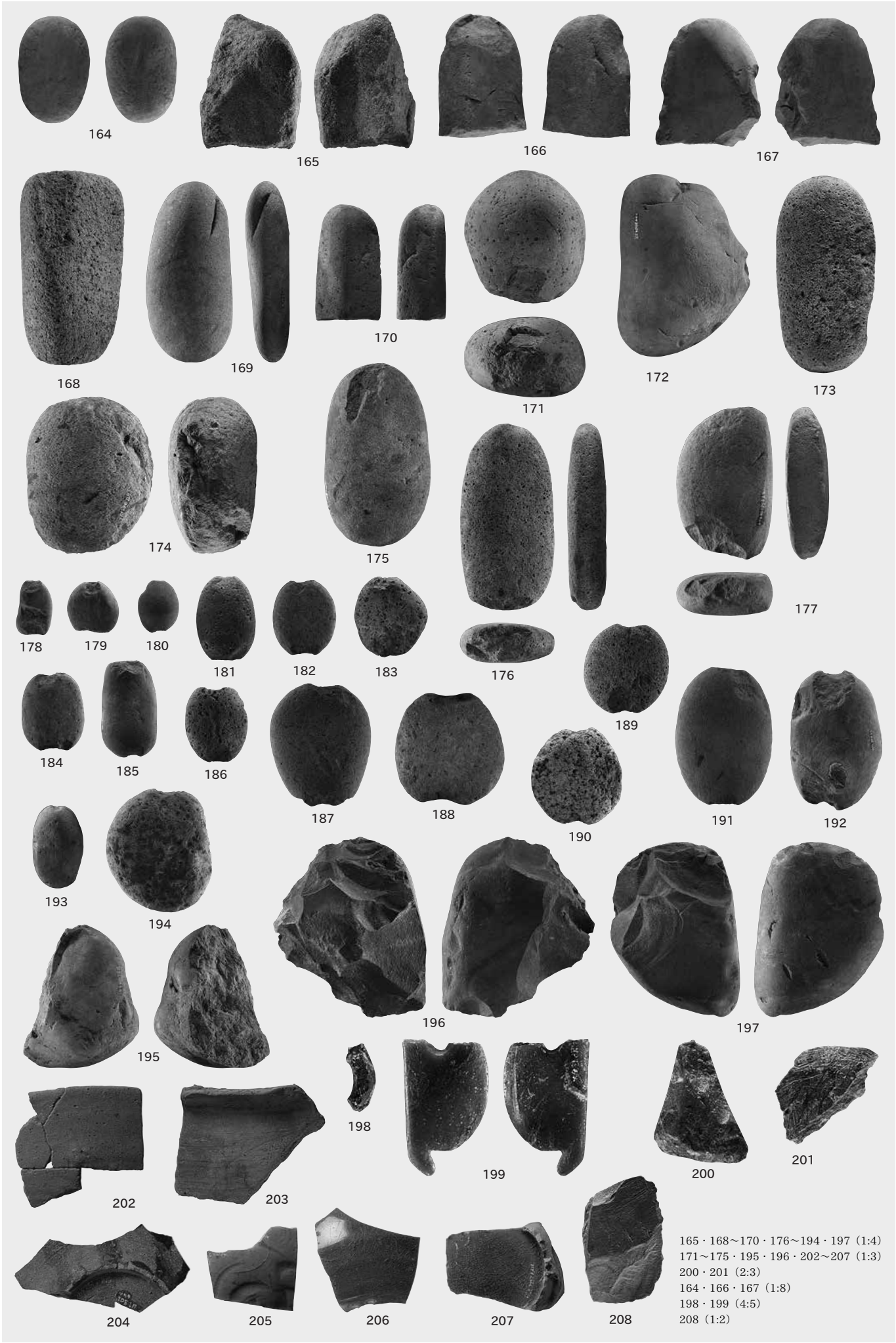
1～50（1:2）


47
48
49
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
47（1:3）
47以外（1:2）



103～106・109～111（2:3）　112～122・125・126（1:3）
123・124・127～134（1:2）　107・108（4:5）

135～157（1:3）
158～163（1:2）



165・168～170・176～194・197（1:4）
171～175・195・196・202～207（1:3）
200・201（2:3）
164・166・167（1:8）
198・199（4:5）
208（1:2）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ふかだにいせき
書　　名	深谷遺跡
副 書 名	北陸新幹線関係発掘調査報告書
巻　　次	XI
シ リ ー ズ 名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第198集
編 著 者 名	春日真実・畠野義昭・飯坂盛泰（埋文事業団）、 細井佳浩（株式会社吉田建設） パリノ・サーヴェイ株式会社、株式会社古環境研究所
編 集 機 関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所　在　地	〒956-0845　新潟県新潟市秋葉区金津93番地1　　TEL 0250（25）3981
発 行 機 関	新潟県教育委員会・財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
発 行 年 月 日	西暦2009（平成21）年2月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ふかだにいせき 深谷遺跡	にいがたけんいといがわし 新潟県糸魚川市 たぶせあざふかだに 田伏字深谷	15216	277	37度 03分 8秒	137度 54分 13秒	20060703～ 20061117・ 20070412～ 20070423	1,370㎡	北陸新幹線建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
深谷遺跡	散布地	縄文時代早期中葉～前期後葉	集石土坑1基、土坑21基、ピット165基、道状遺構2条、溝1条	縄文土器、石器（石鏃・石匙・打製石斧・磨製石斧・磨石類・石錘・砥石）、石製品（玦状耳飾・垂玉）	縄文時代早期中葉～前期となる可能性が考えられる道状遺構を検出

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第198集

北陸新幹線関係発掘調査報告書XI

深　谷　遺　跡

平成21年2月26日印刷
平成21年2月27日発行

発行・編集　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市中央区新光町4番地1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新潟市秋葉区金津93番地1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社　ハイングラフ
〒950-2022　新潟市西区小針1丁目11番8号
電話　025（233）0321
FAX　025（233）0322

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第198集　深谷遺跡正誤表

頁	行	誤	正
7	8行	主なグリッド交点の旧測地系の・・・	主なグリッド交点の世界測地系の・・・
7		第1表　主要グリッドの座標（旧測地）	第１表　主要グリッドの座標（世界測地）
10	28行	滑石製垂飾（図版４-199）	滑石製垂飾（図版14-199）
24	７行	FT-IRスペクトルを図１に示す	FT-IRスペクトルを図11に示す